

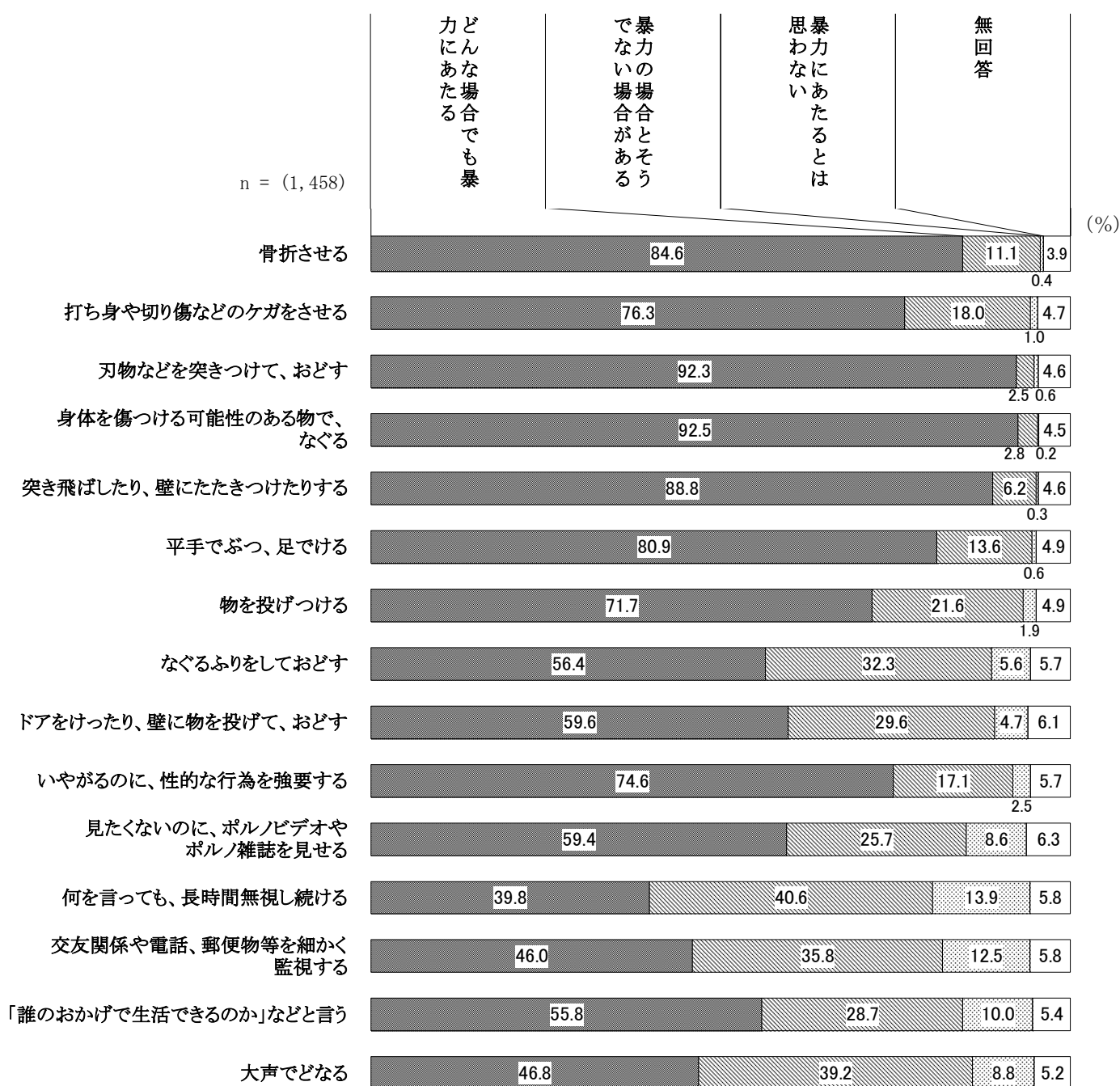
5. 女性に対する暴力について

(1) 夫婦間の暴力と認識される行為

◎ 【何を言っても、長時間無視し続ける】【交友関係や電話、郵便物等を細かく監視する】については、暴力であるという認識が低い

問17 次のようなことが夫婦（事実婚や別居中を含む）の間で行われた場合、それを暴力であると思いますか。（それぞれについて該当する「1～3」に○を1つ）

図表5-1 夫婦間の暴力と認識される行為



15項目の行為が“夫婦間”で行われた場合、「どんな場合でも暴力にあたる」と考える人が多いのは、【身体を傷つける可能性のある物で、なぐる】(92.5%)、【刃物などを突きつけて、おどす】(92.3%)、

第IV章 調査の結果

【突き飛ばしたり、壁にたたきつけたりする】(88.8%)、【骨折させる】(84.6%)、【平手でぶつ、足でける】(80.9%)で、8割以上が“暴力にあたる”と認識している。

これに対し、「暴力にあたるとは思わない」と考える人が比較的多かったのは、【何を言っても、長時間無視し続ける】(13.9%)、【交友関係や電話、郵便物等を細かく監視する】(12.5%)、【「誰のおかげで生活できるのか」などと言う】(10.0%)で、1割以上の人々が“暴力にあたる”という認識を持っていない。(図表5-1)

性別でみると、「どんな場合でも暴力にあたる」が、女性が男性を上回っている項目は【ドアをけつたり、壁に物を投げて、おどす】(女性64.4%、男性53.4%)、【大声でどなる】(女性51.7%、男性40.5%)でともに11ポイント、【「誰のおかげで生活できるのか」などと言う】(女性59.3%、男性51.4%)で7ポイントの差となっており、“暴力にあたる”という認識の差が大きくなっている。(図表5-2)

性/年齢別でみると、【骨折させる】を「どんな場合でも暴力にあたる」としたのは、女性では30～60歳代まででは8割を超えるが、20歳代と70歳以上では7割台前半と低い。男性では40歳代で9割を超えて高く、70歳代で7割台前半と低い。

【打ち身や切り傷などのケガをさせる】を「どんな場合でも暴力にあたる」としたのは、女性では40～50歳代では8割を超えるが、20歳代と70歳以上では約6割と低くなっている。男性では70歳以上で7割近くと低い。

【刃物などを突きつけて、おどす】を「どんな場合でも暴力にあたる」としたのは、男女ともに70歳以上を除いて9割を超えている。

【身体を傷つける可能性のある物で、なぐる】を「どんな場合でも暴力にあたる」としたのは、男女ともに70歳以上を除いて9割を超えている。

【突き飛ばしたり、壁にたたきつけたりする】を「どんな場合でも暴力にあたる」としたのは、女性では30～60歳代で9割を超えていて、20歳代で9割弱、70歳以上では7割強である。男性では20歳代、40歳代、60歳代で9割を超えている。

【平手でぶつ、足でける】を「どんな場合でも暴力にあたる」としたのは、女性では40歳代で9割強だが、70歳以上では6割台半ばである。男性では40～60歳代で8割を超えている。

【いやがるのに、性的な行為を強要する】を「どんな場合でも暴力にあたる」としたのは、男女ともに20～40歳代で8割を超えているが、70歳以上では5割台にとどまっている。

それに対して、【何を言っても、長時間無視し続ける】を「暴力にあたるとは思わない」としたのは、女性では70歳以上で2割を超え、60歳代でも1割台半ばを超えている。男性では、70歳以上で2割台半ばとなっているが、20～40歳代では1割に満たない。

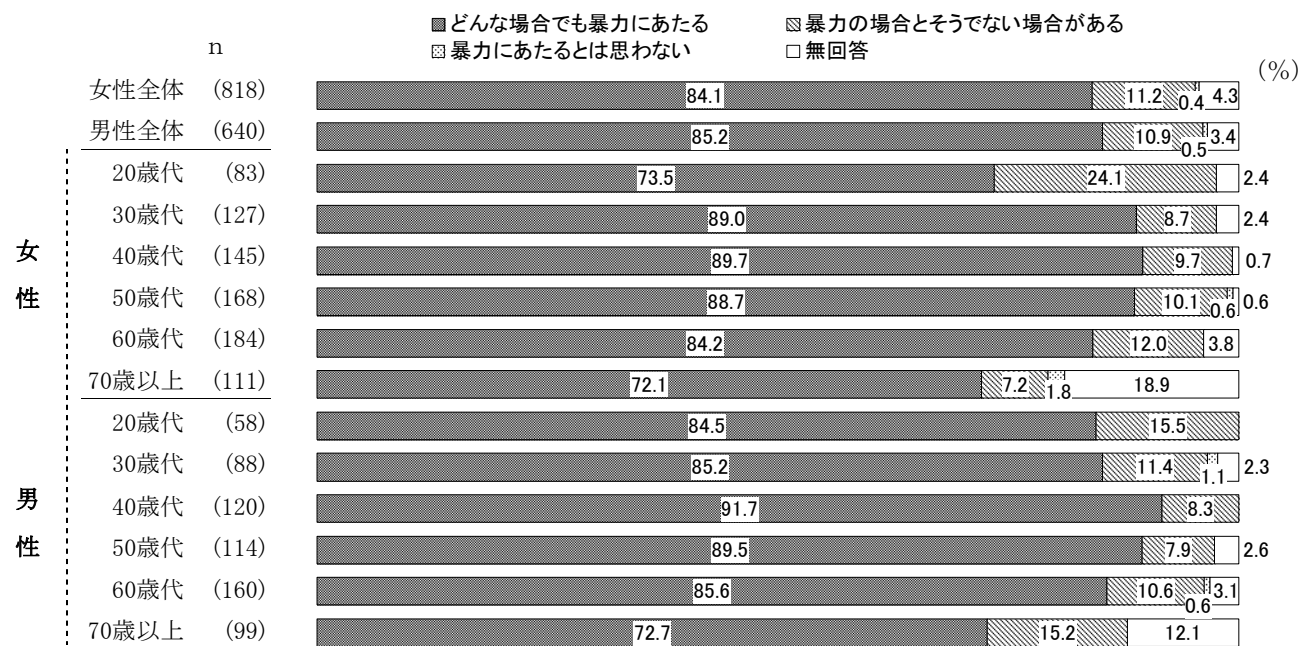
【交友関係や電話、郵便物等を細かく監視する】を「暴力にあたるとは思わない」としたのは、女性の40歳代で1割台半ばである。男性では20歳代で2割弱、70歳以上と50歳代でも比較的多い。

【「誰のおかげで生活できるのか」などと言う】を「暴力にあたるとは思わない」としたのは、男性の20歳代と70歳以上で1割台半ばを超え、30歳代で1割台半ば近くとなっているが、40～60歳代で1割に満たない。

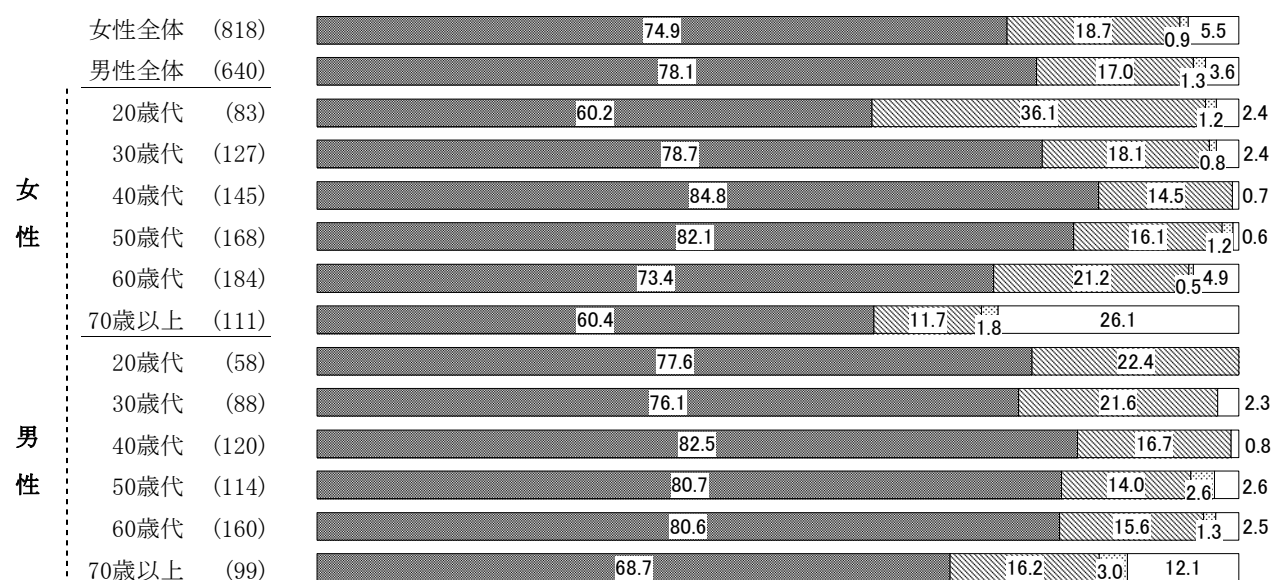
【大声でどなる】を「暴力にあたるとは思わない」としたのは、男性では70歳以上で1割台半ばとなっている。(図表5-2)

図表5-2 夫婦間の暴力と認識される行為（性別・性／年齢別）

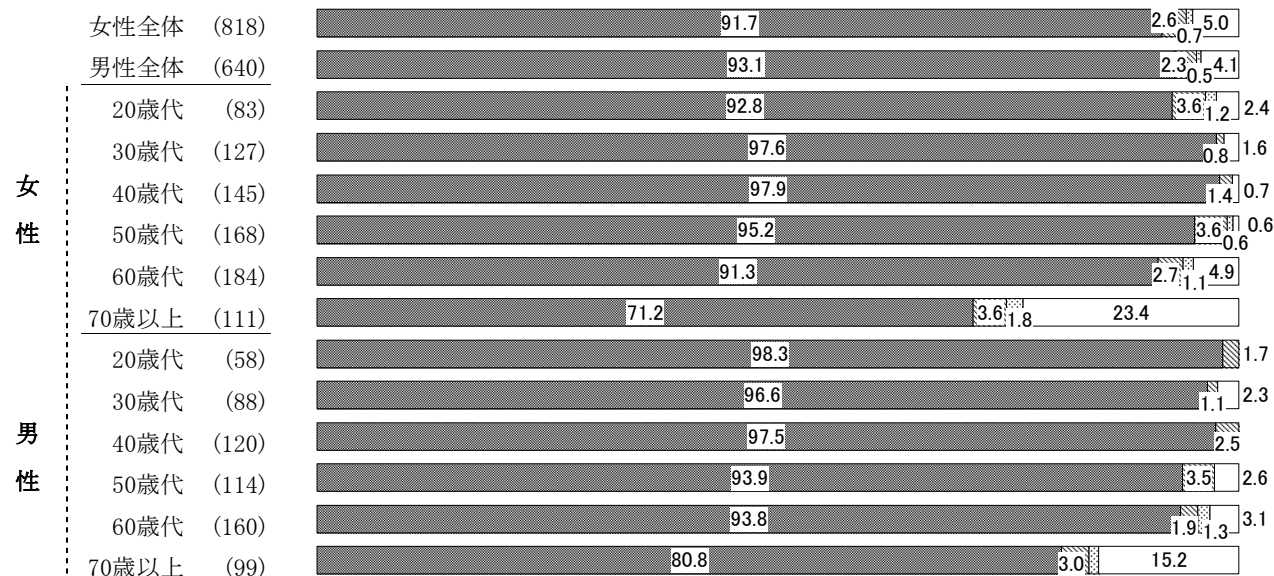
□骨折させる



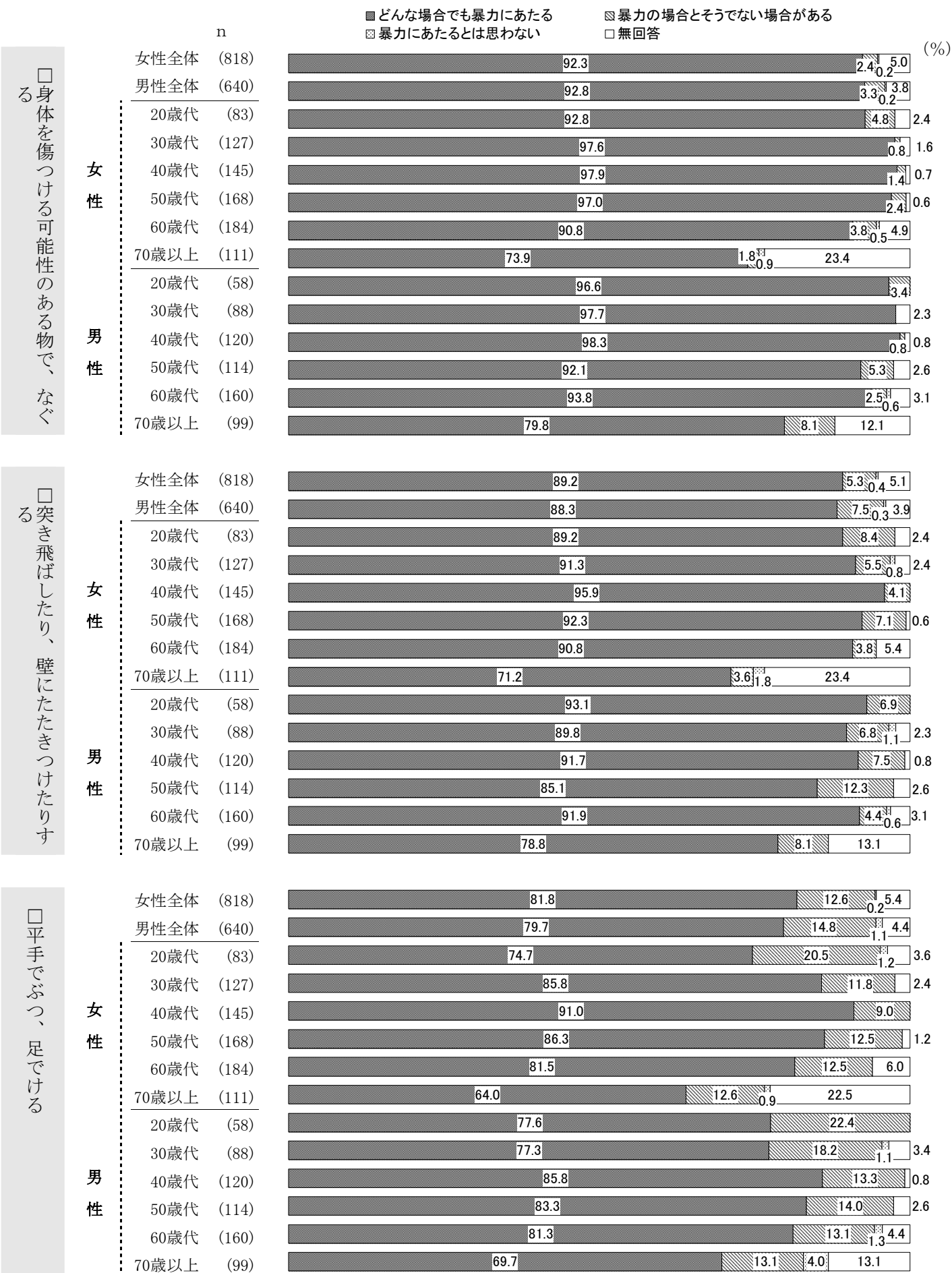
□打ち身や切り傷などのケガをさせる



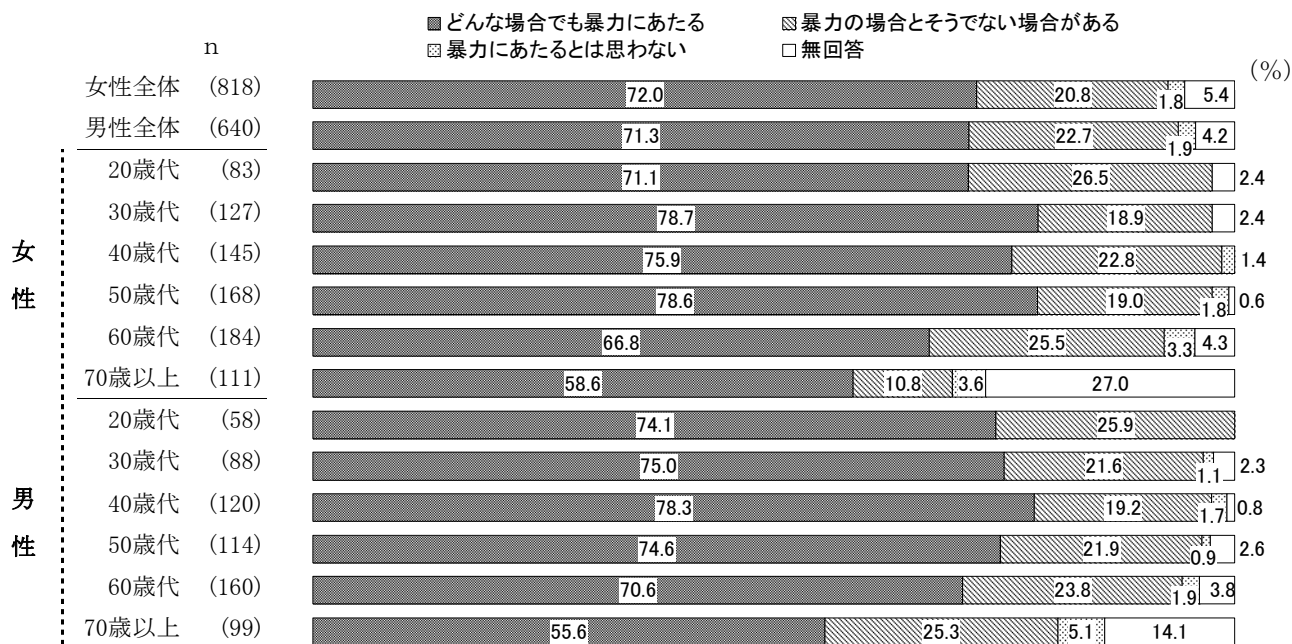
□刃物などを突きつけて、おどす



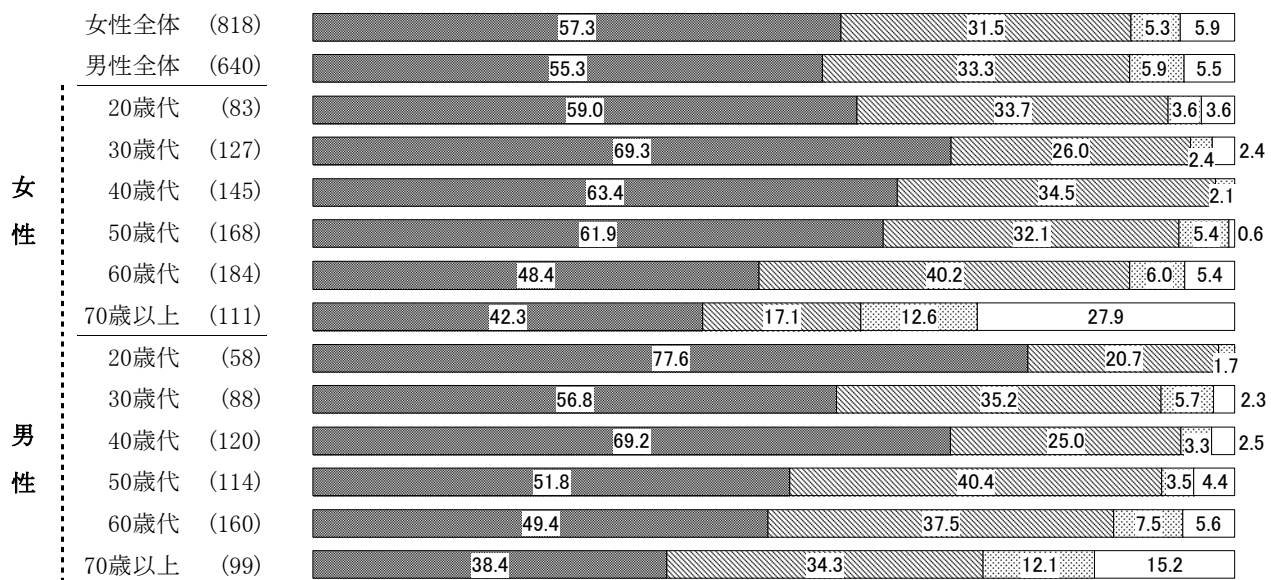
第IV章 調査の結果



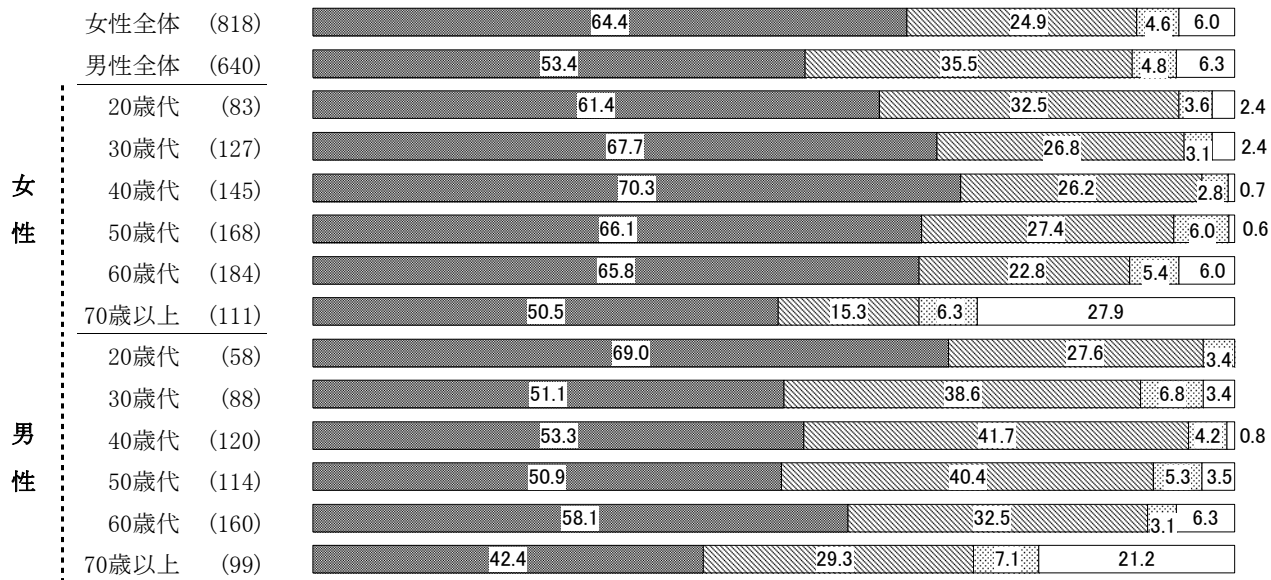
□物を投げつける



□なぐるふりをしておどす

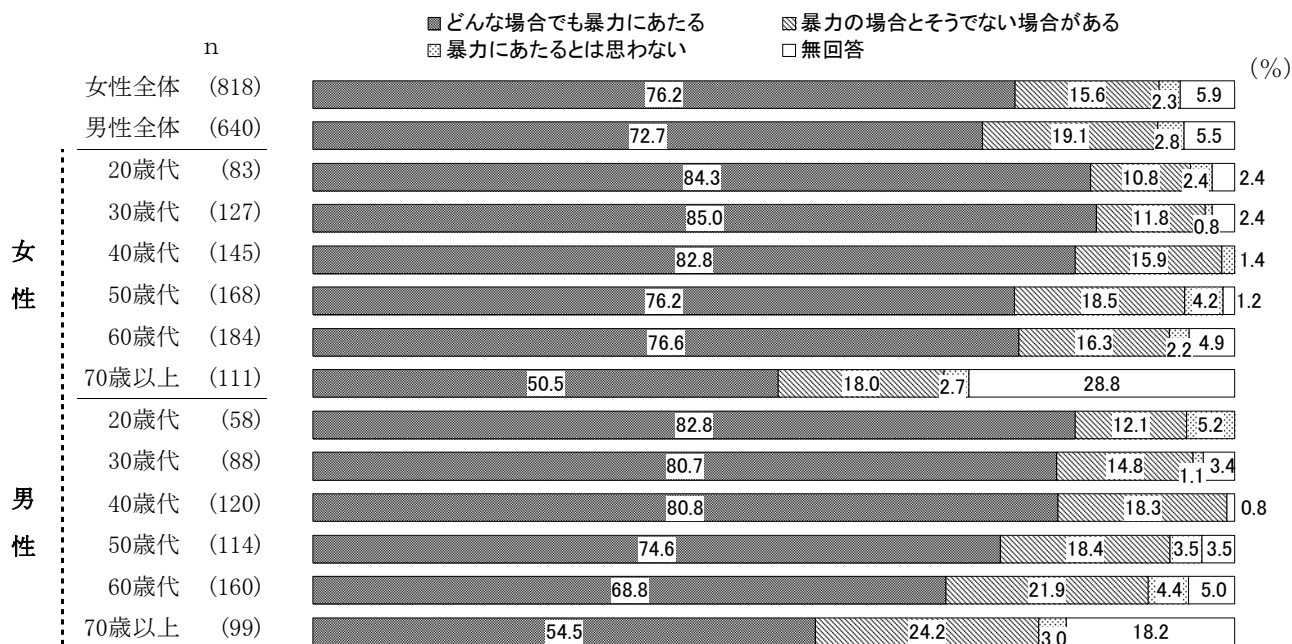


□ドアをけったり、壁に物を投げて、おどす

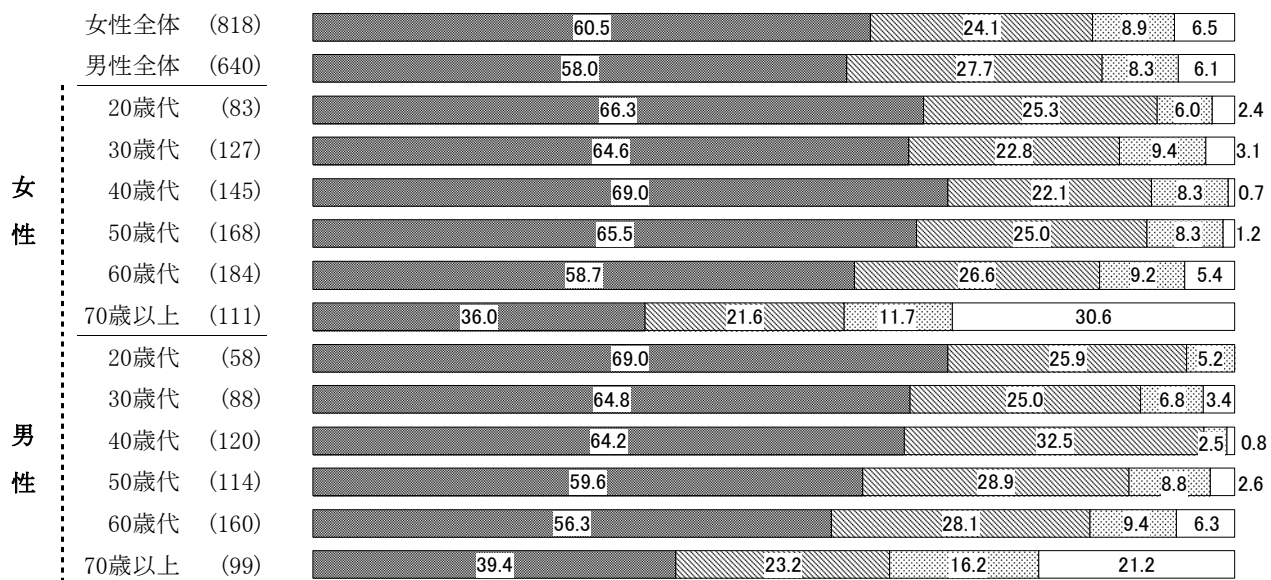


第IV章 調査の結果

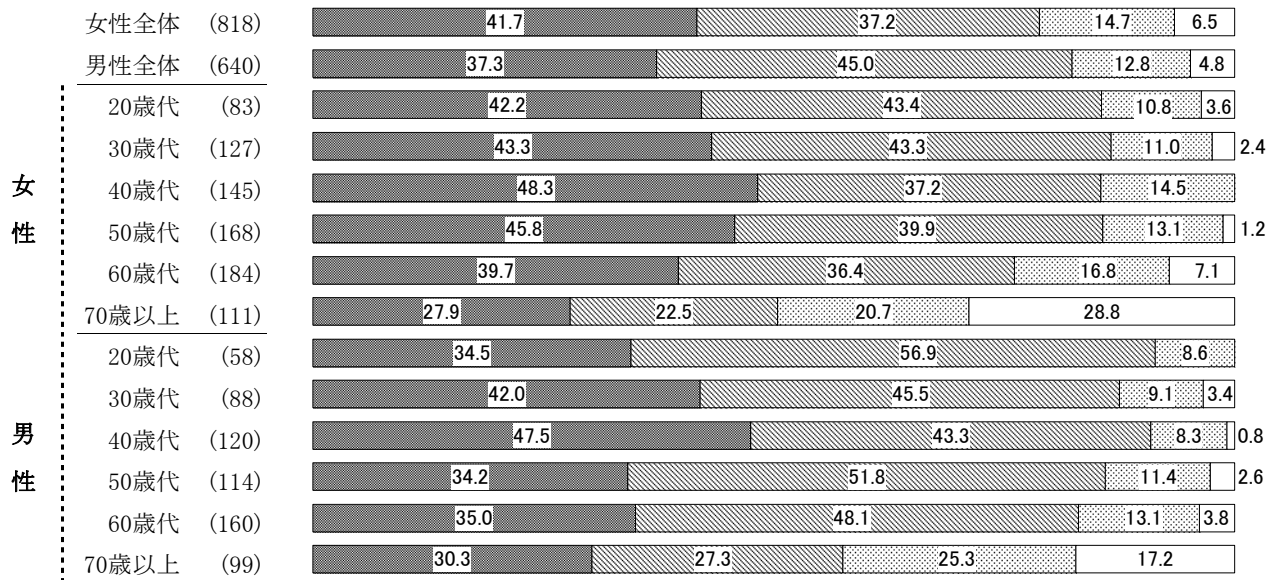
□ いやがるのに、性的な行為を強要する



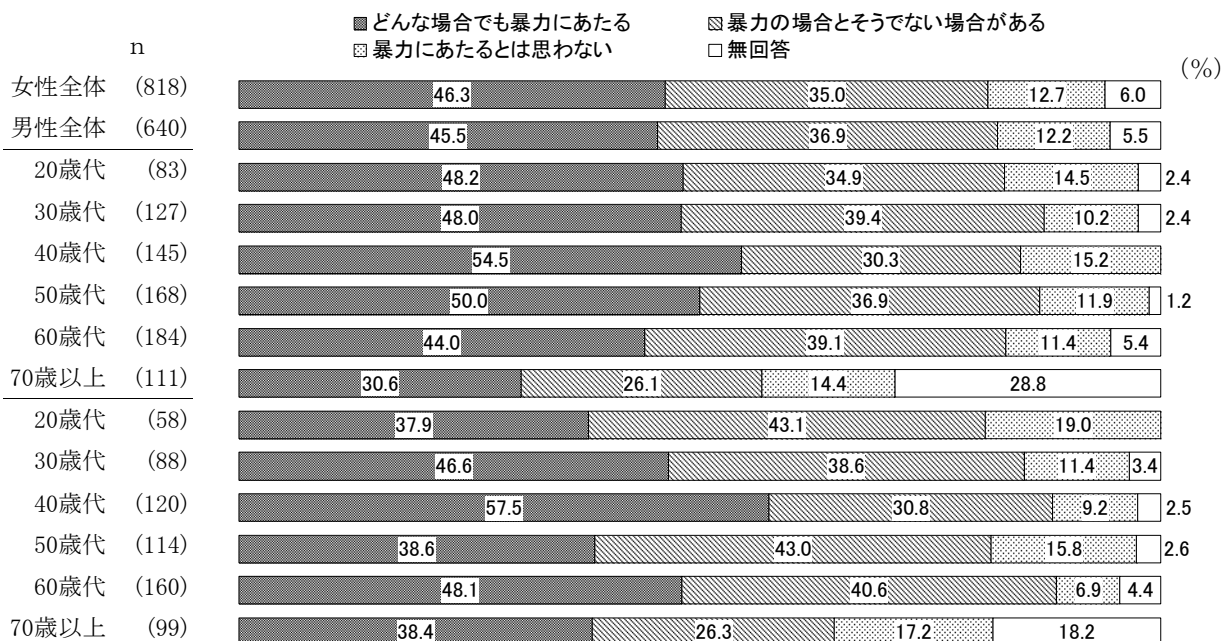
□ 見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる



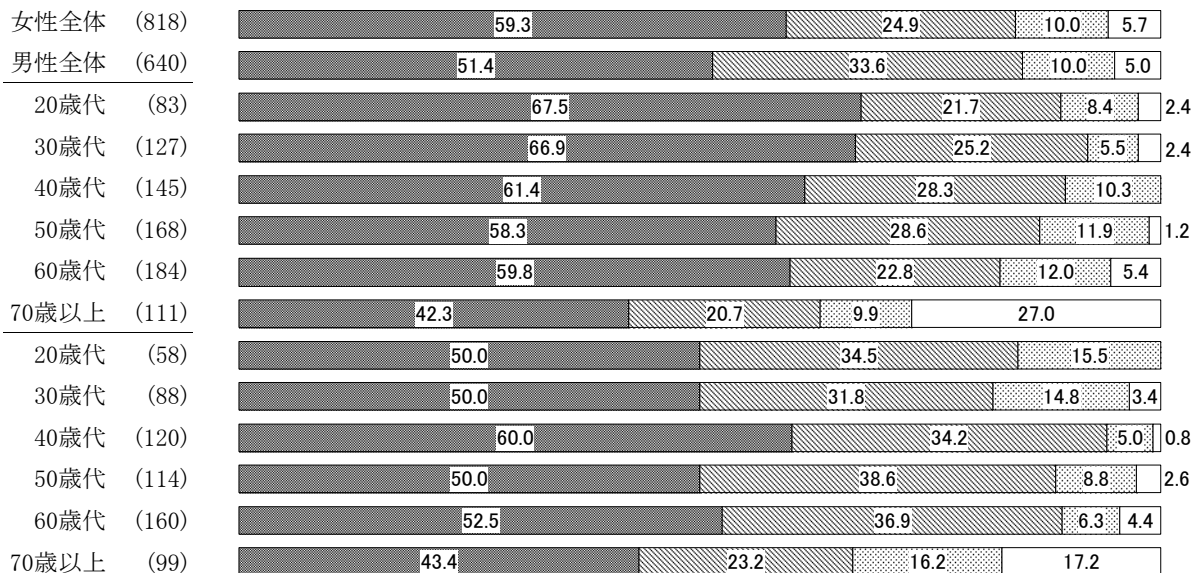
□ 何を言っても、長時間無視し続ける



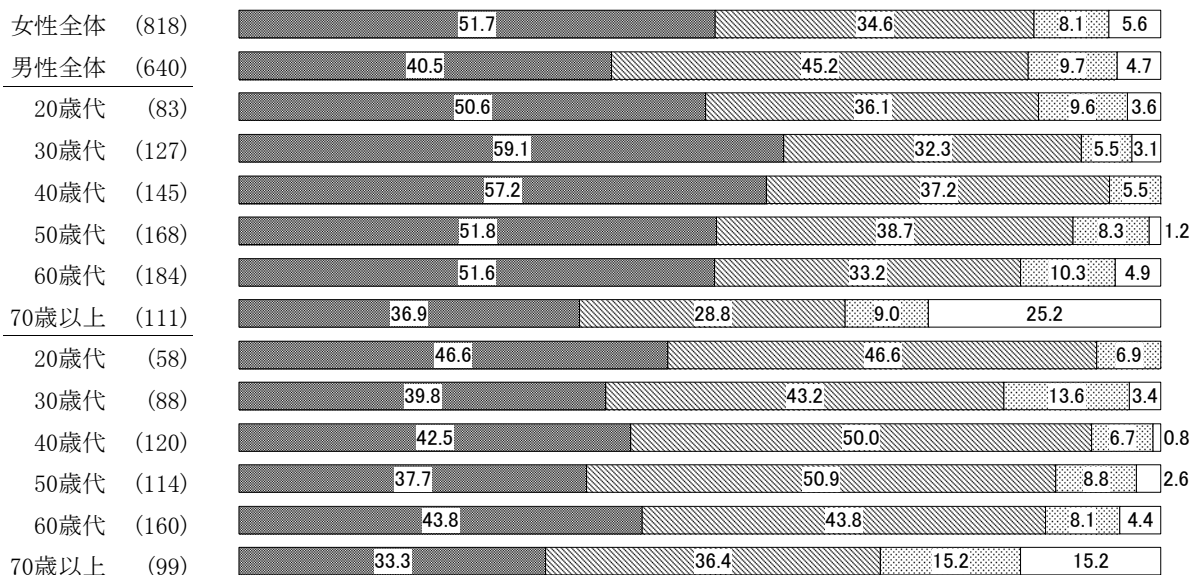
□ 交友関係や電話、郵便物等を細かく監視する



□ 「誰のおかげで生活できるのか」などと言う



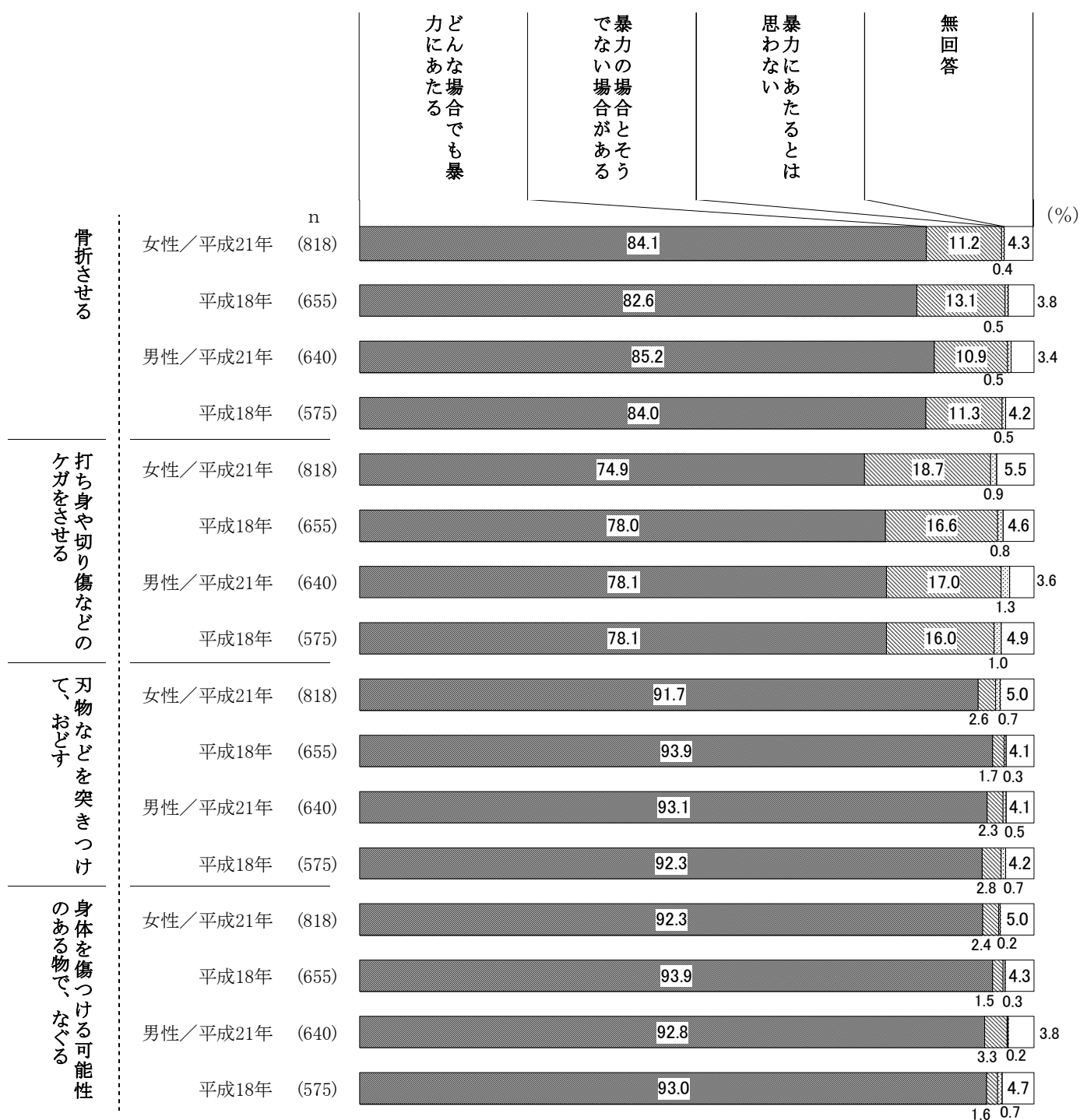
□ 大声でどなる

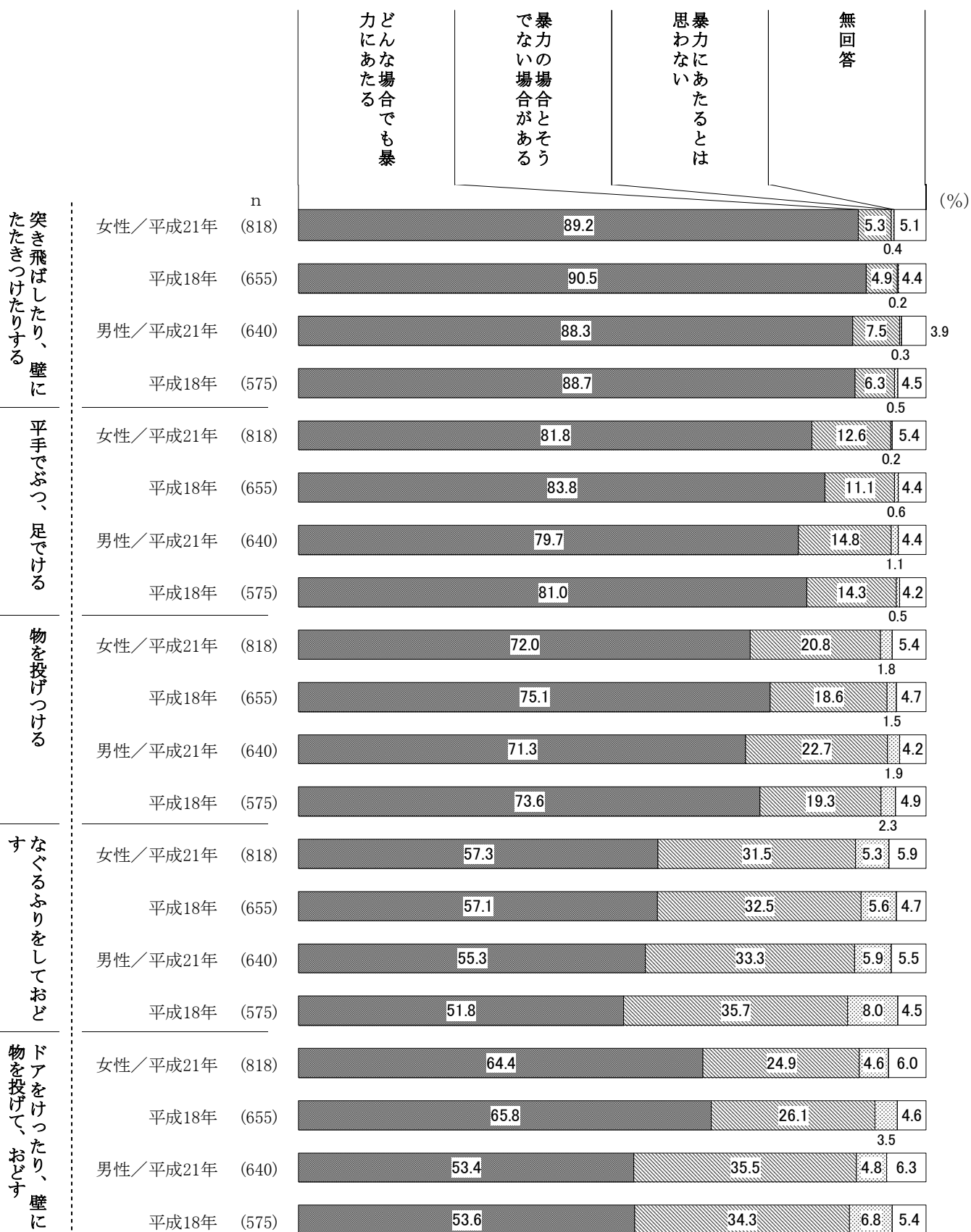


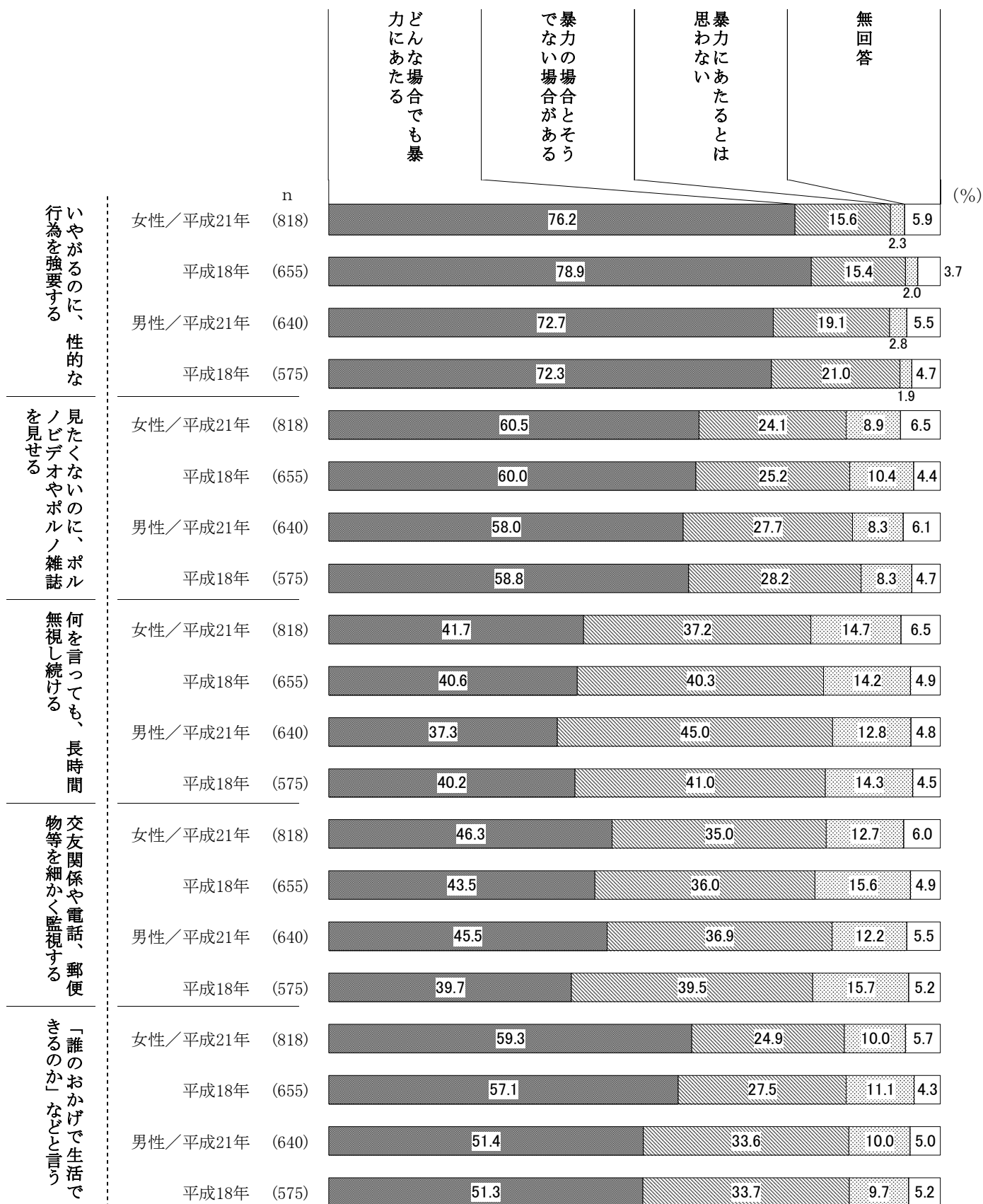
第IV章 調査の結果

平成18年調査と比較すると、「どんな場合でも暴力にあたる」の割合が減少している項目がいくつかある。【身体を傷つける可能性のある物で、なぐる】、【突き飛ばしたり、壁にたたきつけたりする】、【平手でぶつ、足でける】、【物を投げつける】、【ドアをけったり、壁に物を投げて、おどす】は男女とも、【打ち身や切り傷などのケガをさせる】などで女性での割合が、【見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる】などで男性での割合が、それぞれ減少している。これに対して「暴力にあたるとは思わない」の割合は【打ち身や切り傷などのケガをさせる】、【いやがるのに、性的な行為を強要する】で男女とも、【刃物などを突きつけて、おどす】などで女性での割合が、【平手でぶつ、足でける】などで男性の割合が、それぞれ増加している。(図表5-3)

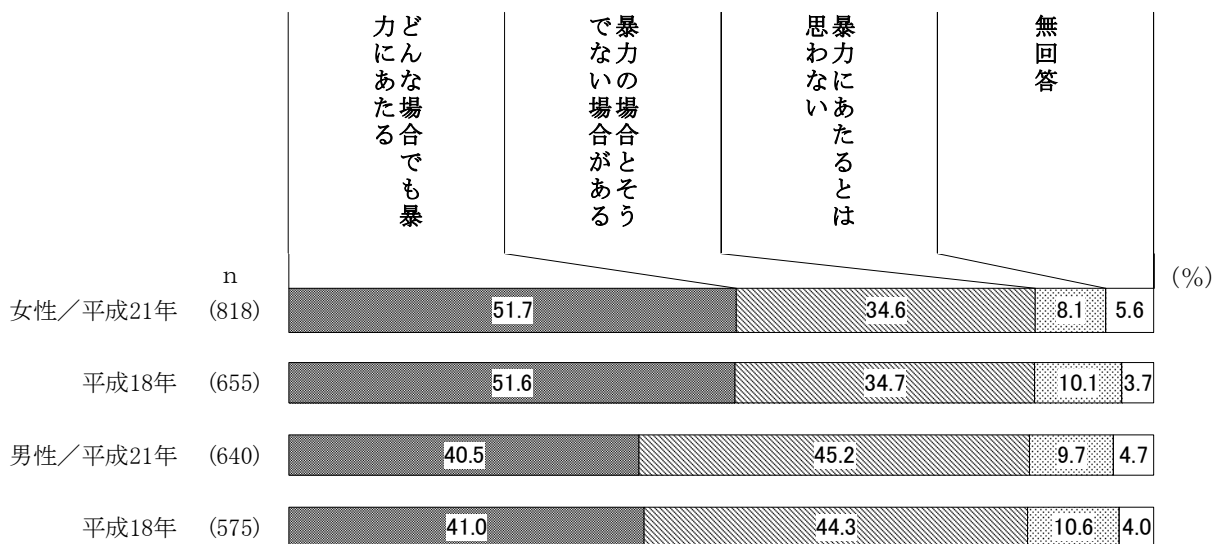
図表5-3 夫婦間の暴力と認識される行為（平成18年調査との比較）





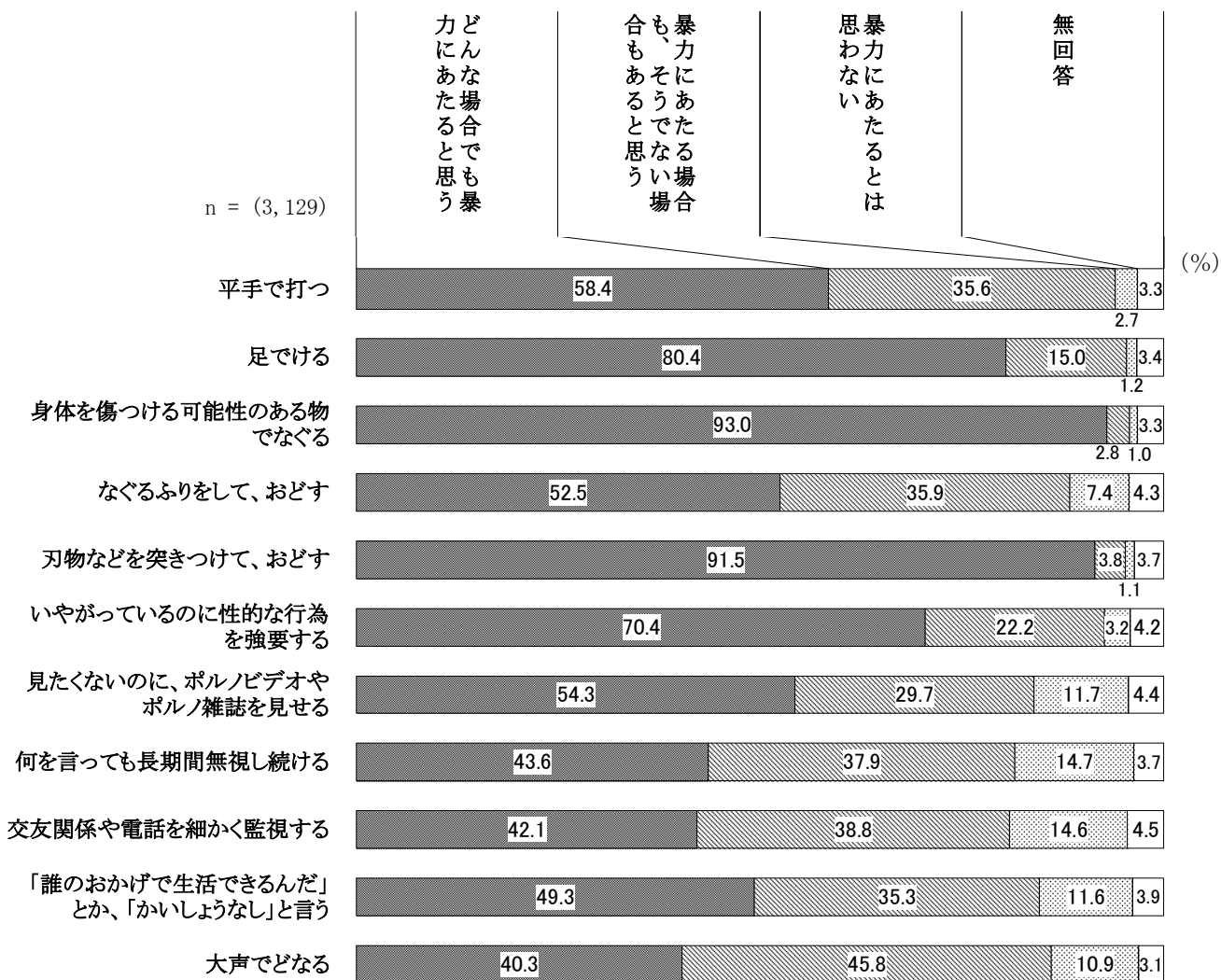


大声でどなる



参考 内閣府「男女間における暴力に関する調査」(平成20年度)の結果

夫婦間での行為における暴力としての認識



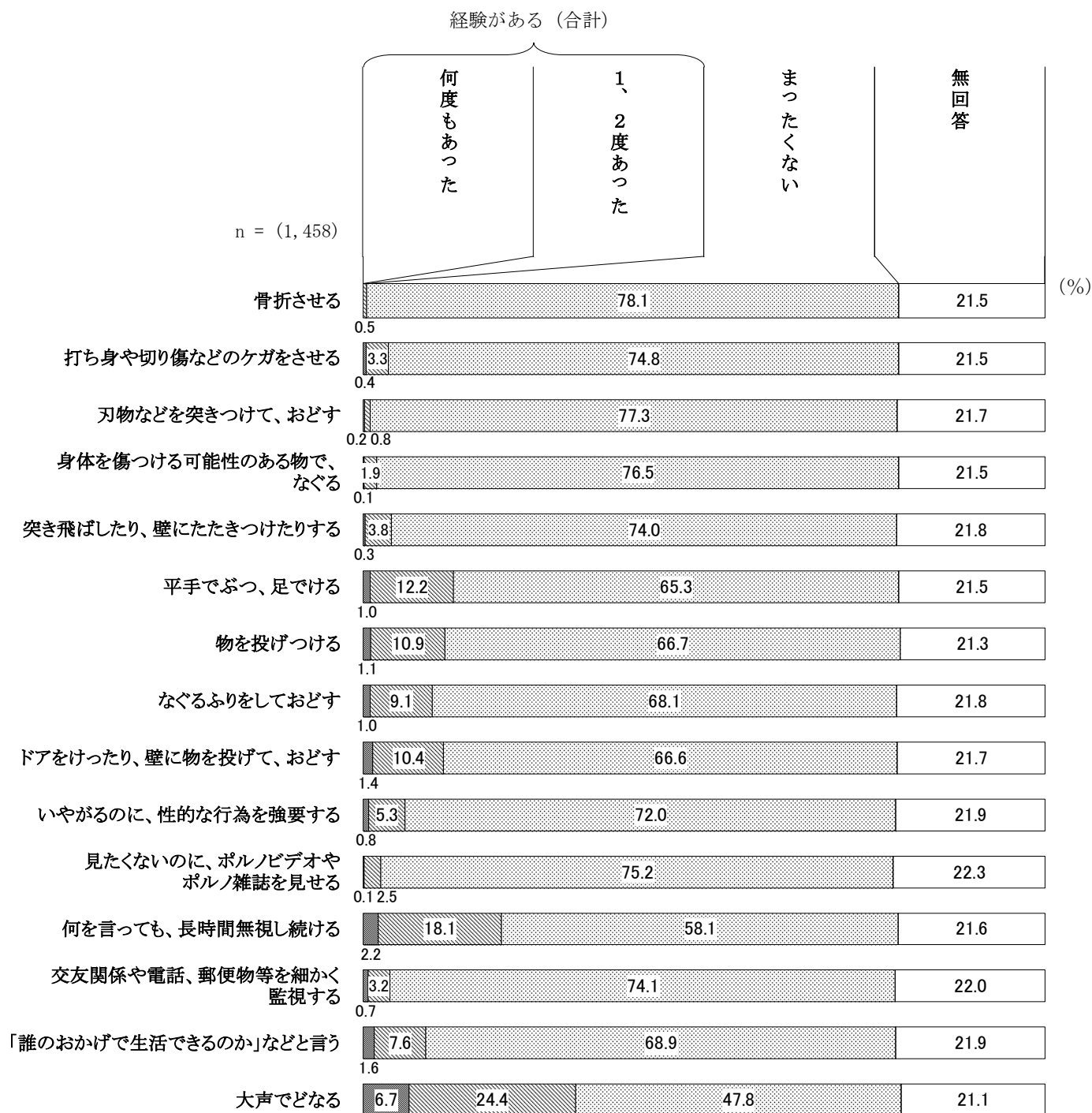
(2) 配偶者等への加害経験の有無

◎ 3割の人が【大声でどなる】、2割の人が【何を言っても、長時間無視し続ける】という経験がある

問18から問19-8は、現在配偶者がいる方、または過去に配偶者がいた方にうかがいます。
 (ここでの「配偶者」には、婚姻届を出していない事実婚や別居中の夫婦、元配偶者(離別・死別した相手、事実婚を解消した相手)も含まれます。)

問18 これまでに、あなたの配偶者に対して次のような行為をしたことがありますか。
 (それぞれについて該当する「1~3」に○を1つ)

図表5-4 配偶者等への加害経験の有無



配偶者・パートナーがいる（いた）方について、15項目の行為をした経験を聞いたところ、「何度もあった」と「1、2度あった」を合わせた《経験がある（合計）》では、【大声でどなる】（31.1%）、【何を言っても、長時間無視し続ける】（20.3%）が多くなっている。（図表5-4）

性別でみると、《経験がある（合計）》の割合は、【なぐるふりをしておどす】（女性7.2%、男性13.7%）で6ポイント、【ドアをけったり、壁に物を投げて、おどす】（女性7.0%、男性17.7%）で10ポイント、【大声でどなる】（女性24.7%、男性39.4%）で14ポイント等で、それぞれ男性が女性を上回っている。（図表5-5）

性／年齢別でみると、【平手でぶつ、足でける】を《経験がある（合計）》としたのは、男性では50～60歳代で2割を超えている。

【物を投げつける】を《経験がある（合計）》としたのは、男女ともに50～60歳代で1割台半ばを超えている。

【なぐるふりをしておどす】を《経験がある（合計）》としたのは、女性では60歳代と70歳以上で1割を超えていて、男性では50歳代で2割強、60歳代で2割弱となっている。

【ドアをけったり、壁に物を投げて、おどす】を《経験がある（合計）》としたのは、女性では40歳代で1割を超えている。男性では40歳代で3割となっているほか、30歳代で2割強である。

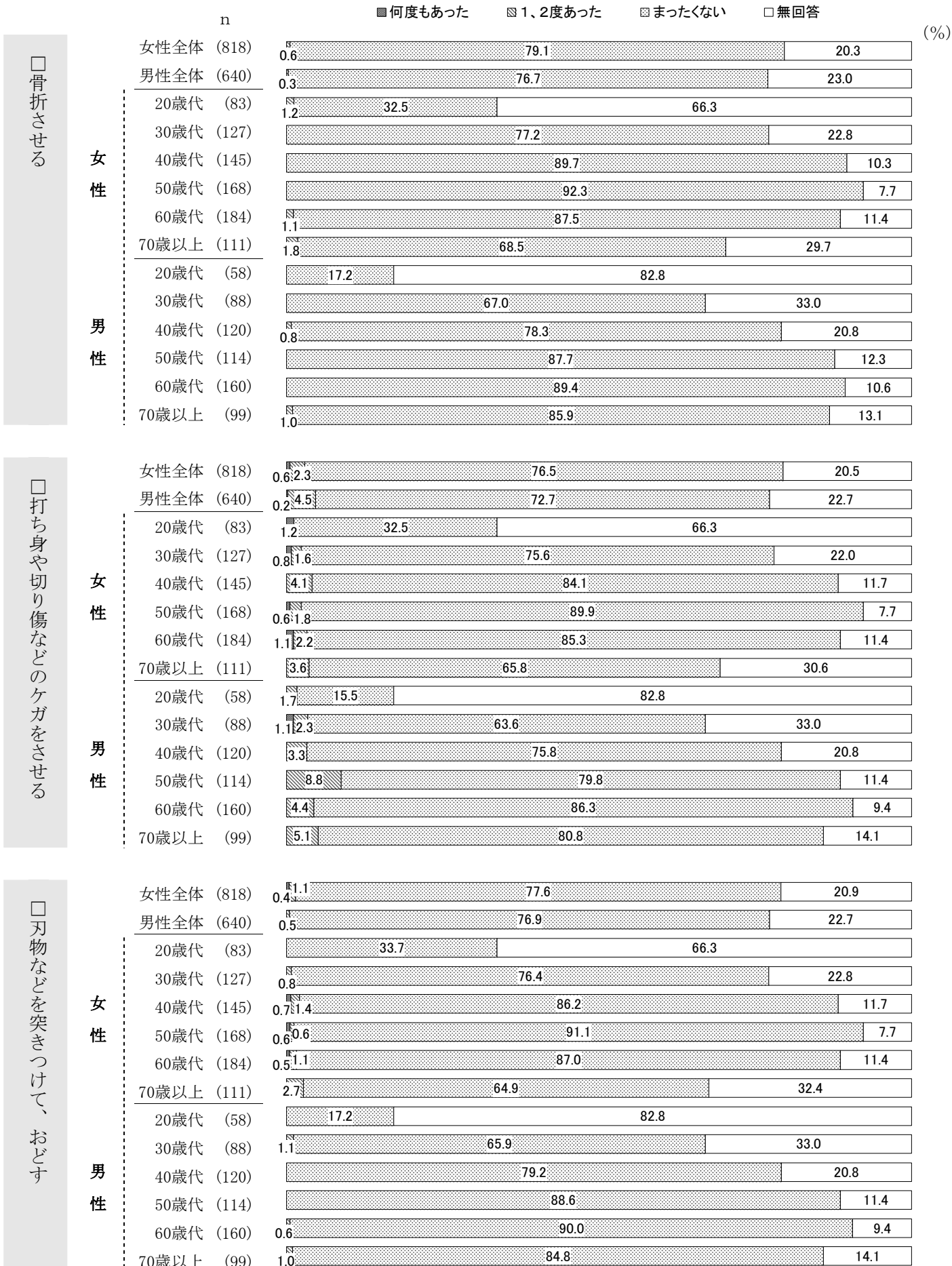
【いやがるのに、性的な行為を強要する】を《経験がある（合計）》としたのは、男性では60歳代で1割台半ばである。

【何を言っても、長時間無視し続ける】を《経験がある（合計）》としたのは、女性では50歳代から70歳以上で2割を超えている。男性では60歳代で3割を超えていて、50歳代で3割近く、40歳代と70歳以上でも2割を超えている。

【「誰のおかげで生活できるのか」などと言う】を《経験がある（合計）》としたのは、男性では、50～60歳代で1割台半ばを超え、女性の60歳代でも1割を超えている。

【大声でどなる】を《経験がある（合計）》としたのは、女性では40歳代で3割台半ばを超えている。男性では、60歳代で半数近く、40～50歳代でも4割を超えている。（図表5-5）

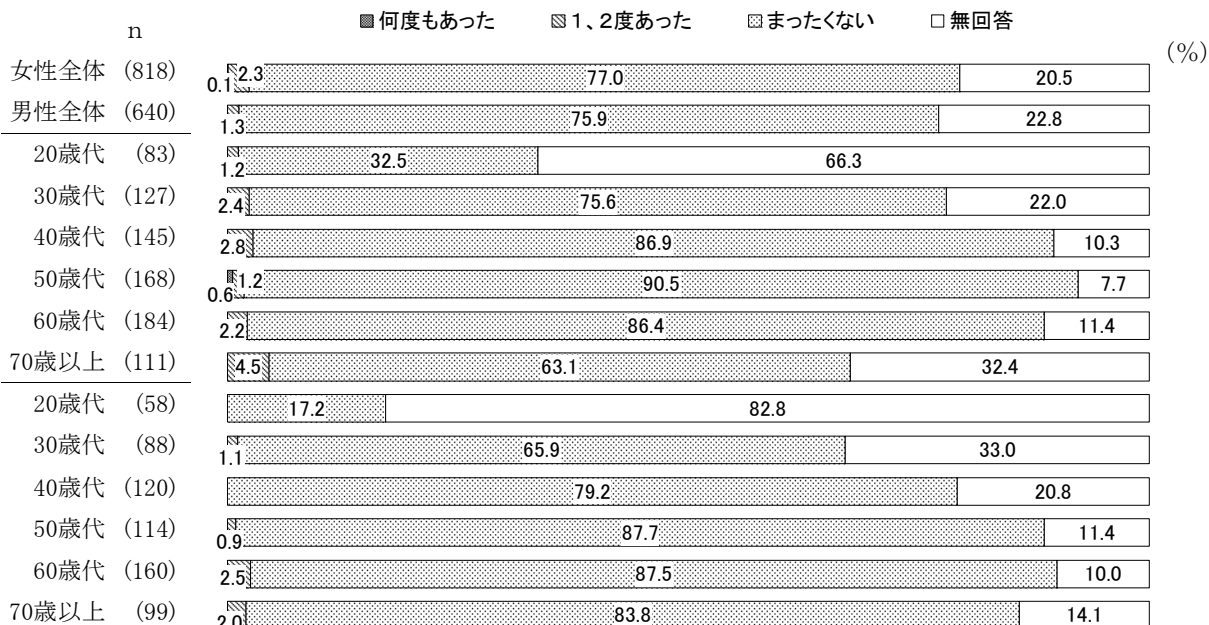
図表5-5 配偶者等への加害経験の有無（性別・性／年齢別）



□身体を傷つける可能性のある物で、なぐ

女性

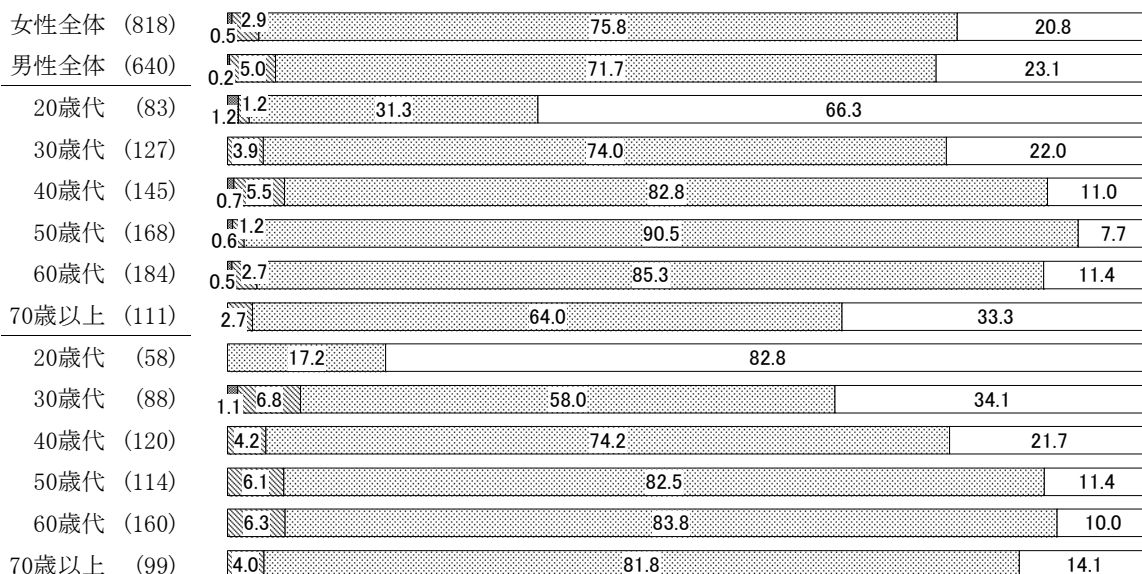
男性



□突き飛ばしたり、壁にたたきつけたりす

女性

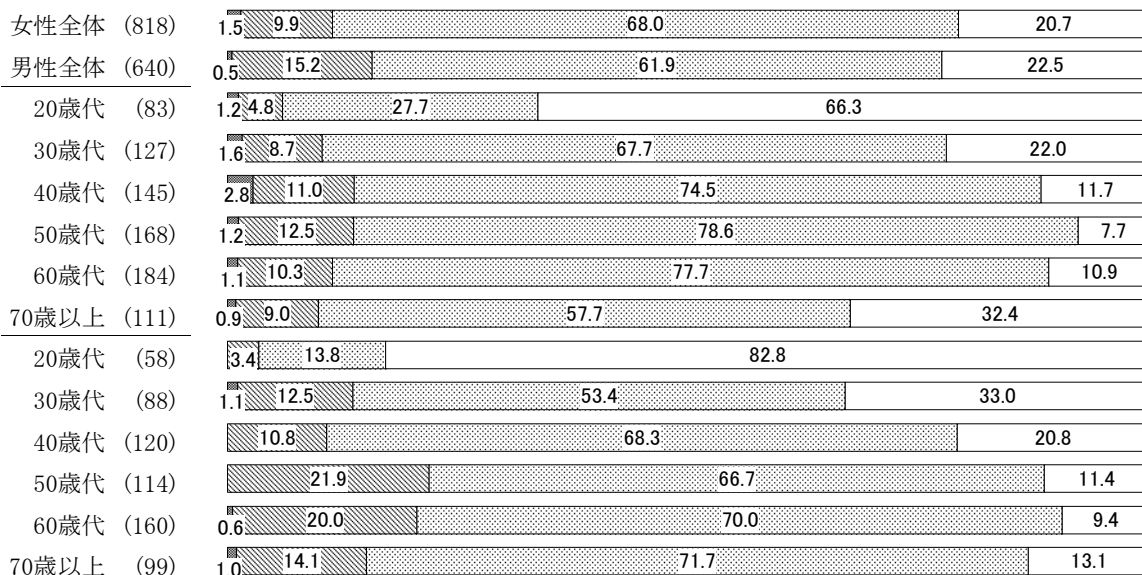
男性



□平手でぶつ、足でける

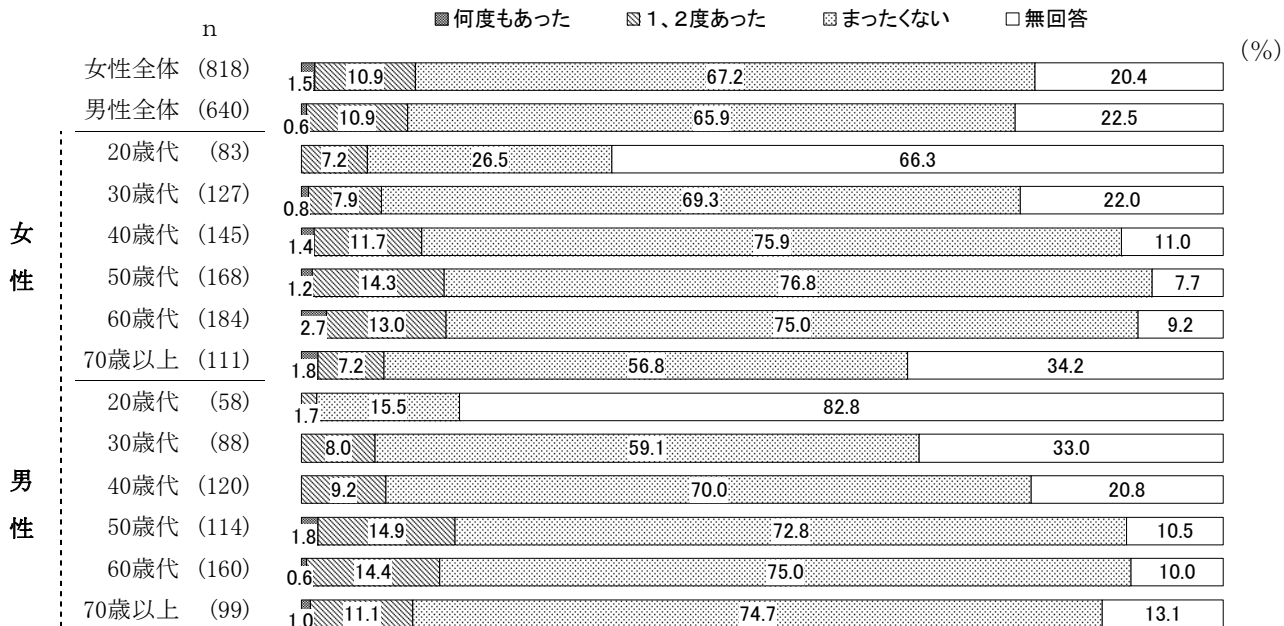
女性

男性

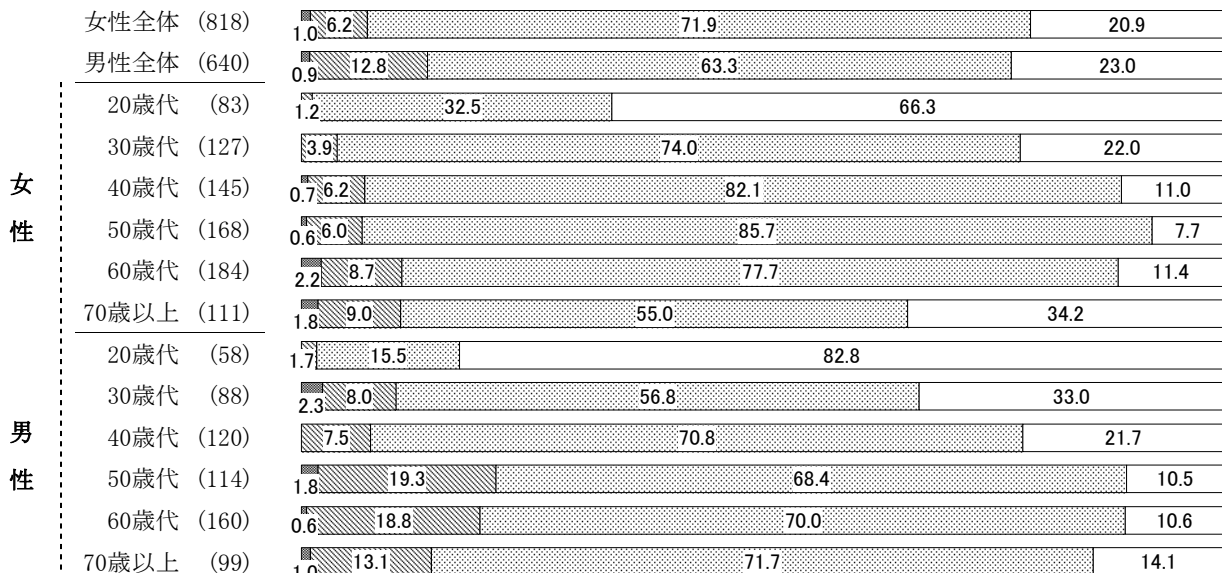


第IV章 調査の結果

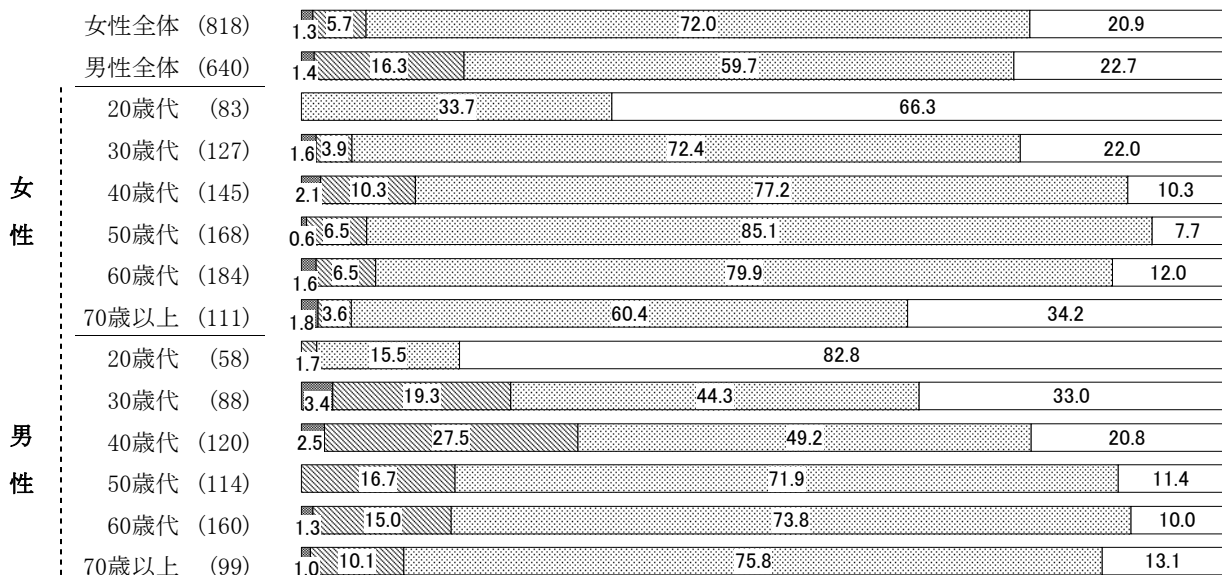
□物を投げつける



□なぐるふりをしておどす



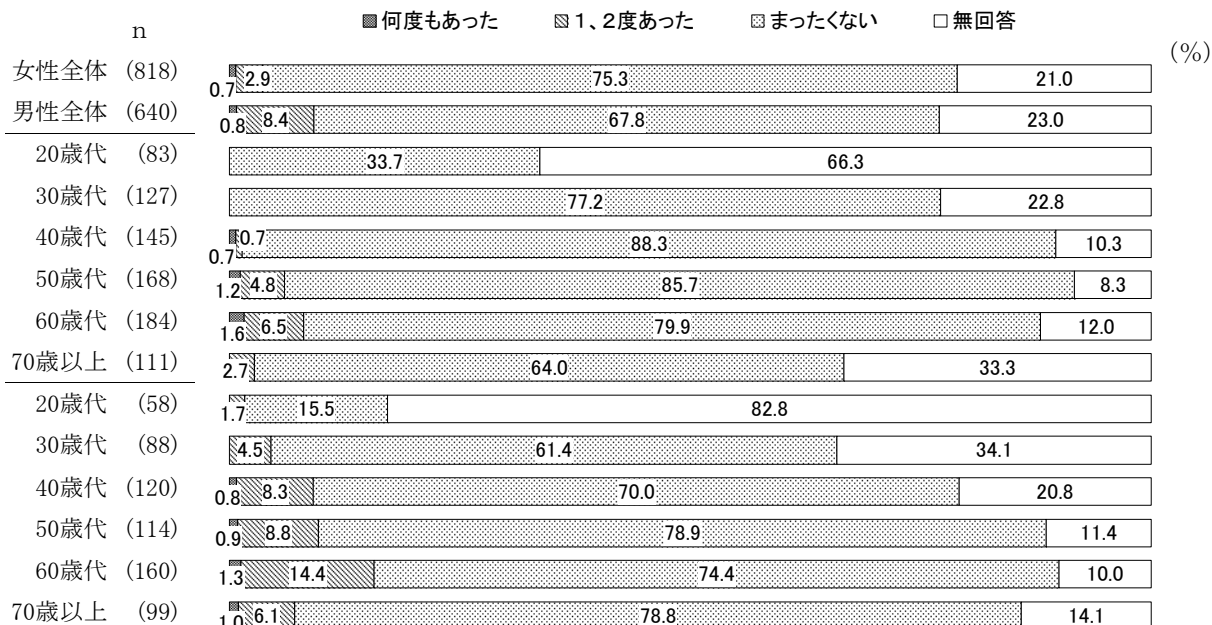
□ドアをけったり、壁に物を投げて、おどす



□いやがるのに、性的な行為を強要する

女性

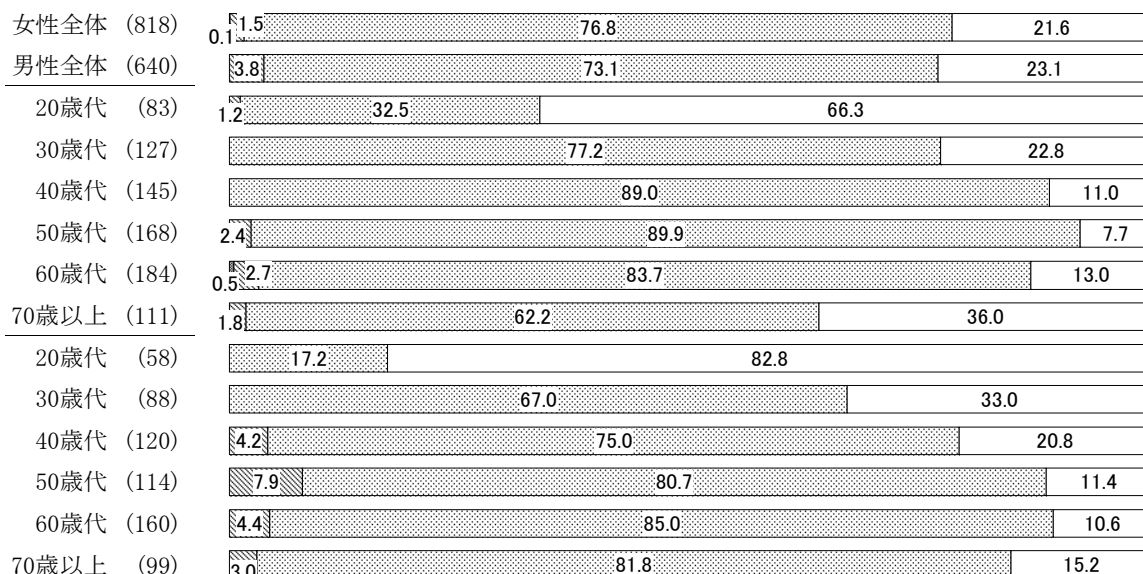
男性



□見たくないのに、ポルノビデオやポルノ雑誌を見せる

女性

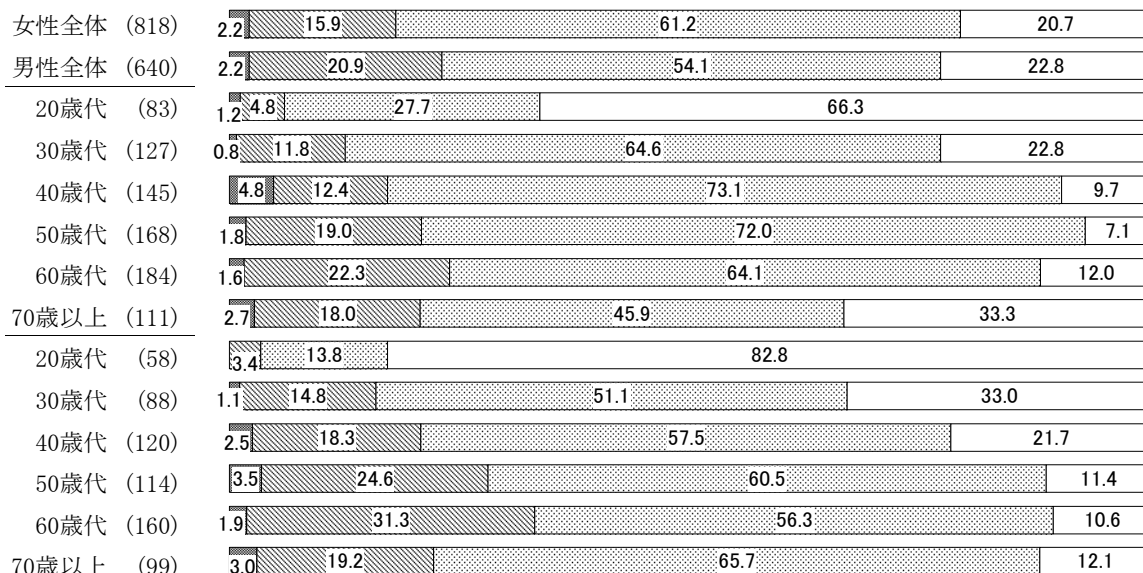
男性



□何を言っても、長時間無視し続ける

女性

男性

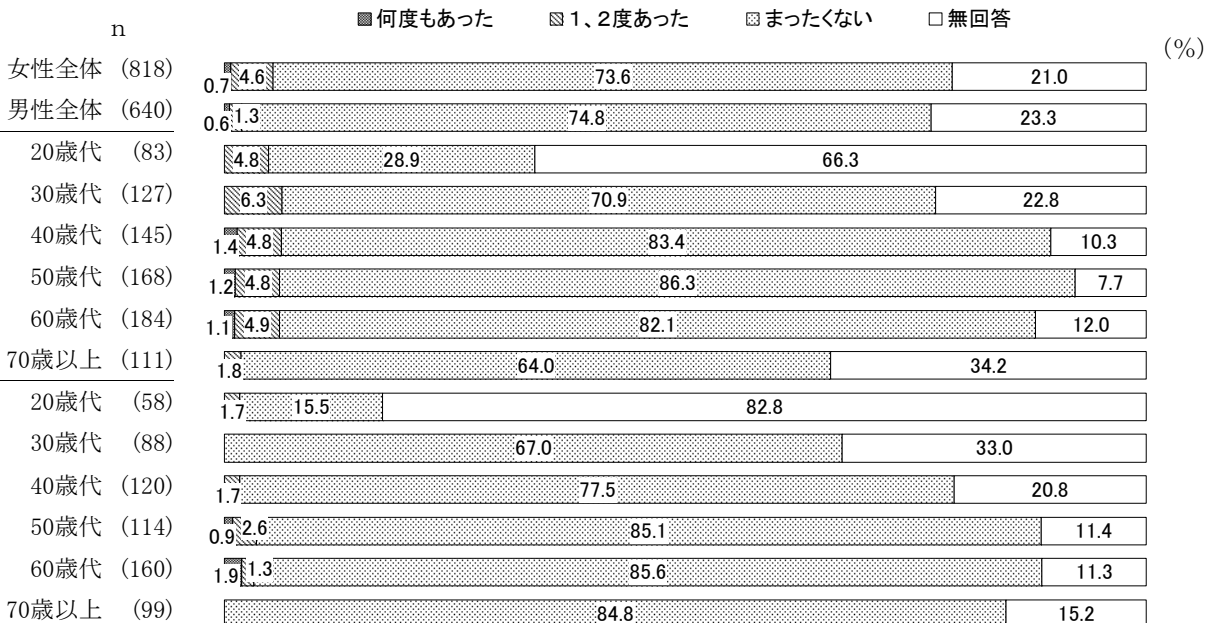


第IV章 調査の結果

□交友関係や電話、郵便物等を細かく監視する

女性

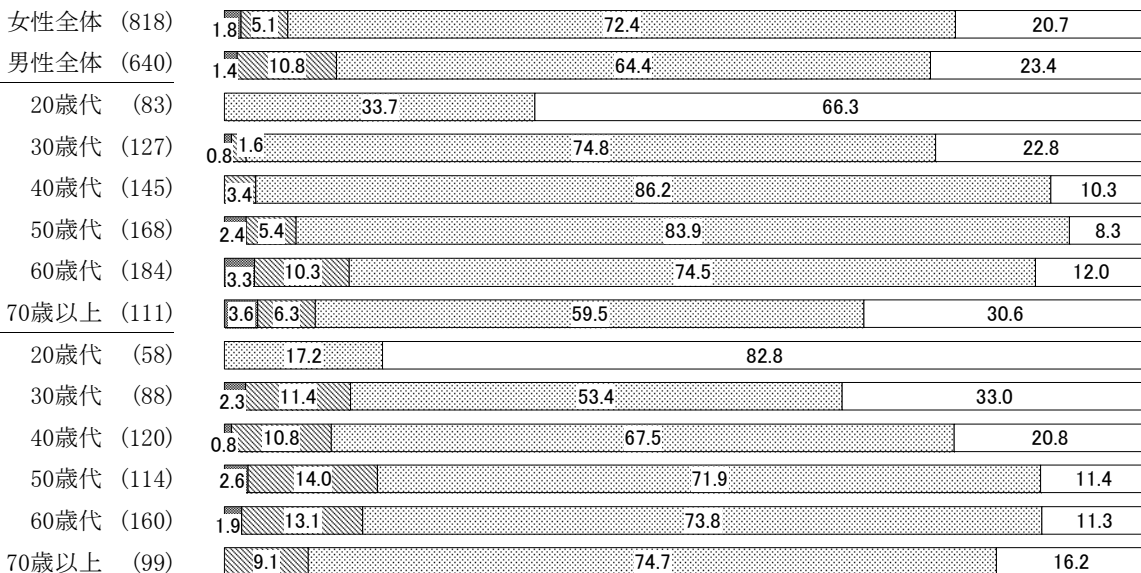
男性



□「誰のおかげで生活できるのか」などと言う

女性

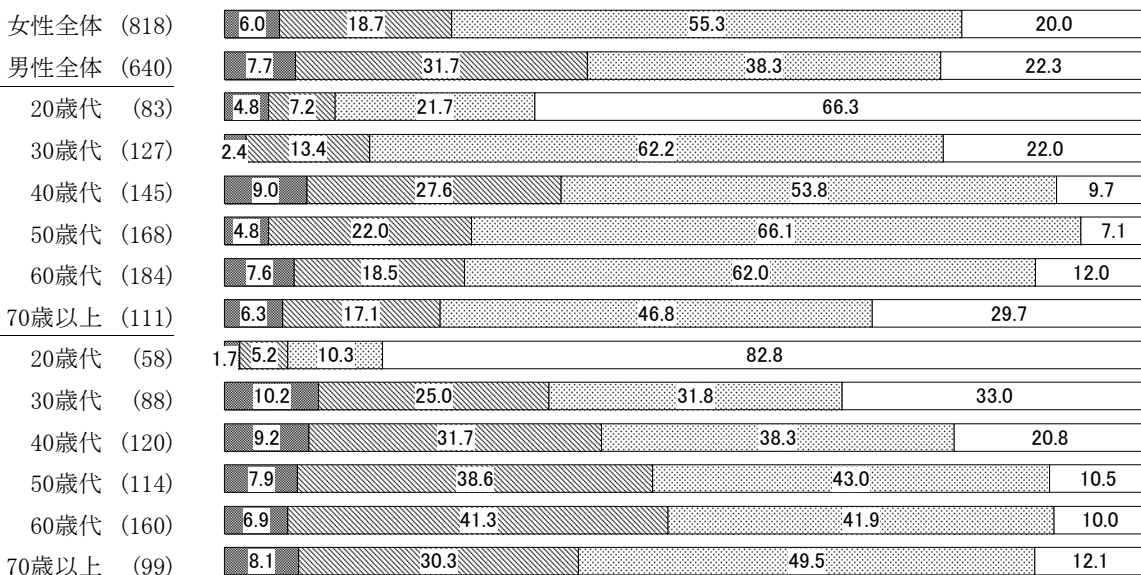
男性



□大声でどなる

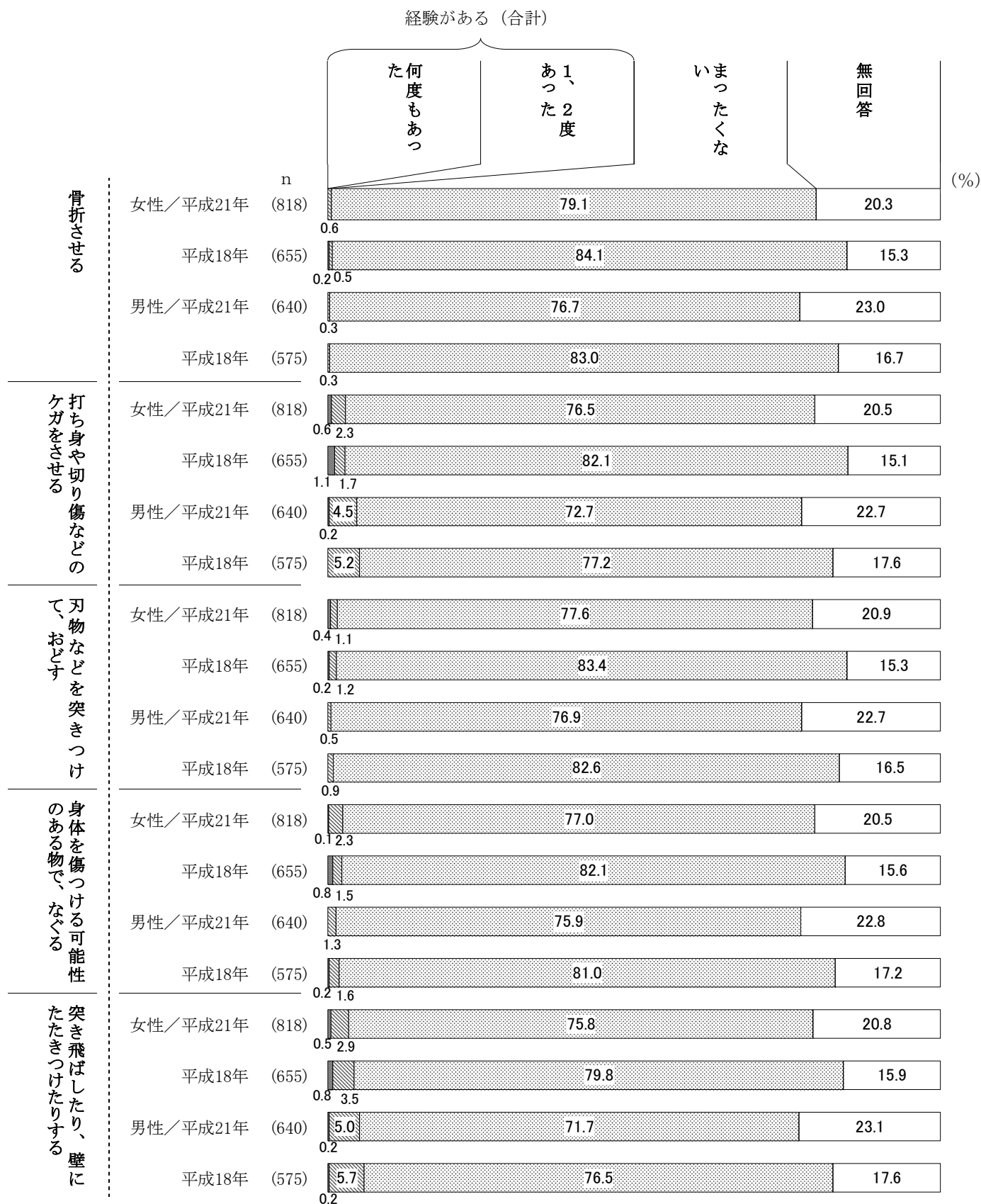
女性

男性

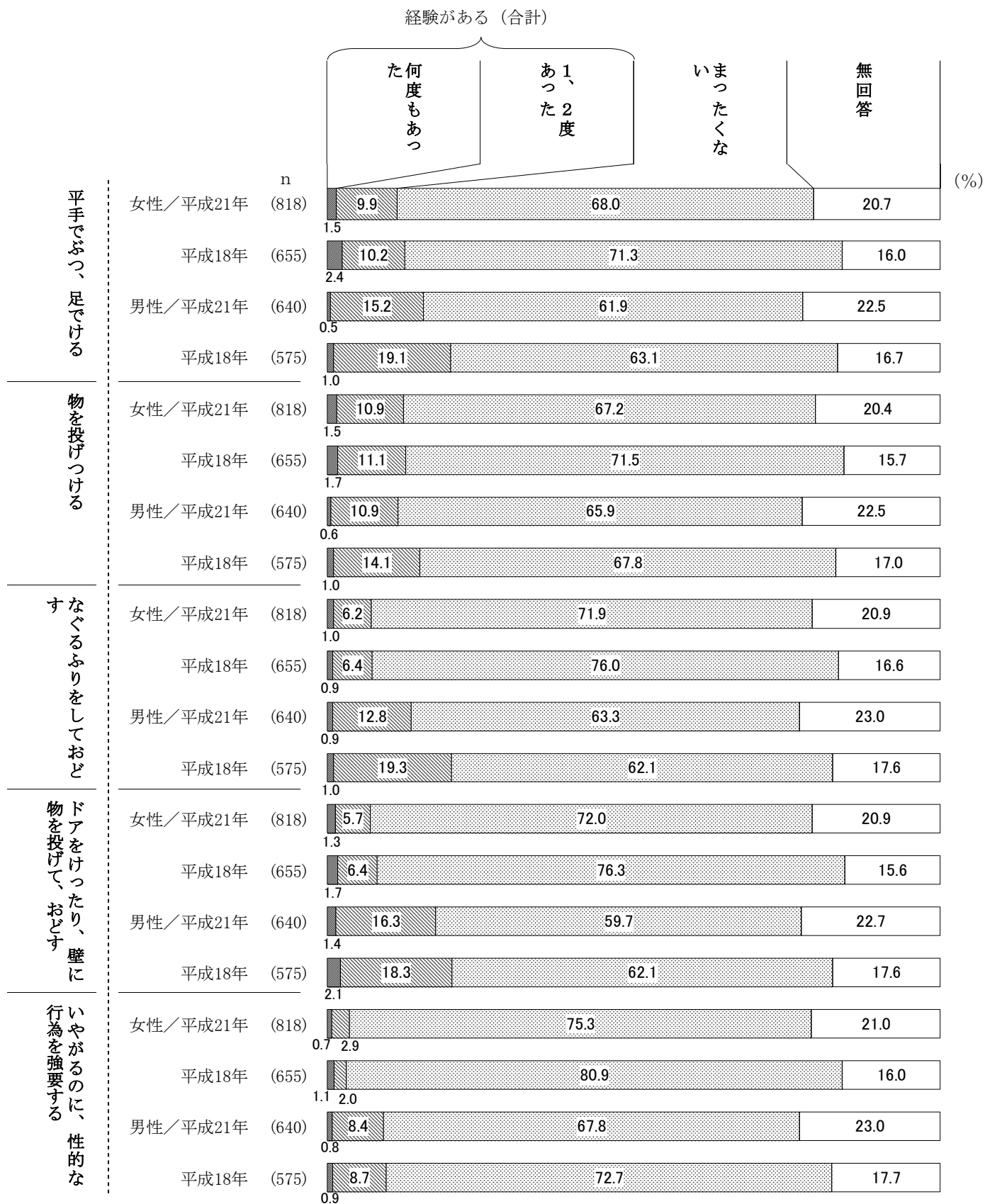


平成18年調査と比較すると、《経験がある（合計）》とした人は、女性では【打ち身や切り傷などのケガをさせる】など計6項目が増加し、【骨折させる】など計9項目が減少している。また、男性では、【骨折させる】以外のすべての項目で減少している。（図表5-6）

図表5-6 配偶者等への加害経験の有無（平成18年調査との比較）

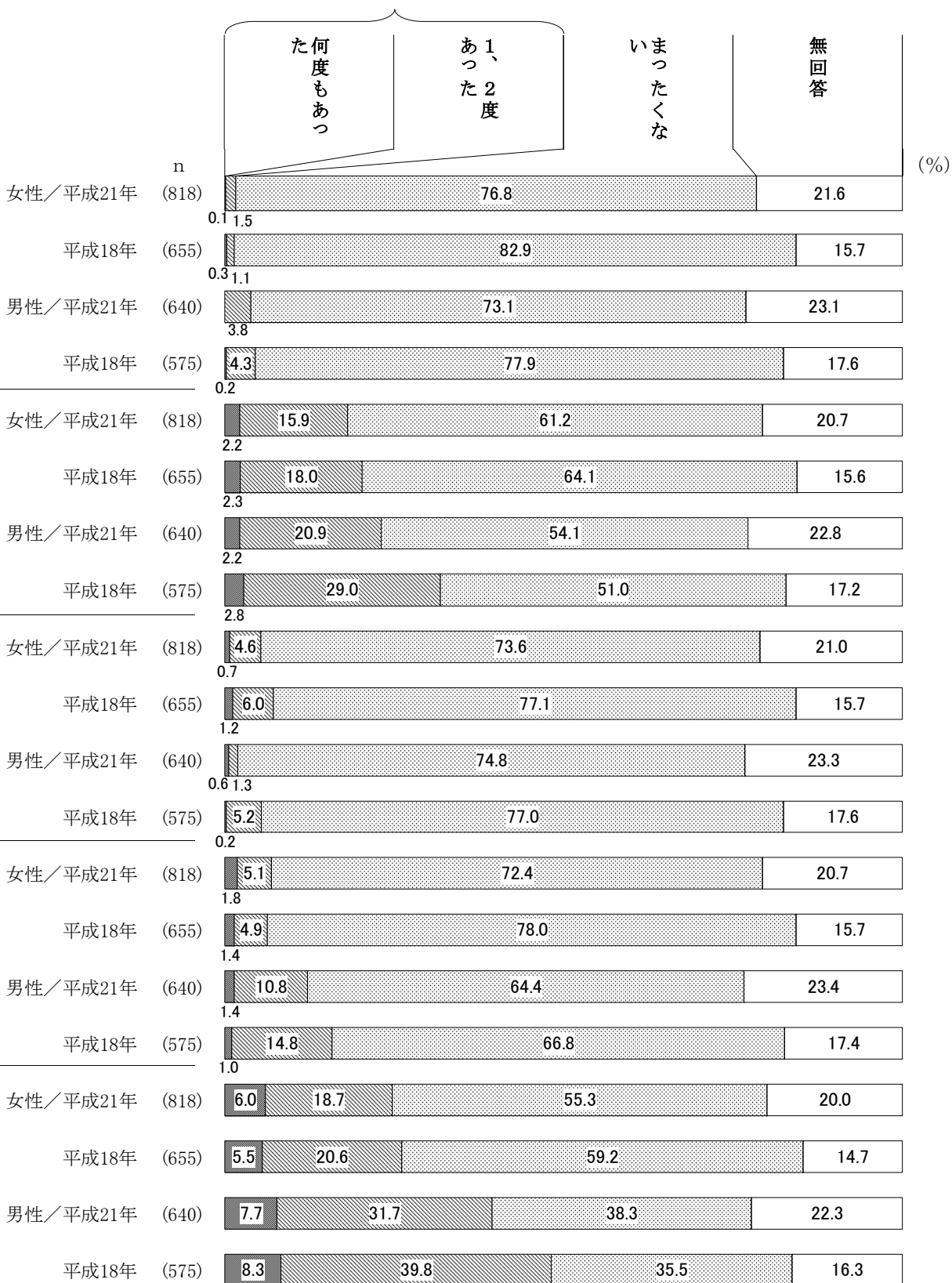


第IV章 調査の結果



経験がある (合計)

見たくないのに、ポル
ノビデオやポルノ雑誌
を見せる



(3) 加害行為に至ったきっかけ

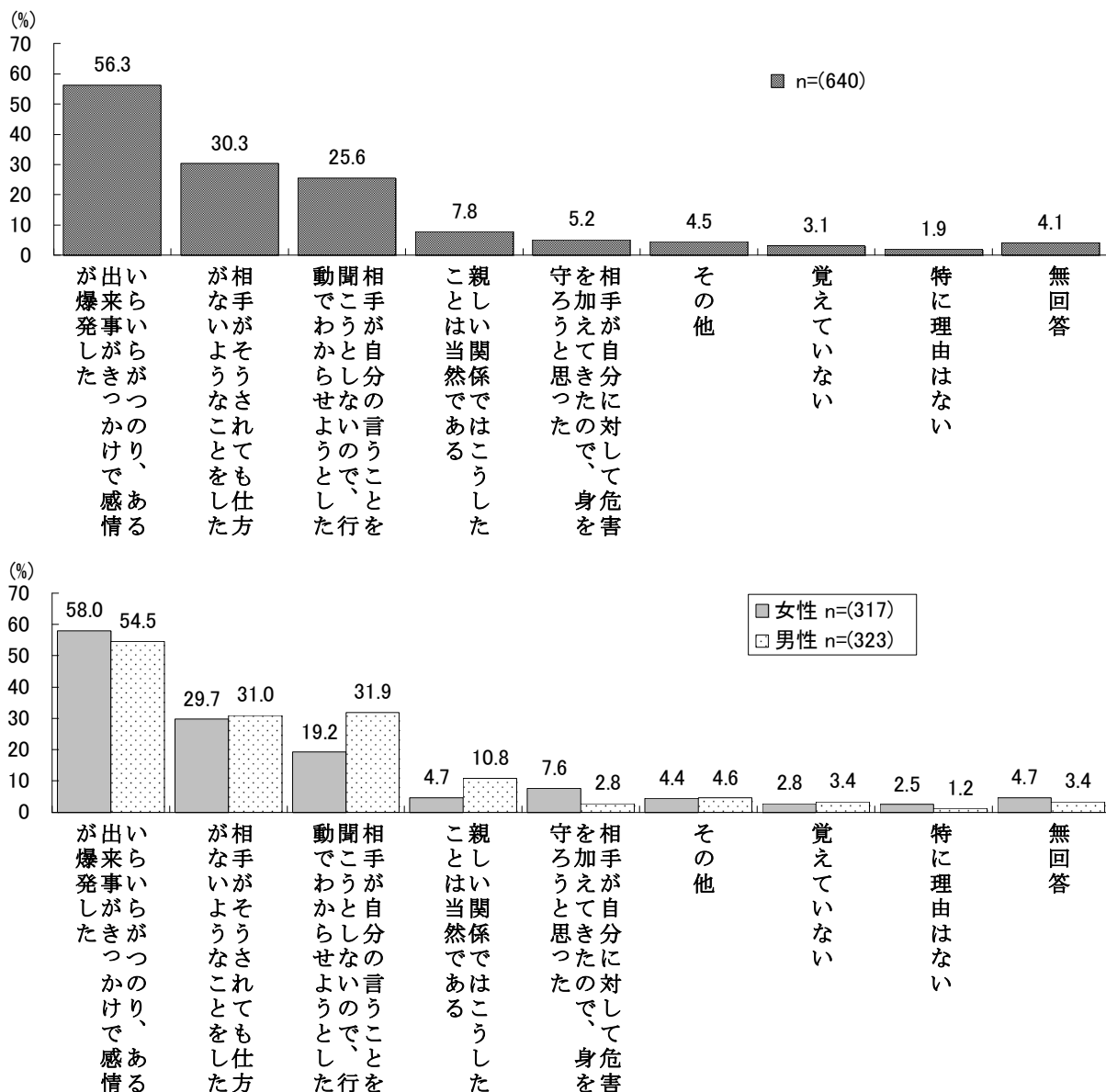
◎ きっかけは、男女とも「いらいらがつのり、ある出来事がきっかけで感情が爆発した」が5割を超える

(問18で、1つでも「1. 何度もあった」または「2. 1、2度あった」とお答えの方に向かっていきます)

問18-1 あなたが問18であげたような行為をするに至ったきっかけは何ですか。

(〇はいくつでも)

図表5-7 加害行為に至ったきっかけ

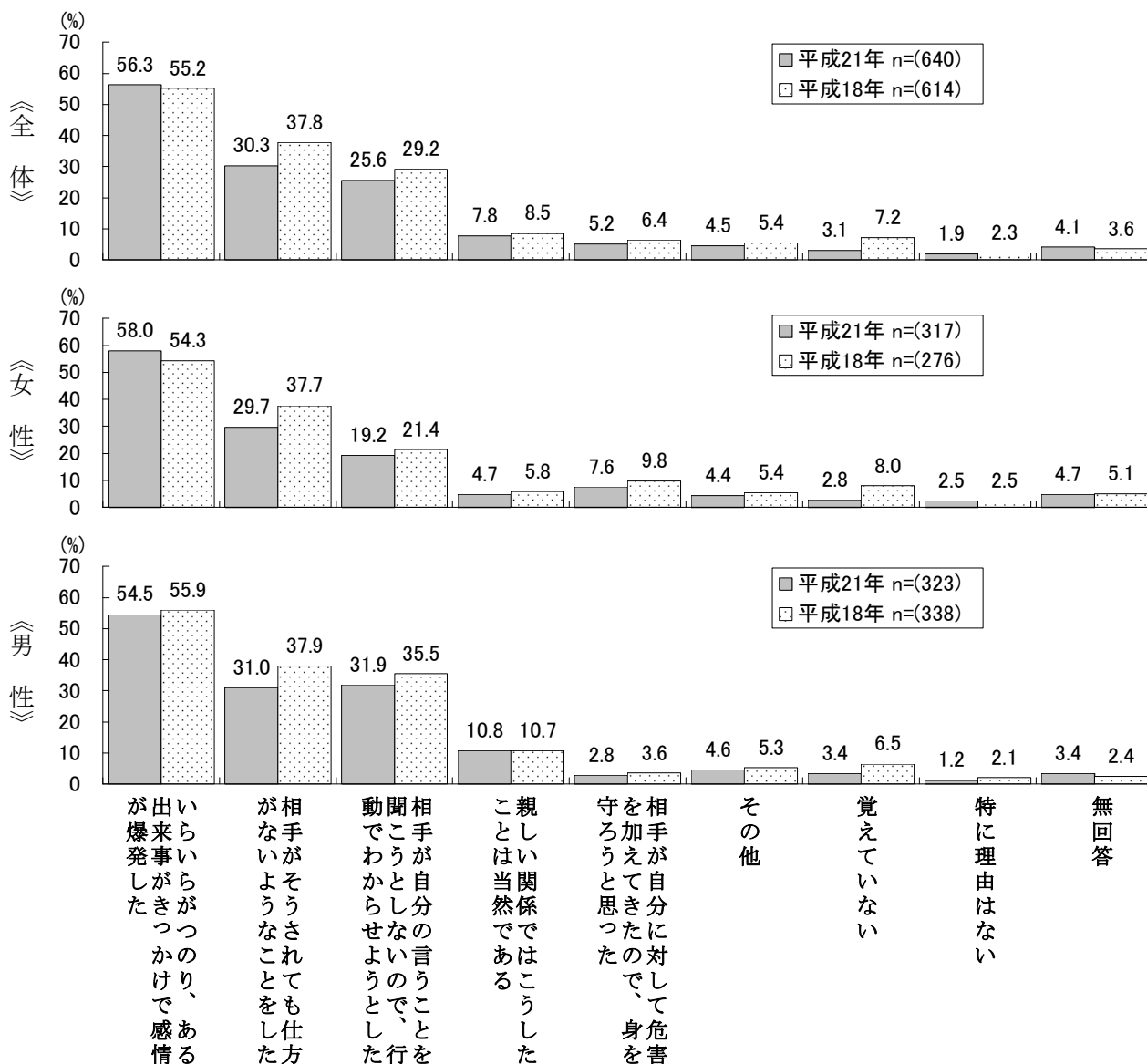


15項目の行為をするに至ったきっかけは、「いらいらがつのり、ある出来事がきっかけで感情が爆発した」(56.3%)が最も多く、5割を超えている。

性別でみると、「相手が自分の言うことを聞こうとしないので、行動でわからせようとした」(女性19.2%、男性31.9%)で12ポイント、「親しい関係ではこうしたことは当然である」(女性4.7%、男性10.8%)で6ポイント、それぞれ男性が女性を上回っている。(図表5-7)

平成18年調査と比較すると、「相手がそうされても仕方がないようなことをした」が男女ともに減少し、全体（平成21年30.3%、平成18年37.8%）で7ポイント減少、「相手が自分の言うことを聞こうとしないので、行動でわからせようとした」も全体（平成21年25.6%、平成18年29.2%）で3ポイント減少している。（図表5-8）

図表5-8 加害行為に至ったきっかけ（平成18年調査との比較）

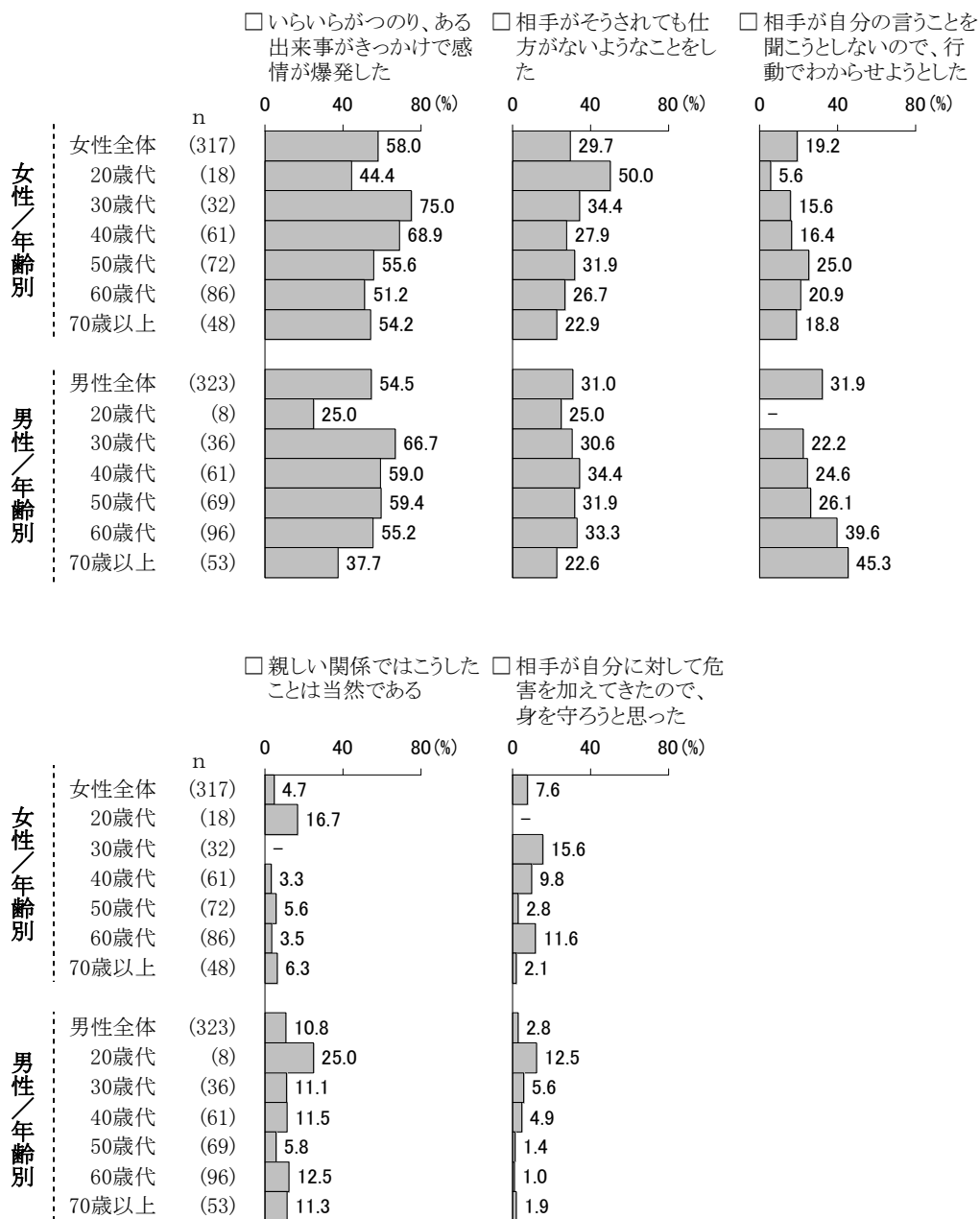


第IV章 調査の結果

性／年齢別でみると、「いらいらがつのり、ある出来事がきっかけで感情が爆発した」は、女性では30歳代で7割台半ば、40歳代で7割近くと高く、男性では30歳代で6割台半ばを超えている。「相手がそうされても仕方がないようなことをした」では女性の30歳代と50歳代、男性の30～60歳代で3割を超えている。「相手が自分の言うことを聞こうとしないので、行動でわからせようとした」では男性の70歳以上で4割台半ば、60歳代で4割弱となっている。(図表5-9)

※基数が不足しているため、性／年齢別での女性および男性の20歳代は参考扱いとする。

図表5-9 加害行為に至ったきっかけ(性／年齢別、上位5項目)

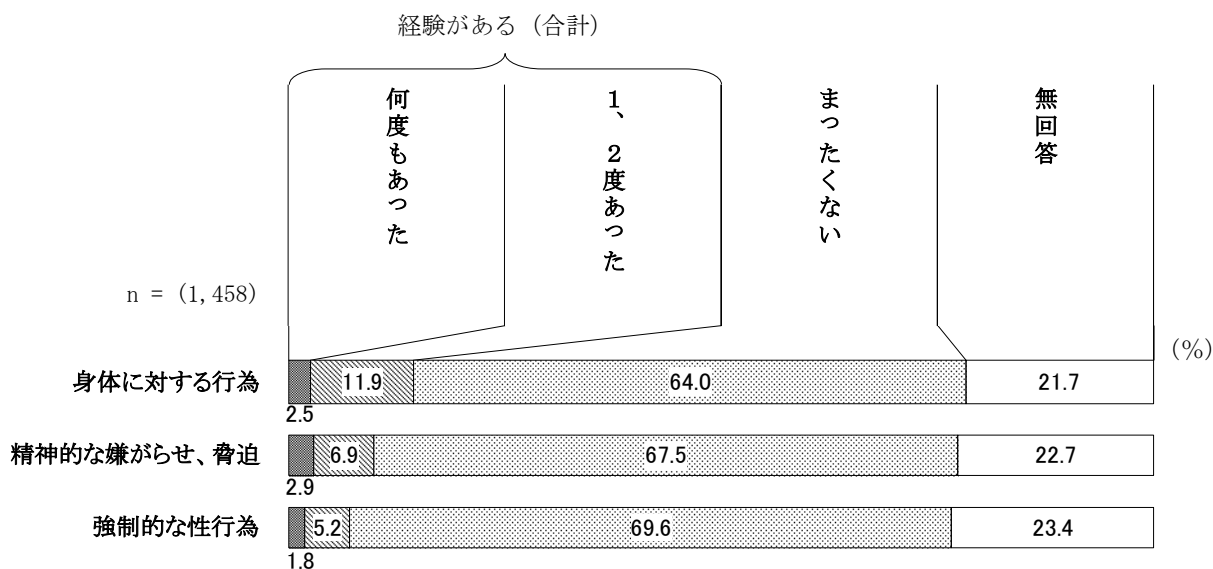


(4) 配偶者等からの被害経験の有無

◎ 3つの行為のうち、いずれか1つでも受けた《経験がある》という女性は4人に1人となっている。そのうち、「何度もあった」という女性は13人に1人となっている

問19 あなたはこれまでに、あなたの配偶者から次のような行為をされたことがありますか。
(それぞれについて該当する「1～3」に○を1つ)

図表5-10 配偶者等からの被害経験の有無

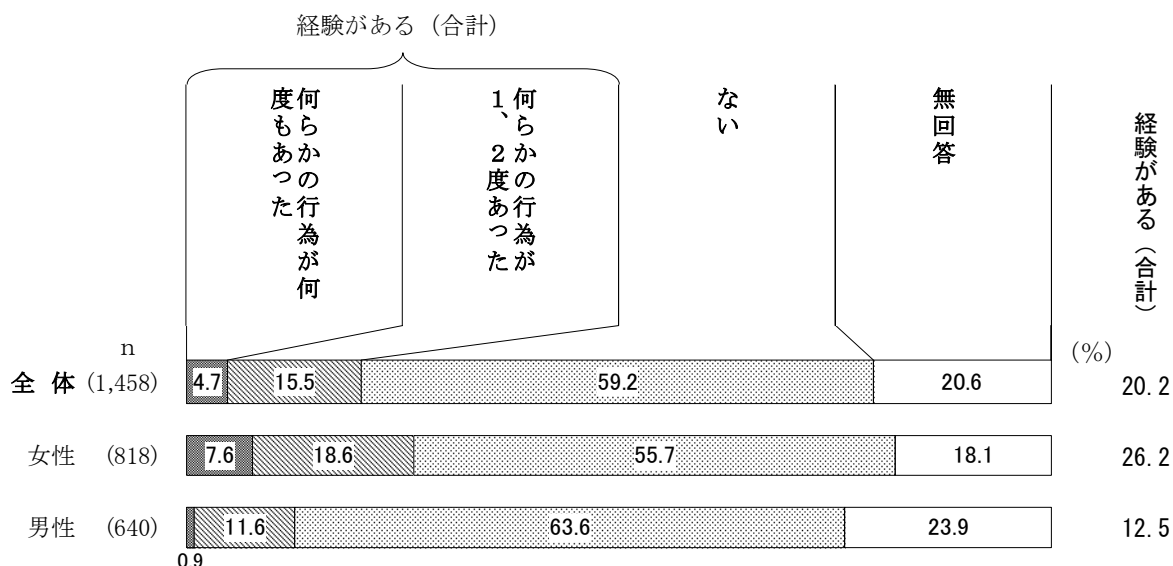


※説明を簡略化するため、以下のように各行為を略称している。

行為	略称
なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する行為を受けた	身体に対する行為
人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた	精神的な嫌がらせ、脅迫
いやがっているのに、性的な行為を強要された	強制的な性行為

3つの行為の被害経験について、「何度もあった」、「1、2度あった」を合わせた《経験がある (合計)》人は、【身体に対する行為】(14.4%)で1割を超え、【精神的な嫌がらせ、脅迫】(9.8%)で約1割となっている。(図表5-10)

図表5-11 配偶者等からの被害経験のまとめ (何らかの被害経験の有無)



第IV章 調査の結果

3つの行為のうち、何らかの被害経験がある人をまとめたところ、「何らかの行為が何度もあった」、「何らかの行為が1、2度あった」を合わせた《経験がある（合計）》人は、全体（20.2%）で2割を超え、女性（26.2%）では4人に1人の割合となっている。（図表5-11）

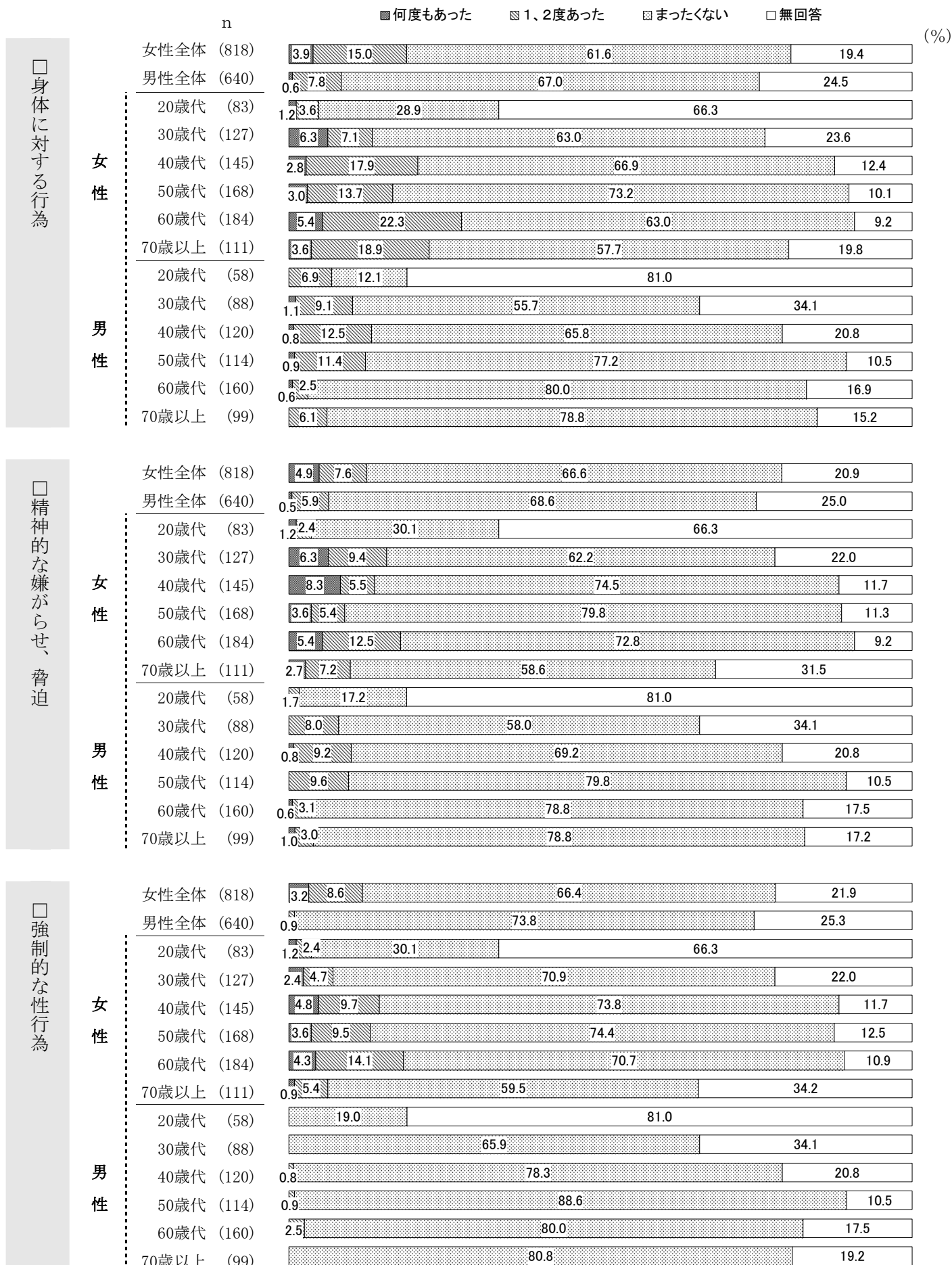
3つの行為の被害経験について、性別で見ると、《経験がある（合計）》は【身体に対する行為】（女性18.9%、男性8.4%）で10ポイント、【精神的な嫌がらせ、脅迫】（女性12.5%、男性6.4%）で6ポイント、【強制的な性行為】（女性11.8%、男性0.9%）で10ポイント、それぞれ女性が男性を上回っている。（図表5-12）

性／年齢別で見ると、【身体に対する行為】が《経験がある（合計）》のは、女性では40歳代、60歳代、70歳以上では2割を超え、男性では30～50歳代で1割を超えている。

【精神的な嫌がらせ、脅迫】が《経験がある（合計）》のは、女性では30歳代と60歳代で1割台半ばを超え、40歳代で1割を超えている。男性では40歳代で1割となっている。

【強制的な性行為】が《経験がある（合計）》のは、女性では60歳代で2割弱、40～50歳代で1割を超えているが、男性ではどの年代も5%に満たない。（図表5-12）

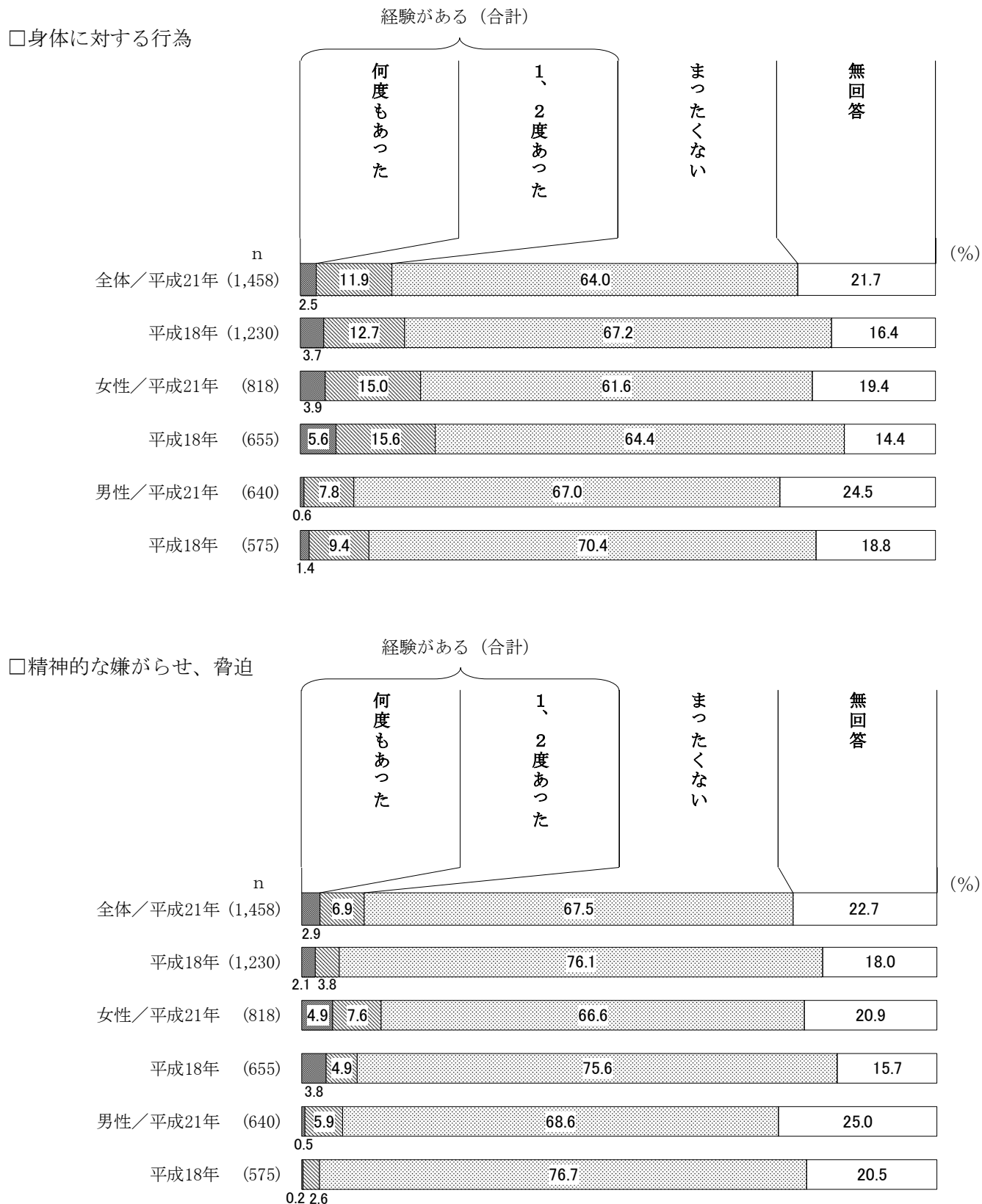
図表5-12 配偶者等からの被害経験の有無（性別・性／年齢別）



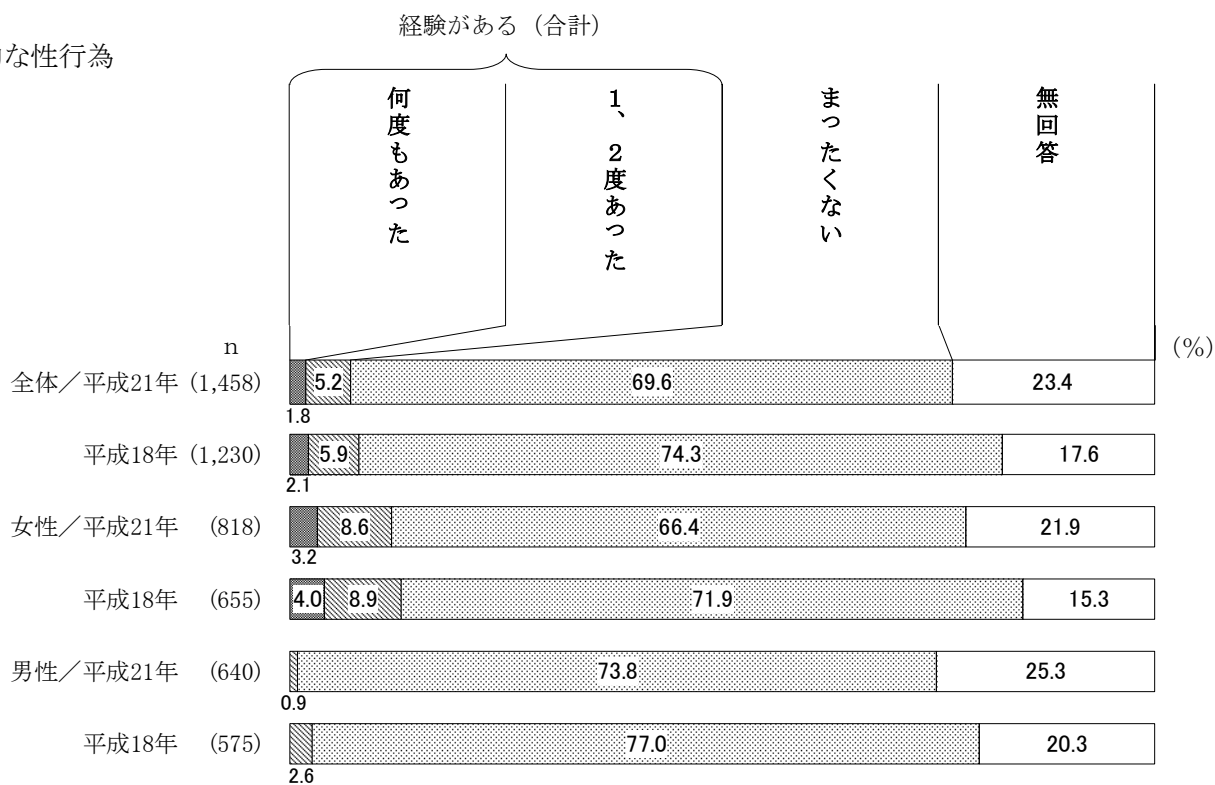
第IV章 調査の結果

平成18年調査と比較すると、《経験がある（合計）》は【身体に対する行為】と【強制的な性行為】で男女ともに僅かに減少しているものの、【精神的な嫌がらせ、脅迫】では男女ともに増加している。（図表5-13）

図表5-13 配偶者等からの被害経験の有無（平成18年調査との比較）



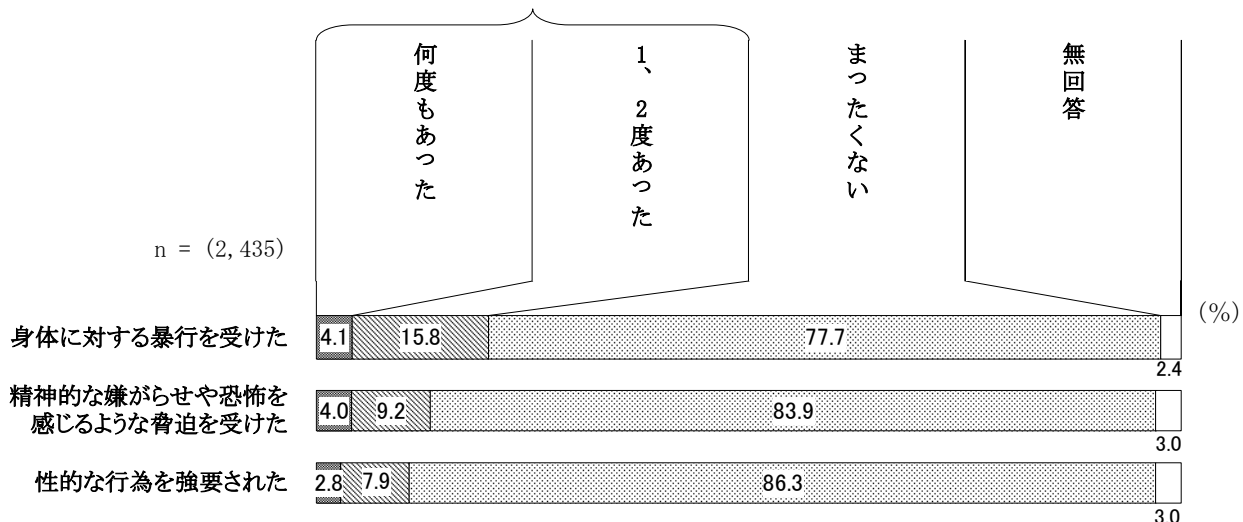
□強制的な性行為



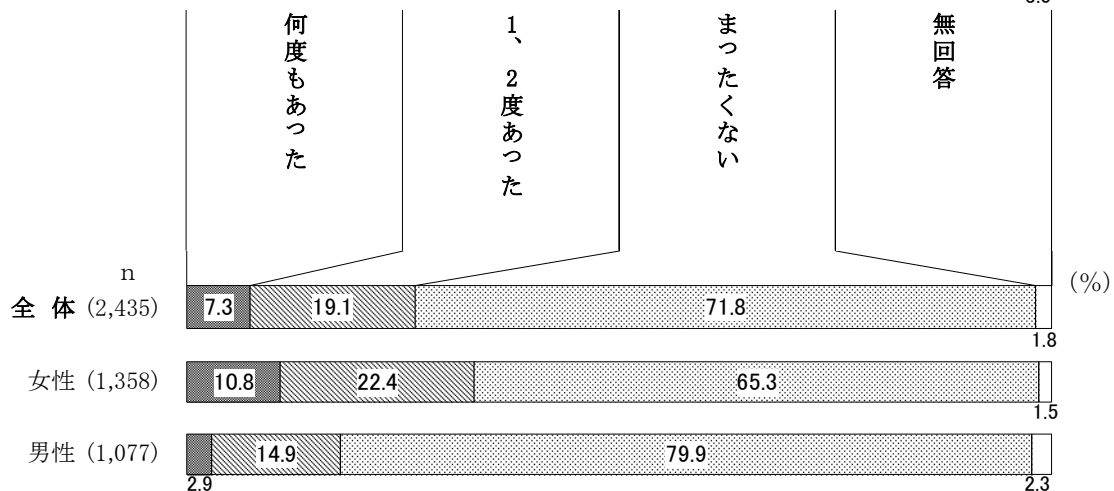
参 考 内閣府「男女間における暴力に関する調査」(平成20年度)の結果

配偶者からの被害経験

経験がある(合計)



まとめ



(5) 配偶者等からの被害経験の時期

◎ 被害時期は3つの行為でこの1年が1割、精神的な被害でこの2～5年が約3割

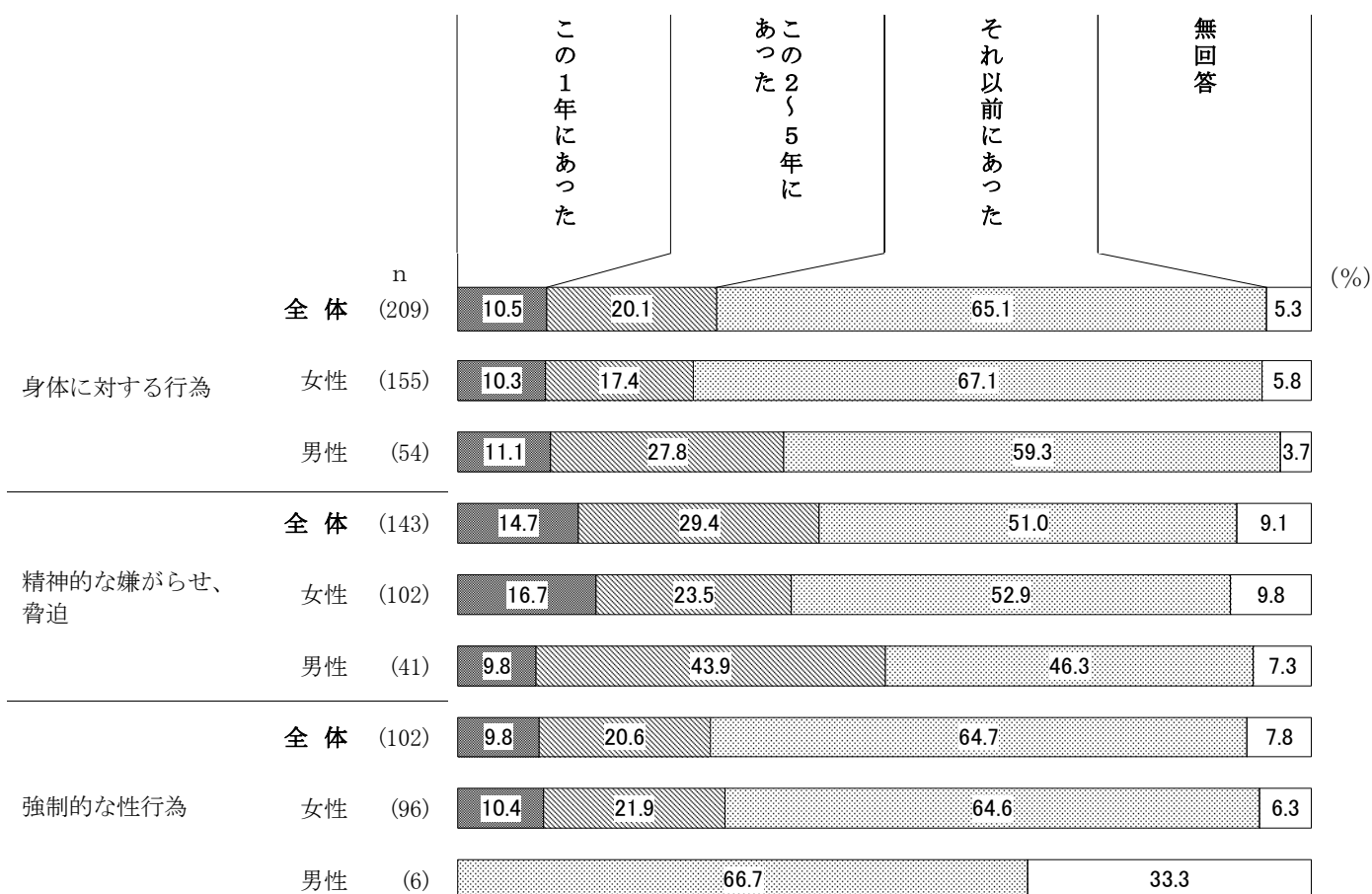
新規調査

(問19で、1つでも「1. 何度もあった」または「2. 1、2度あった」とお答えの方にかがいます)

問19-1 あなたが、その相手の行為を受けたのはいつ頃ですか。

(それぞれについて該当する「1～3」すべてに○)

図表5-14 配偶者等からの被害経験の時期



※説明を簡略化するため、以下のように各行為を略称している。

行為	略称
なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する行為を受けた	身体に対する行為
人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた	精神的な嫌がらせ、脅迫
いやがっているのに、性的な行為を強要された	強制的な性行為

3つの行為を受けた時期を聞いたところ、「この1年にあった」は【身体に対する行為】(10.5%)と【精神的な嫌がらせ、脅迫】(14.7%)で1割を超えている。「この2～5年にあった」は【精神的な嫌がらせ、脅迫】(29.4%)で約3割である。「それ以前にあった」は【身体に対する行為】(65.1%)と【強制的な性行為】(64.7%)で6割を超えている。(図表5-14)

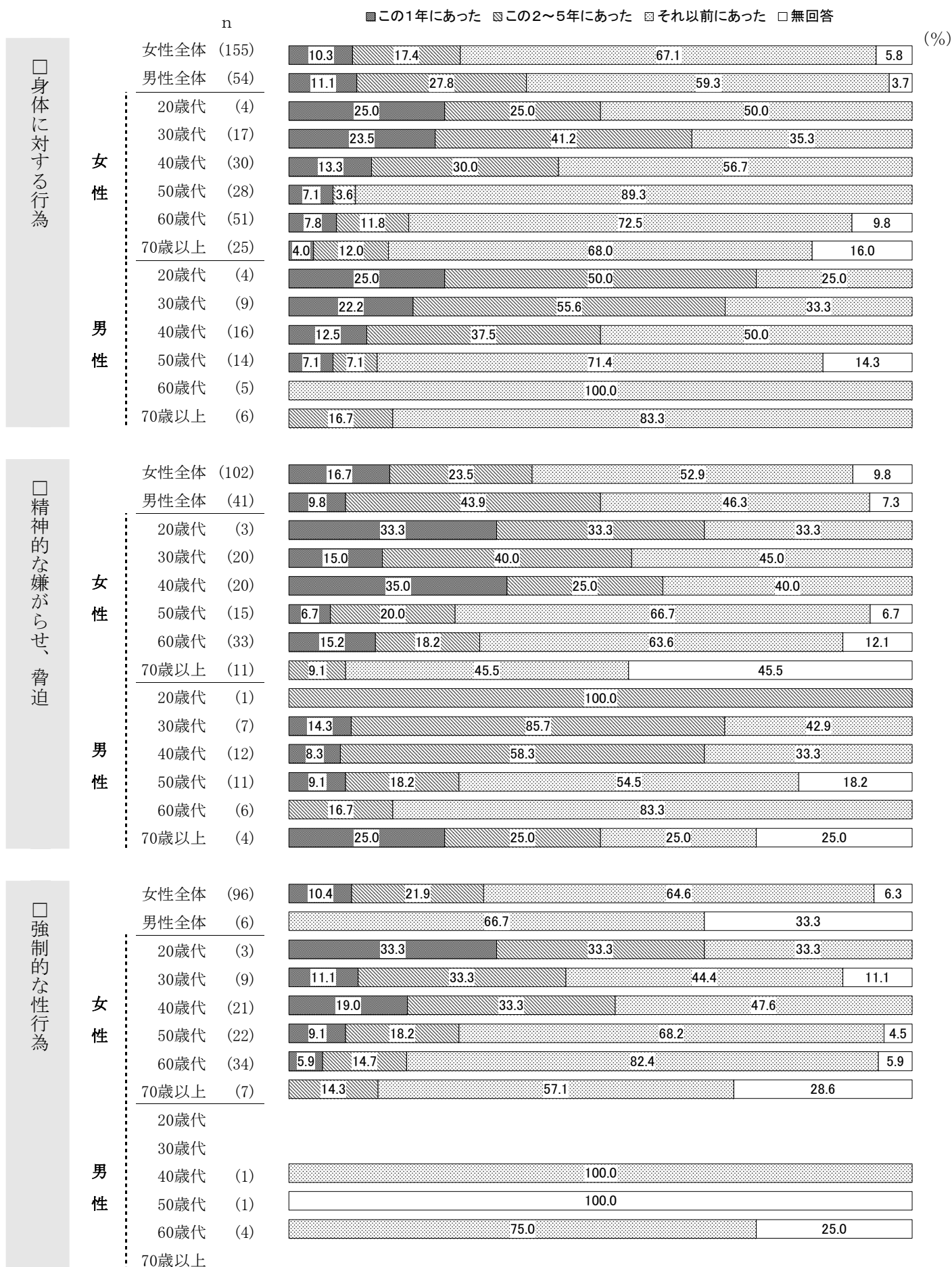
第IV章 調査の結果

性別でみると、「この1年にあった」は【精神的な嫌がらせ、脅迫】（女性16.7%、男性9.8%）で女性が男性を6ポイント上回っている。「この2～5年にあった」は【身体に対する行為】（女性17.4%、男性27.8%）で10ポイント、【精神的な嫌がらせ、脅迫】（女性23.5%、男性43.9%）で20ポイント、それぞれ男性が女性を上回っている。（図表5-14）

性／年齢別でみると、「この1年にあった」は【精神的な嫌がらせ、脅迫】で女性の60歳代が1割台半ば、【身体に対する行為】で女性の40歳代が1割を超えている。「この2～5年にあった」は【身体に対する行為】で女性の40歳代が3割、【精神的な嫌がらせ、脅迫】で女性の60歳代が2割近くになっている。（図表5-15）

※基数が不足しているため、性／年齢別の【身体に対する行為】の女性の40歳代と60歳代、【精神的な嫌がらせ、脅迫】の女性の60歳代、【強制的な性行為】の60歳代を除いた層を参考扱いとする。

図表5-15 配偶者等からの被害経験の時期（性別・性／年齢別）

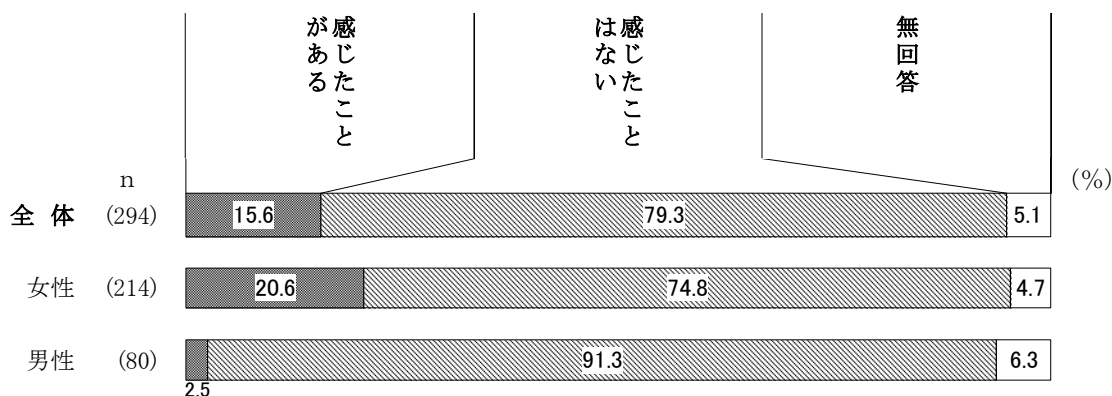


(6) 命の危険を感じたこと

◎ 被害経験者のうち、女性の2割が命の危険を感じたことがある

問19-2 あなたはこれまでに、その相手の行為によって、命の危険を感じたことがありますか。(○は1つ)

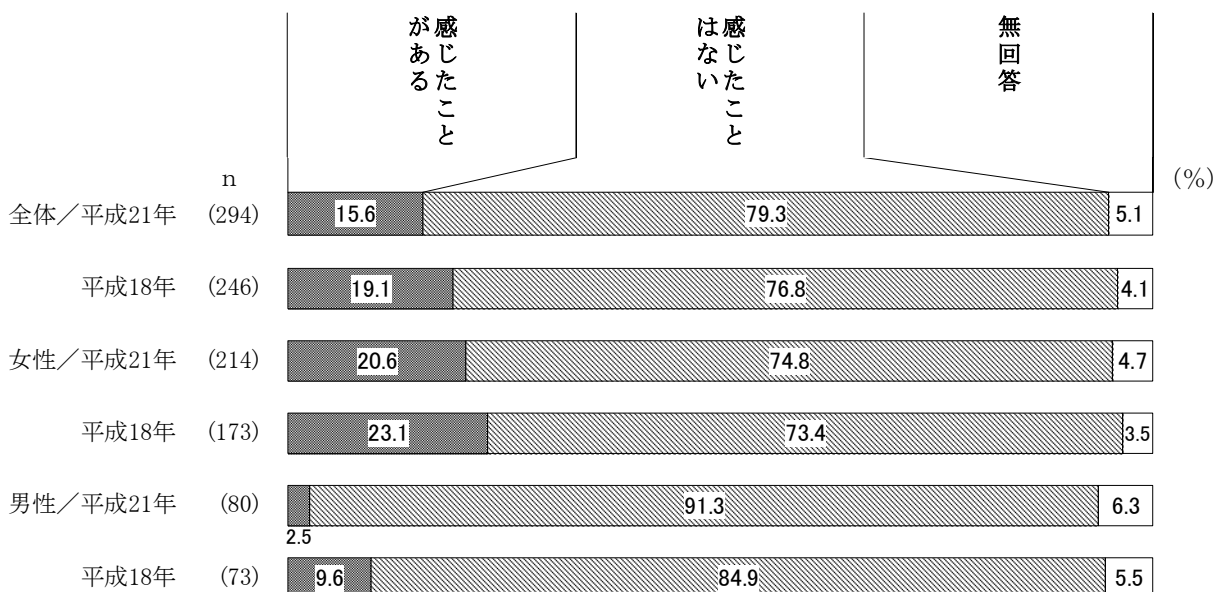
図表5-16 命の危険を感じたこと



相手の行為により、命の危険を感じたことがあるかどうかでは、「感じたことはない」(79.3%)人が多数を占めているが、「感じたことがある」(15.6%)人も1割台半ばとなっている。性別でみると、「感じたことがある」は男性の2.5%に対し、女性(20.6%)は2割を超えており、その差が18ポイントとなっている。(図表5-16)

平成18年調査と比較すると、「感じたことがある」が男性で7ポイント減少している。(図表5-17)

図表5-17 命の危険を感じたこと(平成18年調査との比較)

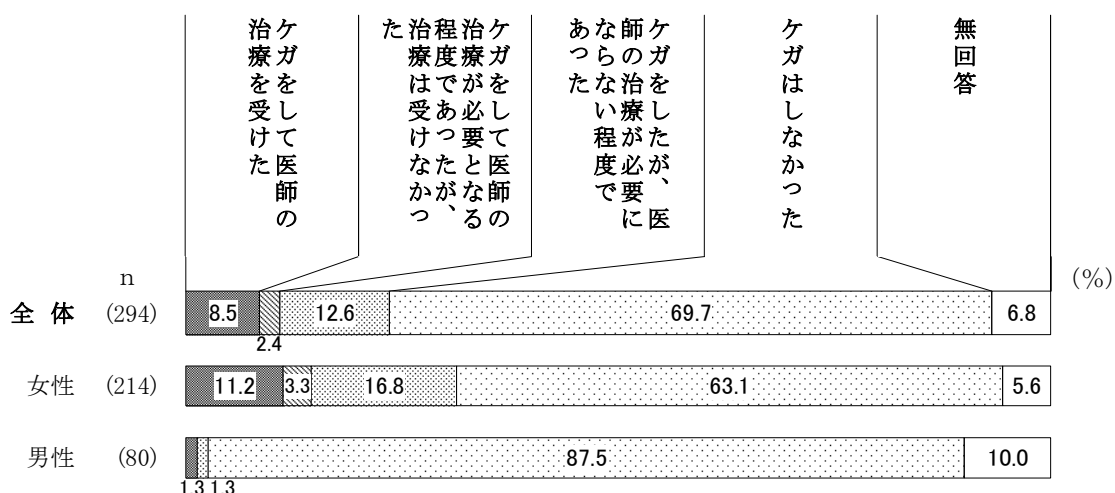


(7) ケガや医師の治療

◎ 被害経験者のうち、女性の1割が医師の治療を受けている

問19-3 あなたはこれまでに、その相手の行為によって、ケガをしたり、医師の治療を受けたことがありますか。(○は1つ)

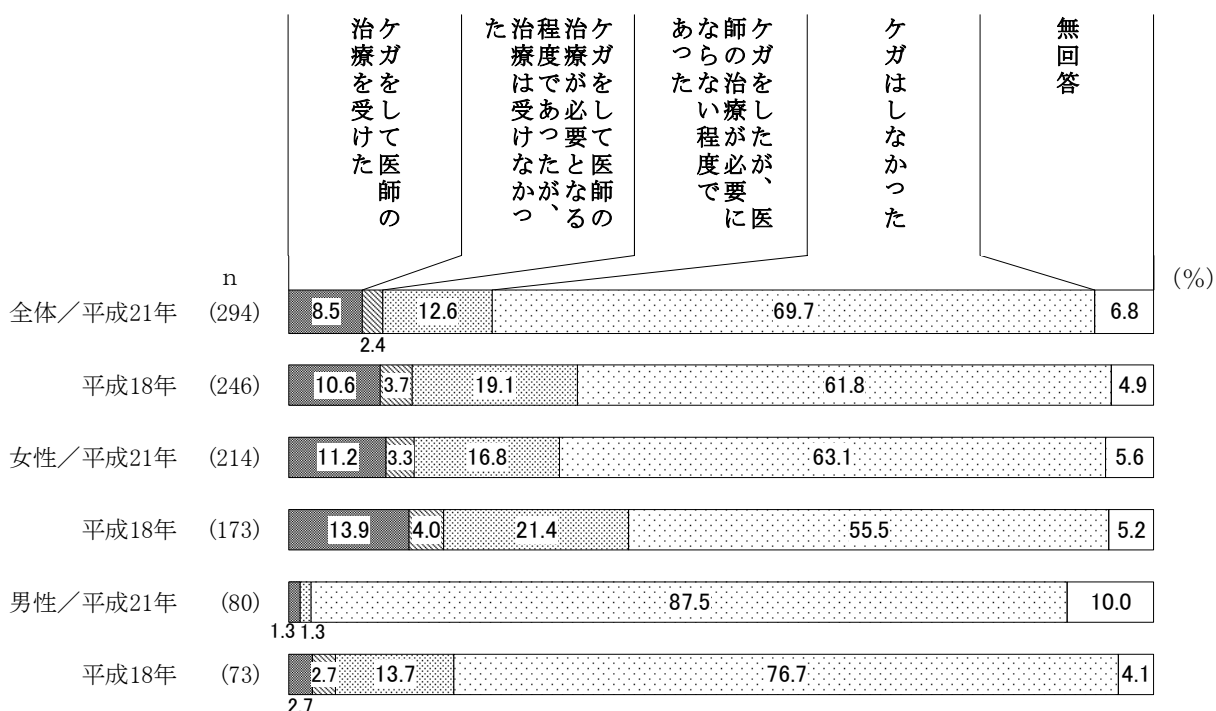
図表5-18 ケガや医師の治療



相手の行為によって「ケガはしなかった」(69.7%)の人が約7割を占めているが、ケガをした人も2割を超えている。性別で見ると、女性でケガをした人は3割を超え、その内の「ケガをして医師の治療を受けた」人は1割を超えている。(図表5-18)

平成18年調査と比較すると、「ケガをしなかった」が男性で10ポイント、女性でも7ポイント増加している。(図表5-19)

図表5-19 ケガや医師の治療 (平成18年調査との比較)

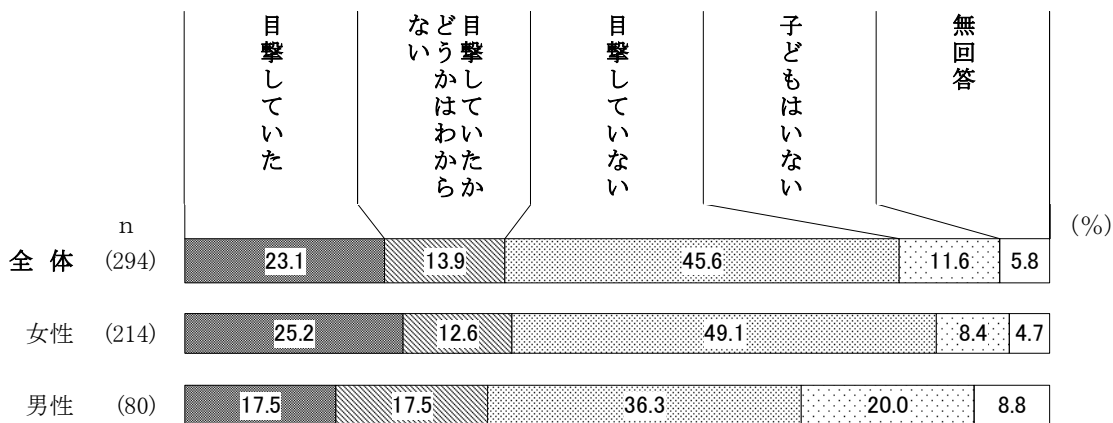


(8) 子どもの目撃

◎ 親の被害を目撃していた子どもは2割を超える

問19-4 あなたが、その行為を受けた時に、あなたのお子さんはそれを目撃しましたか。
(○は1つ)

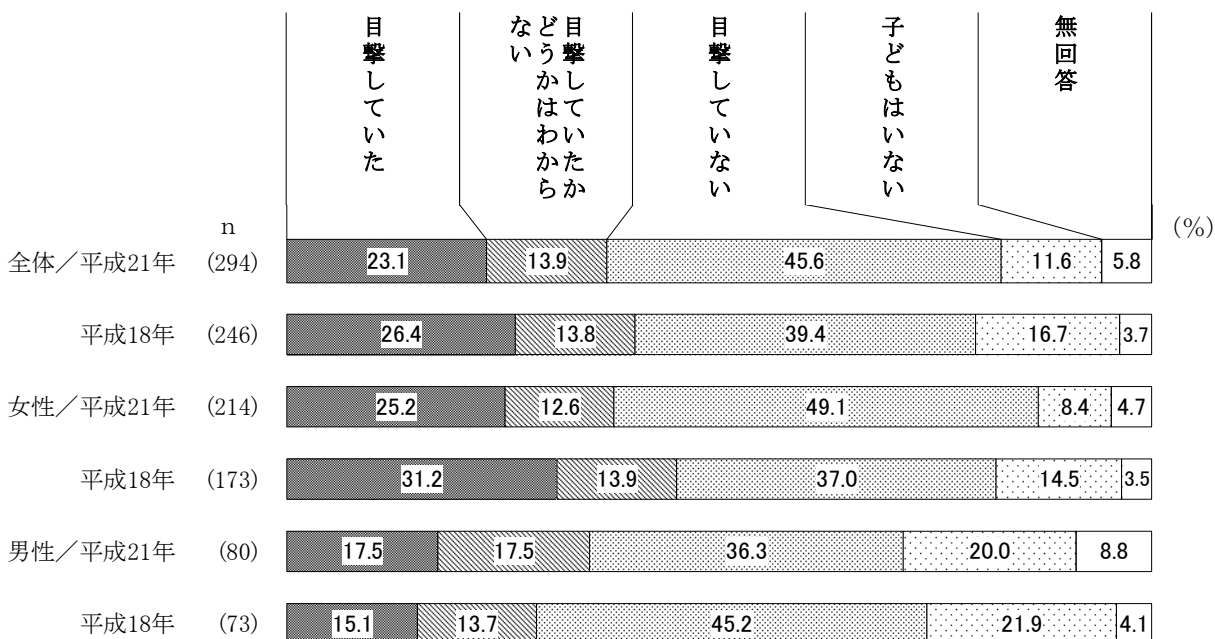
図表5-20 子どもの目撃



相手の行為を受けた際に、子どもがその様子を目撃していたかどうかを聞いたところ、「目撃していた」という人が23.1%で、「目撃していない」という人が45.6%となっている。性別で見ると、「目撃していた」(女性25.2%、男性17.5%)では7ポイント、「目撃していない」(女性49.1%、男性36.3%)では12ポイント、それぞれ女性が男性を上回っている。(図表5-20)

平成18年調査との比較では、「目撃していない」が女性で12ポイント増加し、全体でも6ポイント増加している。(図表5-21)

図表5-21 子どもの目撃(平成18年調査との比較)

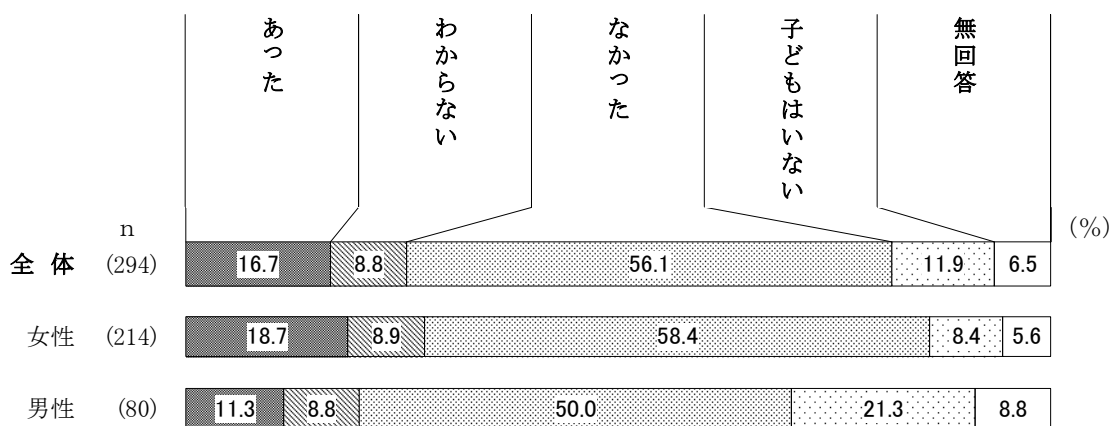


(9) 子どもへの行為

◎ 被害経験者の子どものうち、1割台半ばの子どもが同じ被害を受けている

問19-5 その相手は、あなたのお子さんに対して、あなたがされていたのと同じ行為をした
 ことがありましたか。(○は1つ)

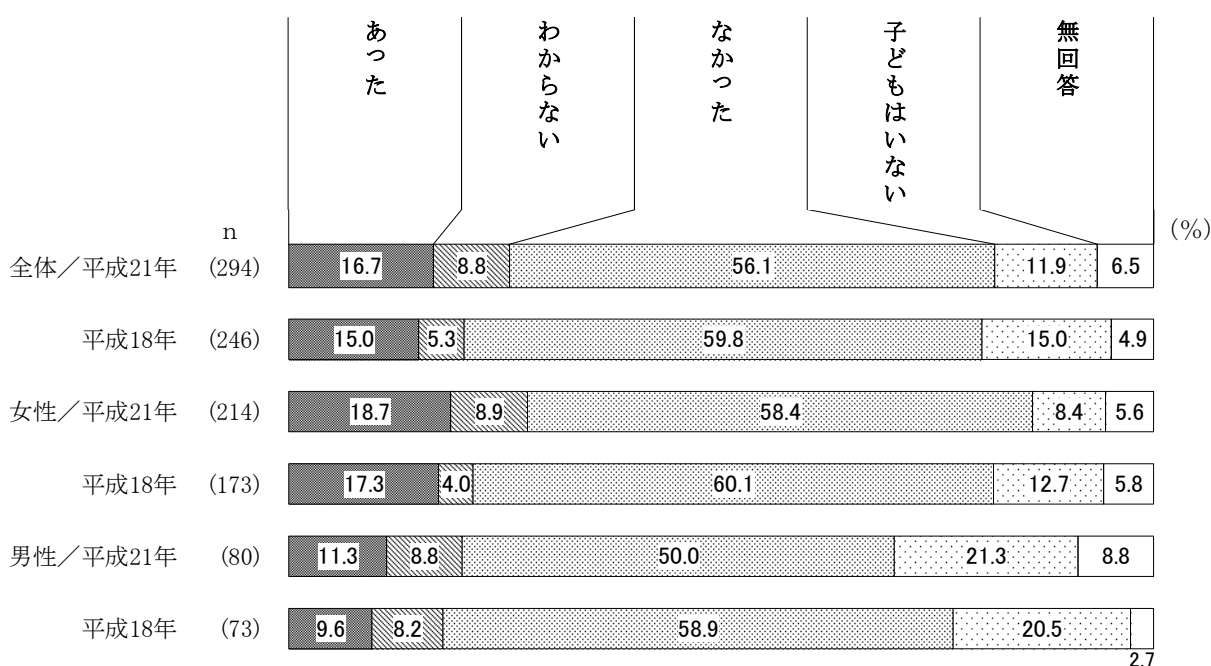
図表5-22 子どもへの行為



その相手が子どもに対しても同様な行為をしたかどうかについては、「なかった」(56.1%)が5割台半ばで、「あった」(16.7%)が1割台半ばである。性別で見ると、「あった」(女性18.7%、男性11.3%)は女性が男性を7ポイント上回っている。(図表5-22)

平成18年調査と比較すると、女性では「わからない」が4ポイント増加し、男性では「なかった」が8ポイント減少している。(図表5-23)

図表5-23 子どもへの行為 (平成18年調査との比較)

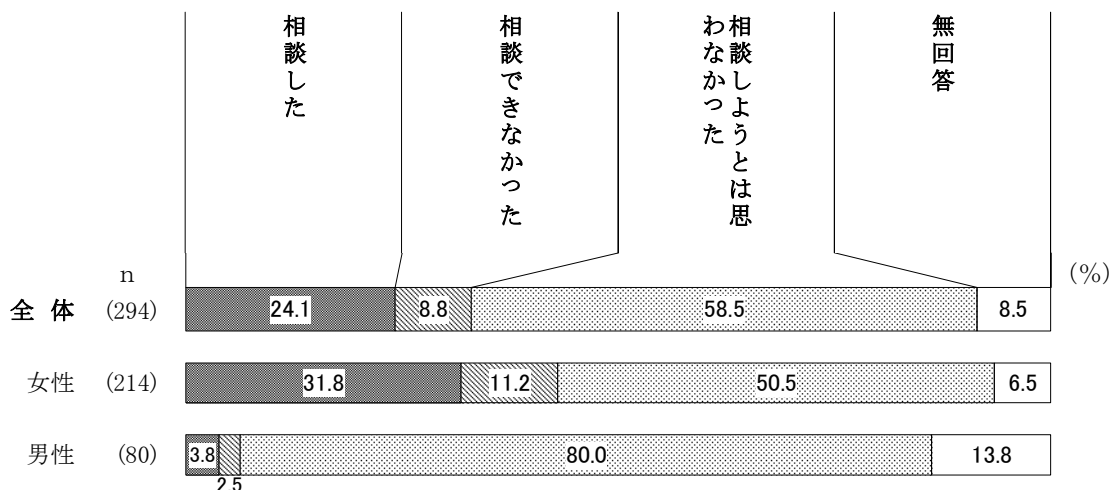


(10) 暴力に関する相談

◎ 被害経験者のうち、「相談できなかった」「相談しようと思わなかった」人が7割近い

問19-6 あなたは、その受けた行為について誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。
(○は1つ)

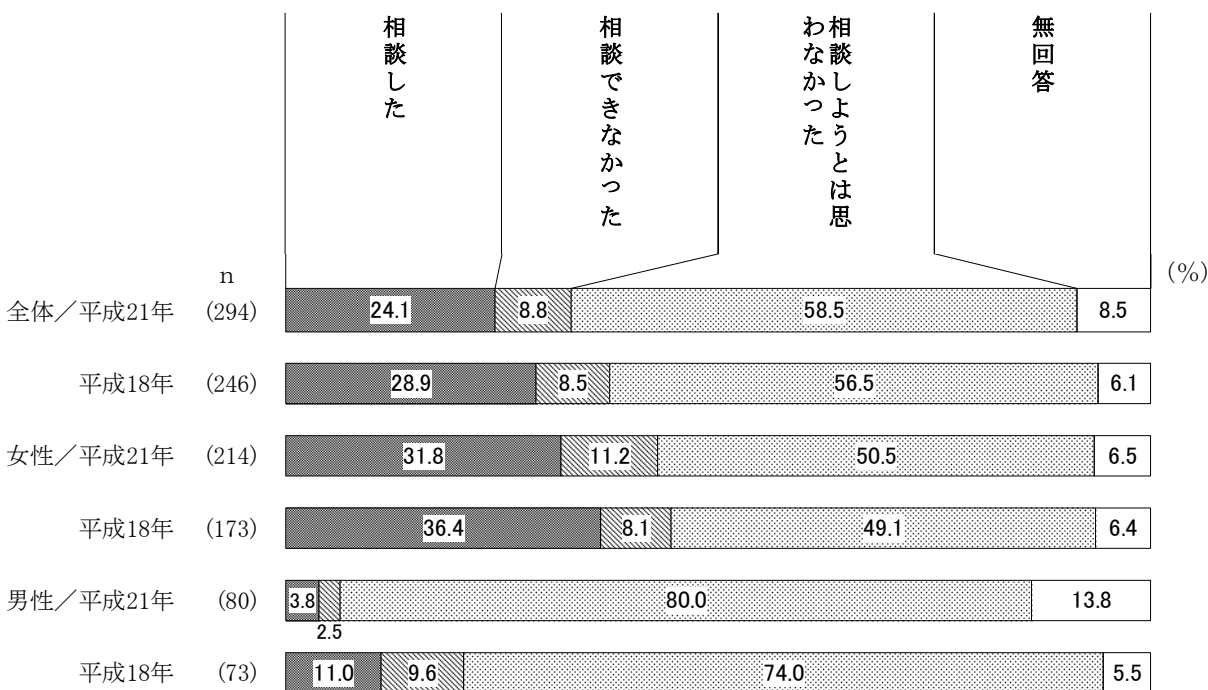
図表5-24 暴力に関する相談



相手から受けた行為について「相談しようと思わなかった」(58.5%)人が6割近くを占めていて、「相談した」(24.1%)人は2割を超えている。性別で見ると、「相談した」(女性31.8%、男性3.8%)人は女性が男性を28ポイント上回っている。(図表5-24)

平成18年調査との比較では、「相談した」が男性で7ポイント、女性で4ポイント減少している。(図表5-25)

図表5-25 暴力に関する相談(平成18年調査との比較)

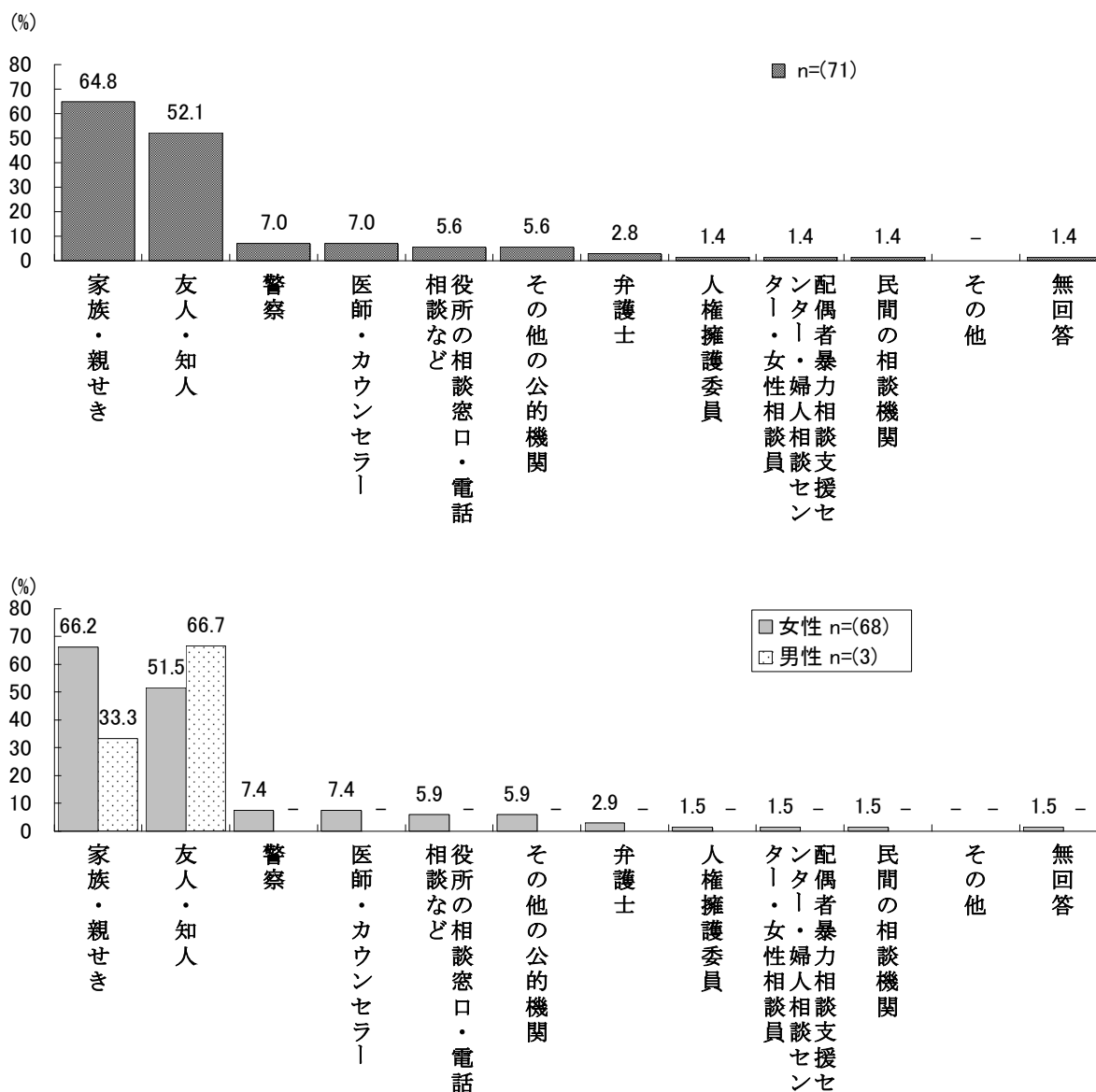


(11) 相談した相手

◎ 相談先は、身近な人が多く、公共機関等への相談は1割程度

(問19-6で「1. 相談した」とお答えの方にかがいます)
 問19-7 あなたが相談した人(場所)を教えてください。(〇はいくつでも)

図表5-26 相談した相手



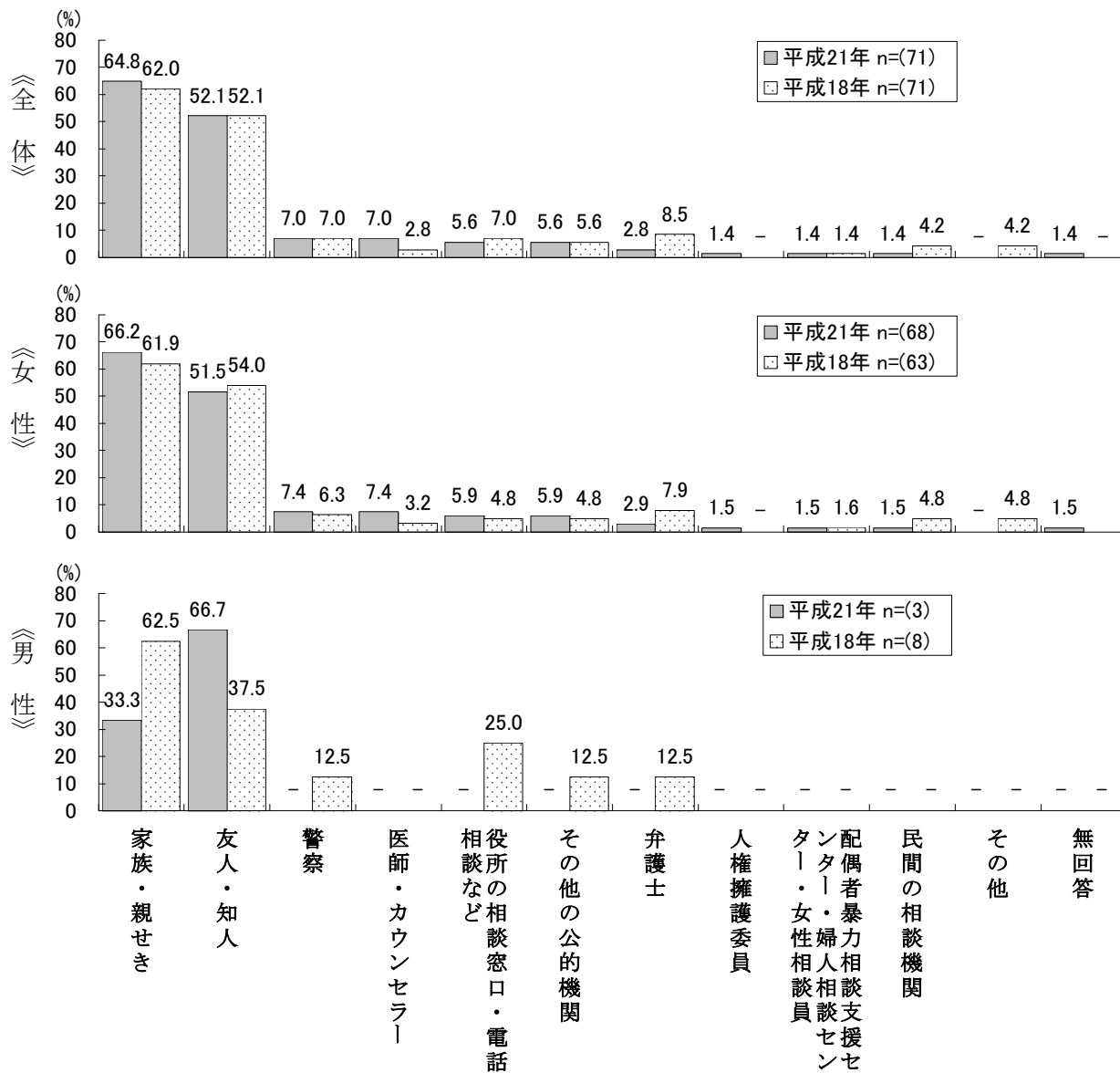
相談先として、「家族・親せき」(64.8%)、「友人・知人」(52.1%)の身近な人への相談が多数となっている。

性別でみると、男性の回答者数が少ないものの、「家族・親せき」(女性66.2%、男性33.3%)、「友人・知人」(女性51.5%、男性66.7%)が多くなっている。(図表5-26)

第IV章 調査の結果

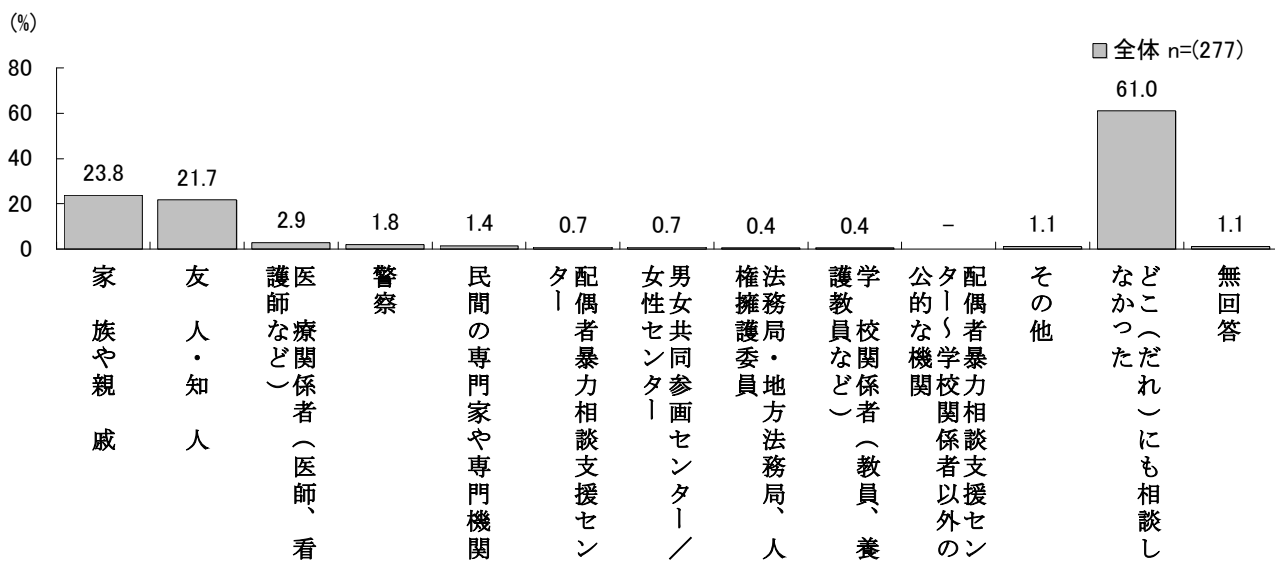
平成18年調査との比較では、「家族・親せき」は女性（平成21年66.2%、平成18年61.9%）で4ポイント増加し、「弁護士」（平成21年2.9%、平成18年7.9%）が5ポイント減少している。（図表5-27）

図表5-27 相談した相手（平成18年調査との比較）



参 考 内閣府「男女間における暴力に関する調査」(平成20年度)の結果

配偶者からの被害の相談先



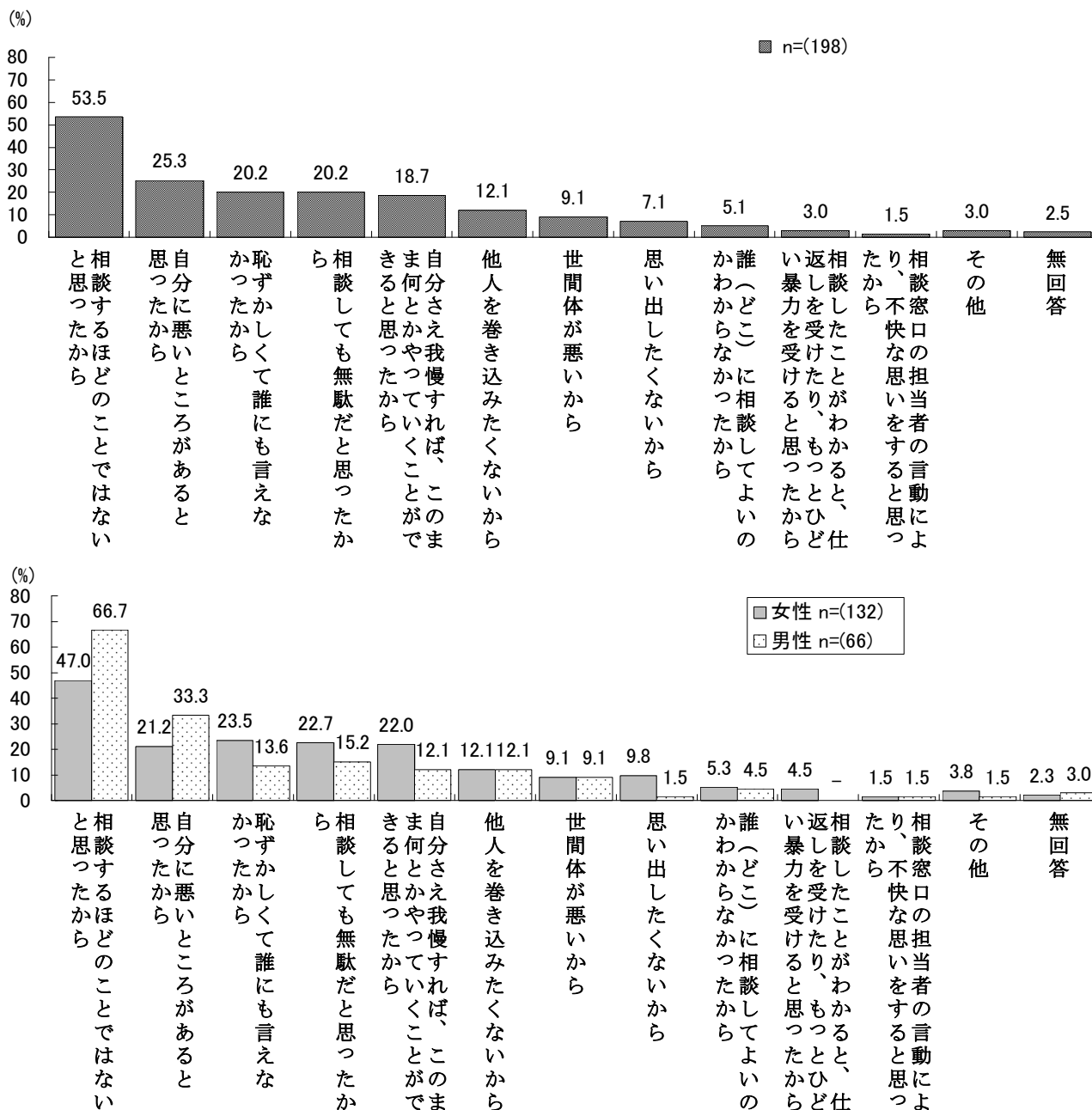
(12) 相談できなかった理由

◎ 「相談するほどのことではないと思ったから」が半数以上

(問19-6で「2. 相談できなかった」または「3. 相談しようとは思わなかった」とお答えの方にかがいます)

問19-8 あなたが、誰(どこ)にも相談できなかったのはなぜですか。(〇はいくつでも)

図表5-28 相談できなかった理由



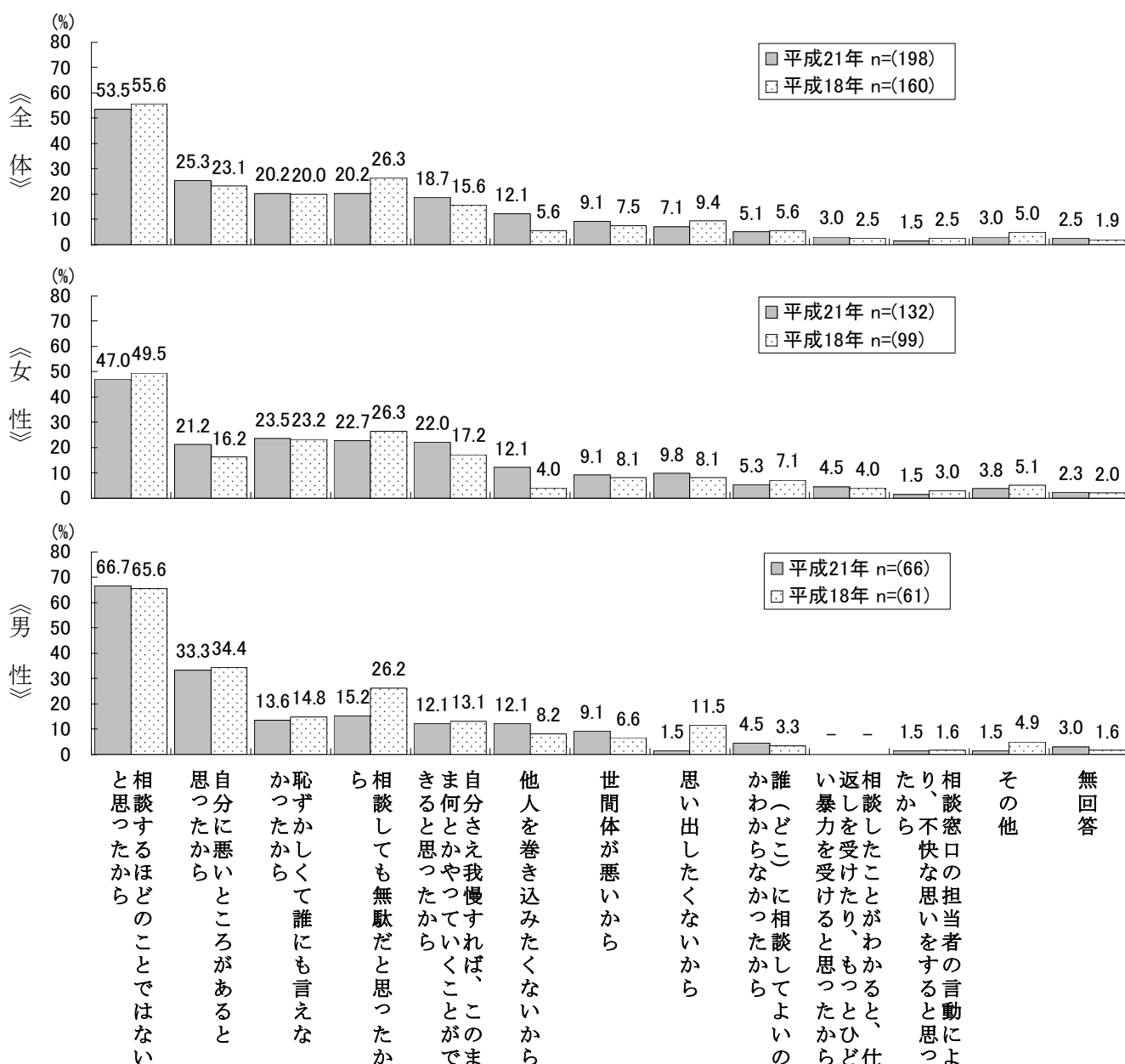
相談できなかった・しようとは思わなかった理由では、「相談するほどのことではないと思ったから」(53.5%)が最も多くなっている。

性別でみると、「相談するほどのことではないと思ったから」(女性47.0%、男性66.7%)で19ポイント、「自分に悪いところがあると思つたから」(女性21.2%、男性33.3%)で12ポイント、男性が上

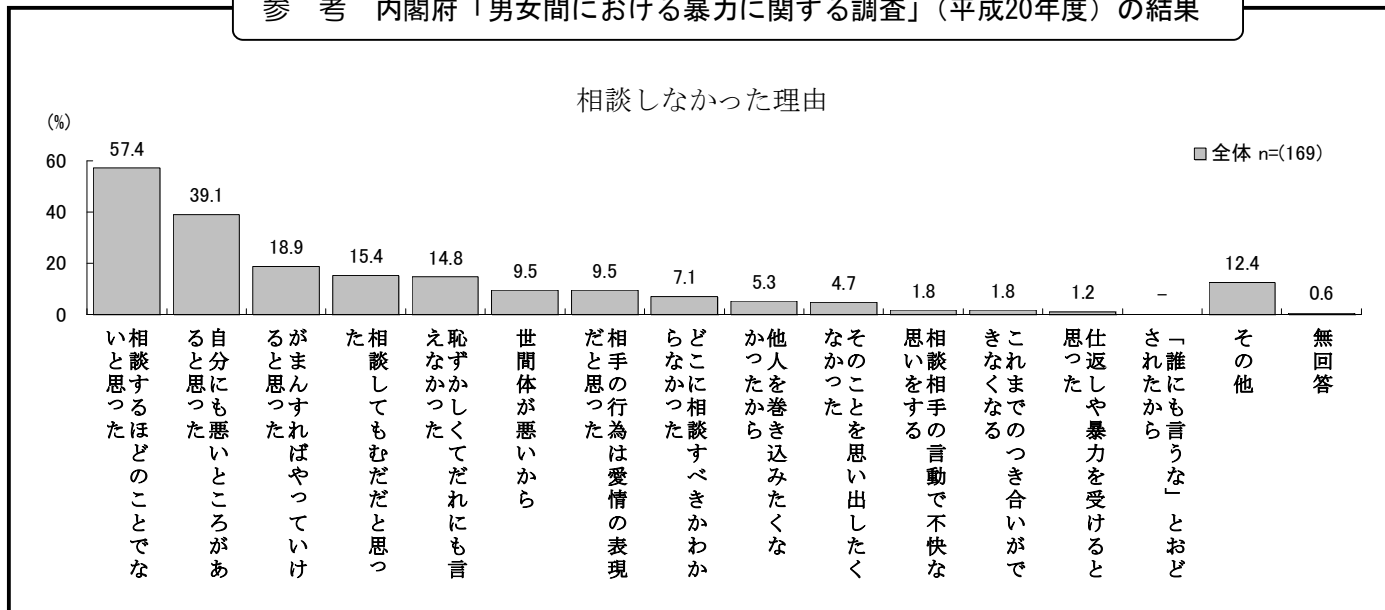
回っている。一方、「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」と「自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思ったから」で、女性が9ポイント上回っている。(図表5-28)

平成18年調査と比較すると、女性では「他人を巻き込みたくないから」(平成21年12.1%、平成18年4.0%)が8ポイント、「自分に悪いところがあると思ったから」(平成21年21.2%、平成18年16.2%)が5ポイント増加している。男性では「相談しても無駄だと思ったから」(平成21年15.2%、平成18年26.2%)が11ポイント、「思い出したくないから」(平成21年1.5%、平成18年11.5%)が10ポイント、それぞれ減少している。(図表5-29)

図表5-29 相談できなかった理由(平成18年調査との比較)



参 考 内閣府「男女間における暴力に関する調査」(平成20年度)の結果



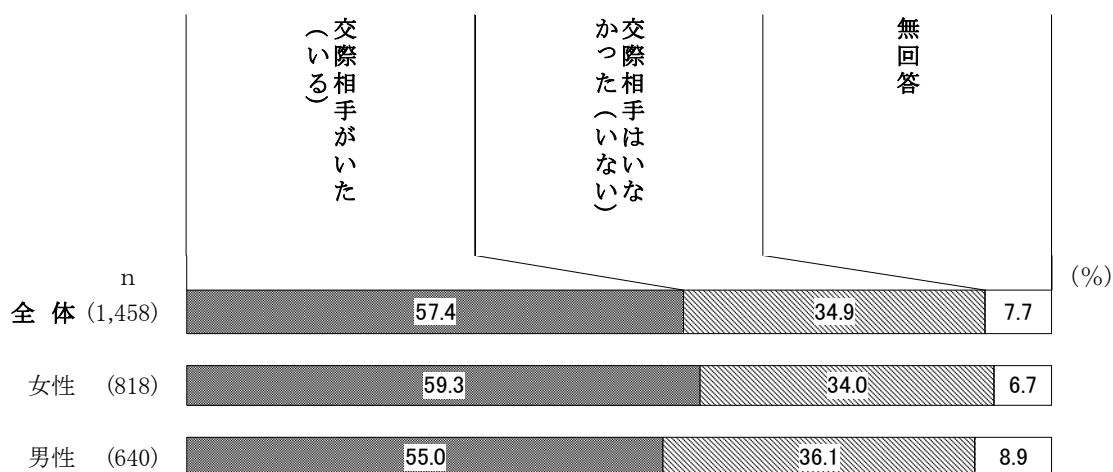
(13) 10歳代、20歳代における交際相手の有無

◎ 6割近くに「交際相手がいた（いる）」

問20 あなたの10歳代から20歳代の経験についてうかがいます。結婚している方、結婚したことのある方については、結婚前についてお答えください。

あなたには、その当時、交際相手がいましたか。結婚している方、結婚したことのある方については、後に配偶者となった相手以外についてお答えください。(○は1つ)

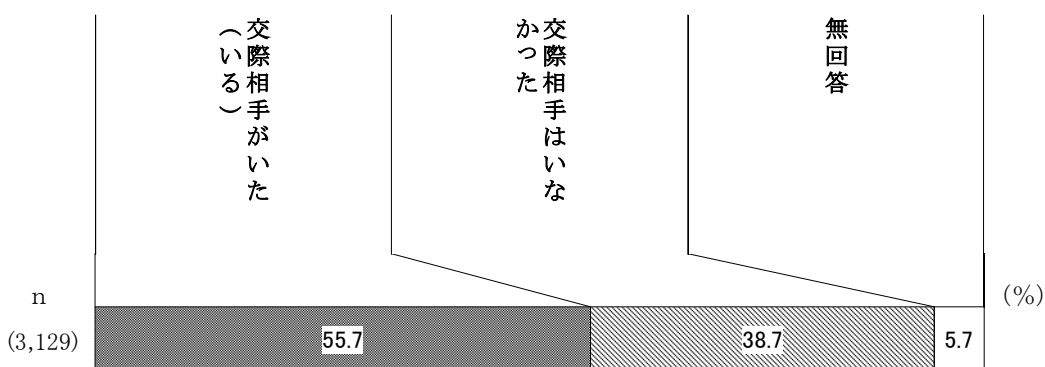
図表5-30 10歳代、20歳代における交際相手の有無



10～20歳代のときに交際相手がいたかどうかという問いには、「交際相手がいた（いる）」(57.4%)が6割近くになっている。性別でみると、「交際相手がいた（いる）」(女性59.3%、男性55.0%)は女性が男性を4ポイント上回っている。(図表5-30)

参考 内閣府「男女間における暴力に関する調査」(平成20年度)の結果

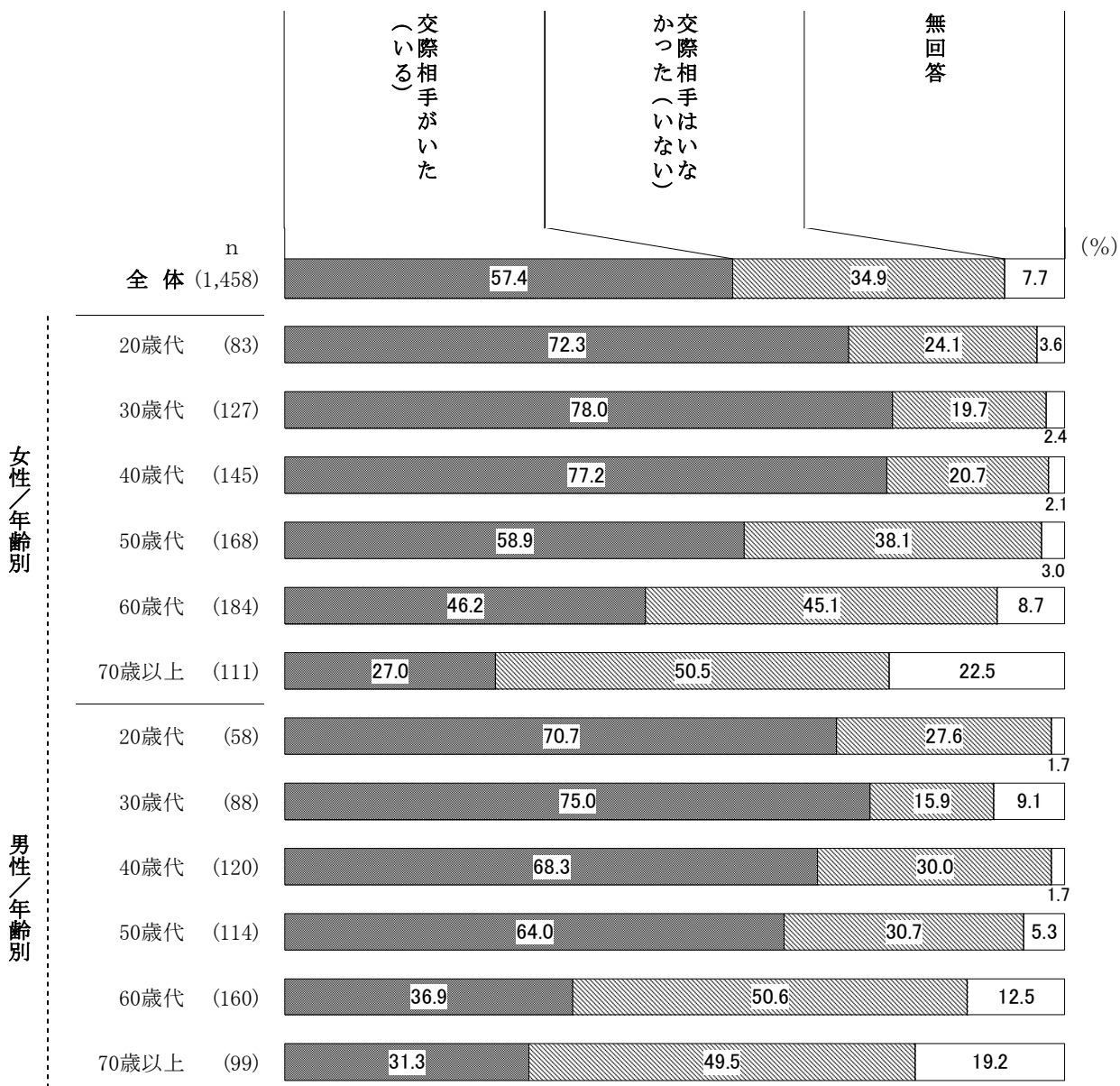
10歳代から20歳代の頃の交際相手の有無



第IV章 調査の結果

性／年齢別で見ると、「交際相手がいた（いる）」は女性では30～40歳代で7割台半ばを超え、20歳代でも7割を超える。一方、70歳以上では3割未満となっている。男性でも30歳代で最も高く7割台半ばで、20歳代で7割、40～50歳代で6割を超える。一方、60歳代と70歳以上は3割台となっている。
 (図表5-31)

図表5-31 10歳代、20歳代における交際相手の有無（性／年齢別）

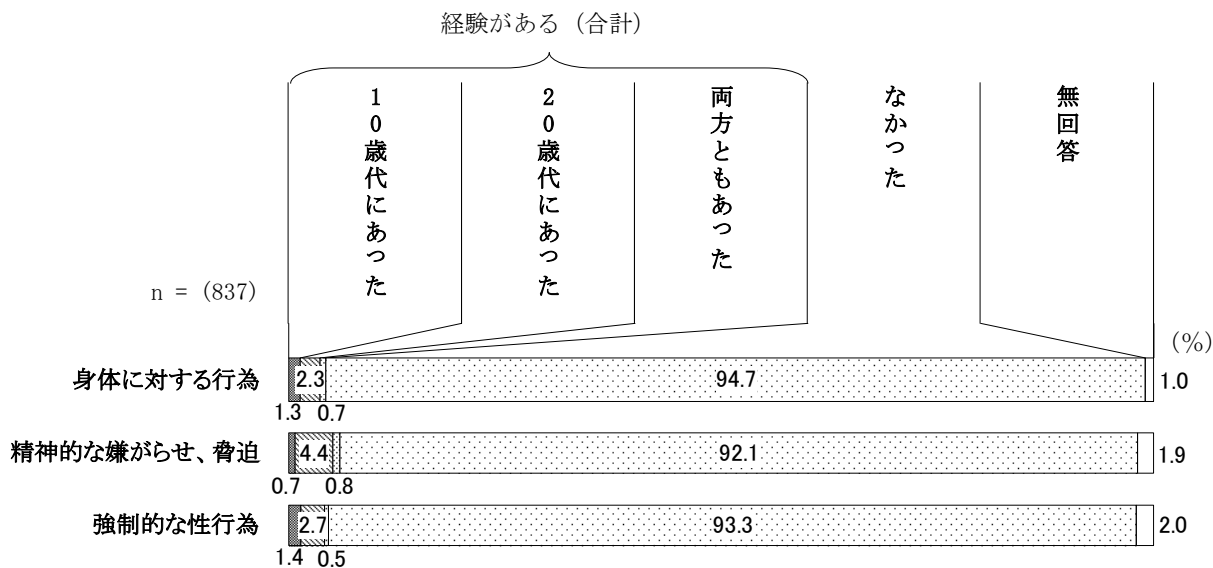


(14) 交際相手からの被害経験

◎ 3つの行為のうち、いずれか1つでも受けたことが「10～20歳代にあった」という女性は、8人に1人となっている

(問20で「1. 交際相手がいた (いる)」とお答えの方にうかがいます)
 問20-1 あなたは、10歳代、20歳代に、交際相手から次のようなことをされたことがありますか。(それぞれについて該当する「1～4」に○を1つ)

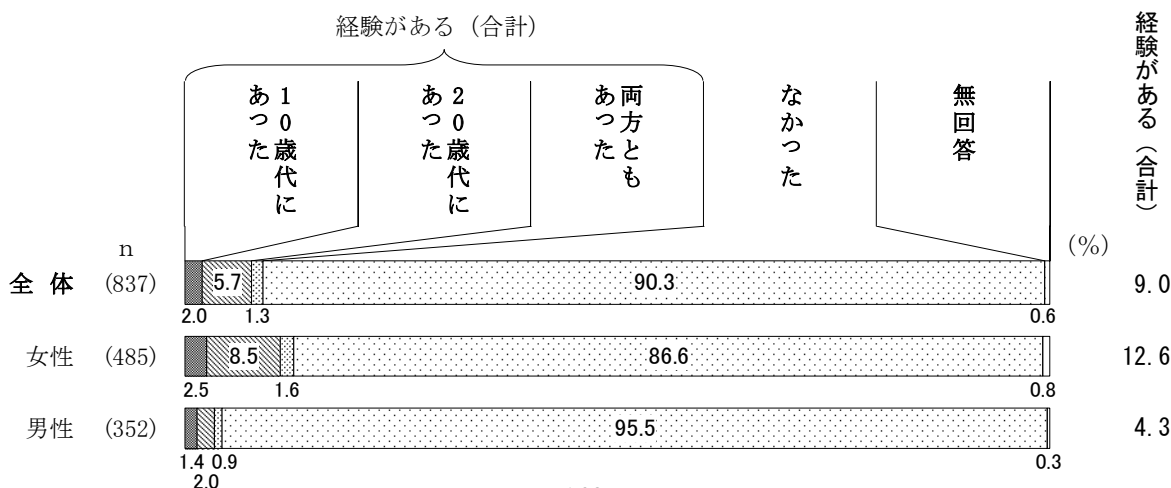
図表5-32 交際相手からの被害経験



行為	略称
なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する行為を受けた	身体に対する行為
人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、あなたもしくはあなたの家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた	精神的な嫌がらせ、脅迫
いやがっているのに、性的な行為を強要された	強制的な性行為

10～20歳代のときに交際相手から3つの行為の被害を受けたかどうかでは、「10歳代にあった」、「20歳代にあった」、「両方ともあった」を合わせた《経験がある (合計)》は、【精神的な嫌がらせ、脅迫】(5.9%)が20人に1人の割合となっている。(図表5-32)

図表5-33 交際相手からの被害経験のまとめ (何らかの被害経験の有無)



第IV章 調査の結果

3つの行為のうち、何らかの被害経験がある人をまとめたところ、《経験がある（合計）》人は、全体（9.0%）で約1割、女性（12.6%）では1割強となっている。（図表5-33）

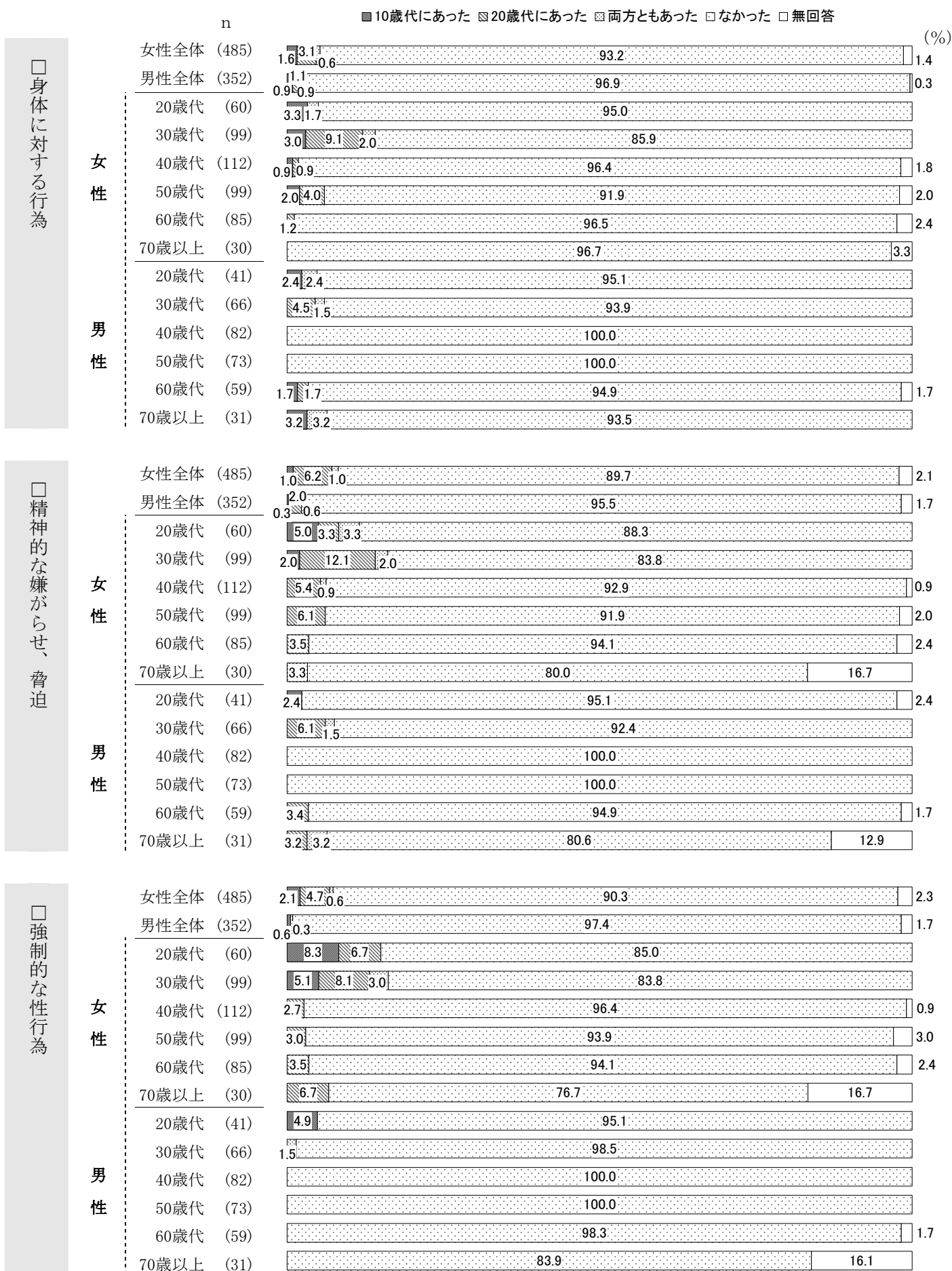
3つの行為の被害経験について、性別でみると、《経験がある（合計）》は、【身体に対する行為】（女性5.3%、男性2.9%）で2ポイント、【精神的な嫌がらせ、脅迫】（女性8.2%、男性2.9%）で5ポイント、【強制的な性行為】（女性7.4%、男性0.9%）で6ポイント、それぞれ女性が男性を上回っている。（図表5-34）

性／年齢別でみると、【身体に対する行為】が《経験がある（合計）》のは、女性では30歳代で14.1%が最も高く、次いで50歳代で6%である。男性では70歳以上で6.4%、30歳代で6%となっている。

【精神的な嫌がらせ、脅迫】が《経験がある（合計）》のは、女性では30歳代で16.1%が最も高く、ついで20歳代で11.6%となっている。男性では30歳代で7.6%が最も高く、70歳以上で6.4%となっている。

【強制的な性行為】が《経験がある（合計）》のは、女性では30歳代で16.2%が最も高く、ついで20歳代で15%となっている。男性では20歳代で4.9%が最も高くなっている。（図表5-34）

図表5-34 交際相手からの被害経験（性別・性／年齢別）

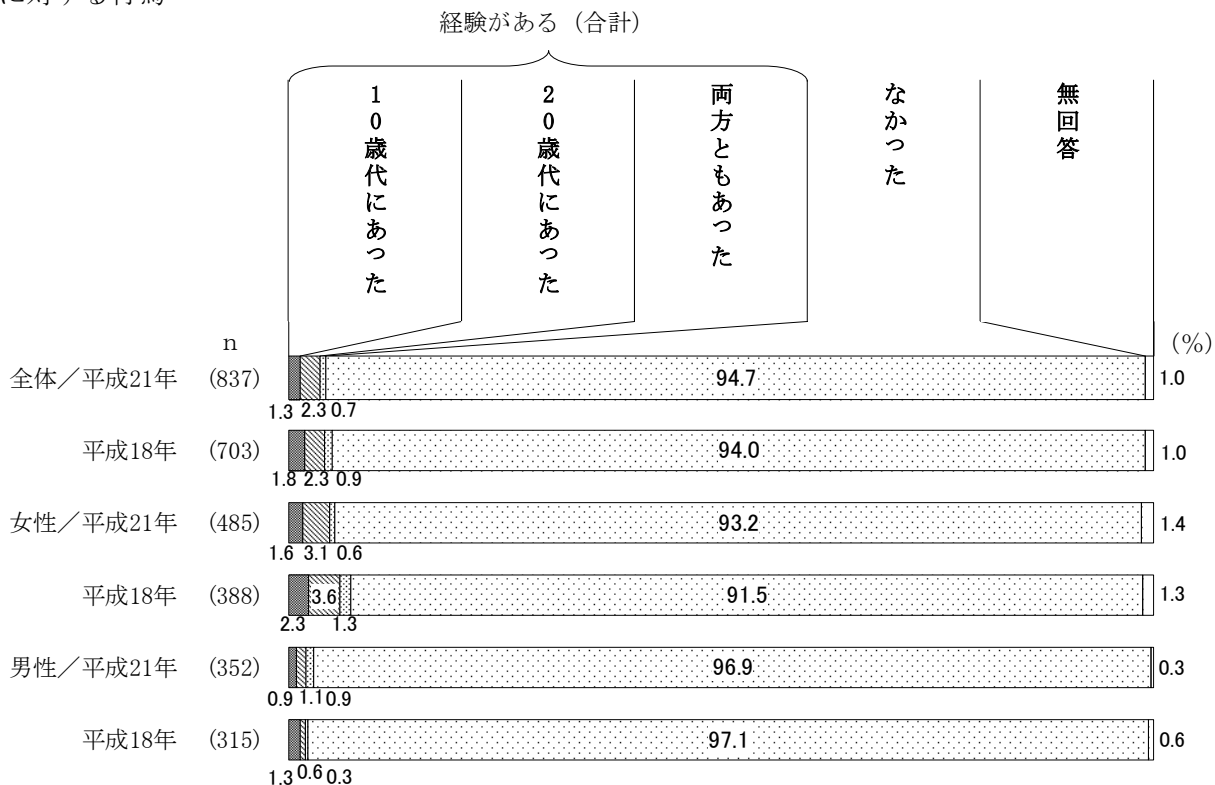


第IV章 調査の結果

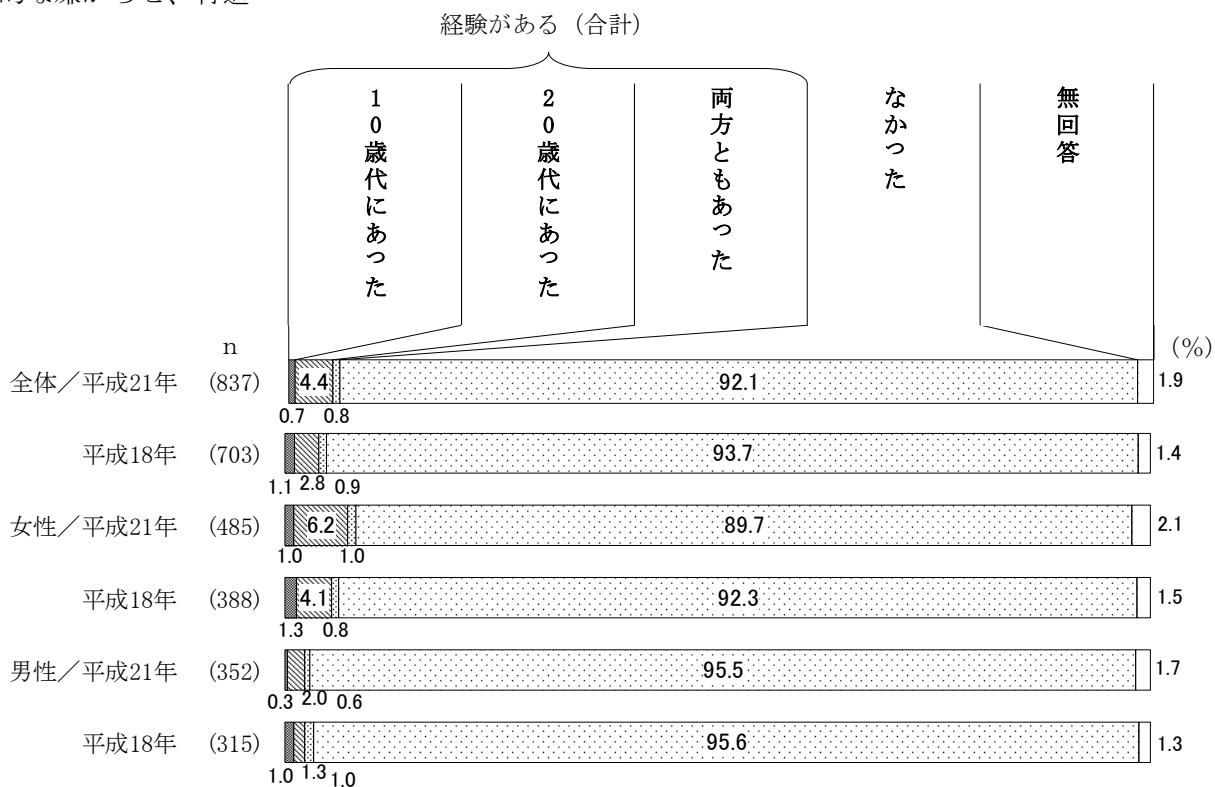
平成18年調査と比較すると、《経験がある（合計）》は、女性では【身体に対する行為】で減少しているが、【精神的な嫌がらせ、脅迫】と【強制的な性行為】では増加している。男性では【精神的な嫌がらせ、脅迫】で減少しているが、【身体に対する行為】で増加している。（図表5-35）

図表5-35 交際相手からの被害経験（平成18年調査との比較）

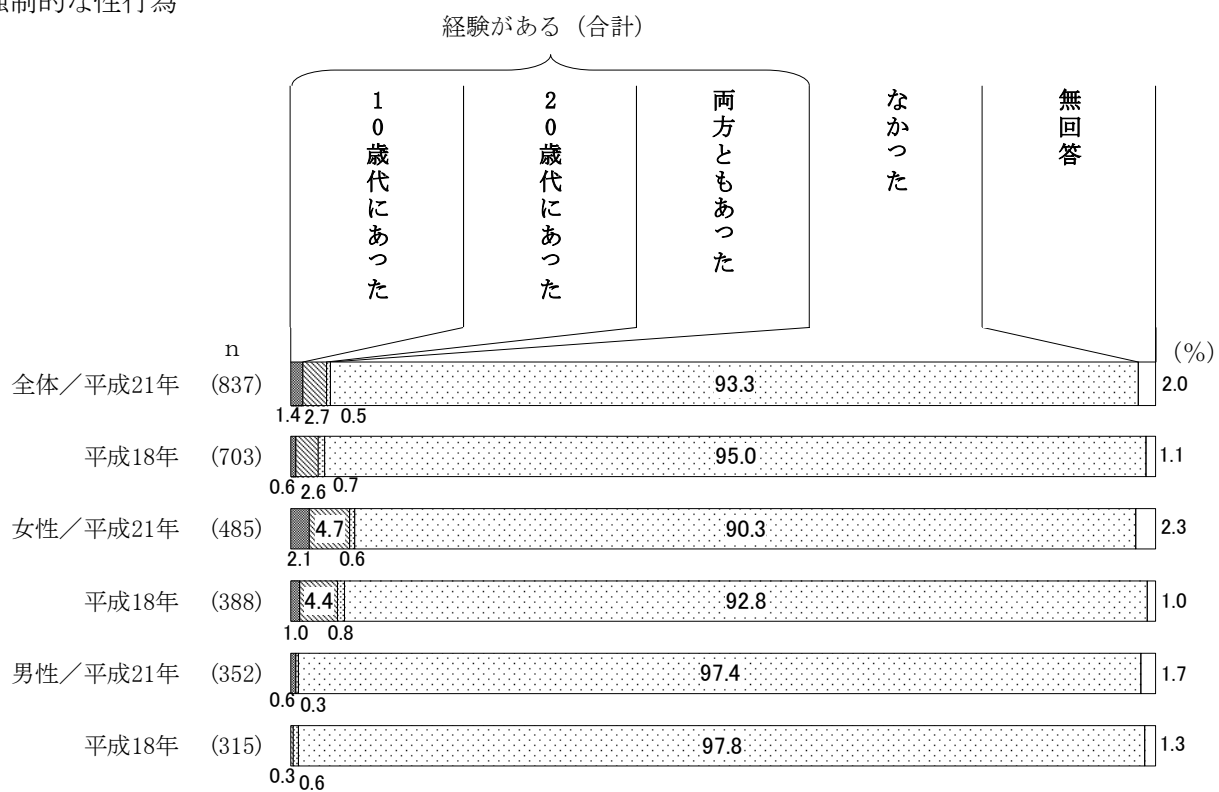
□身体に対する行為



□精神的な嫌がらせ、脅迫



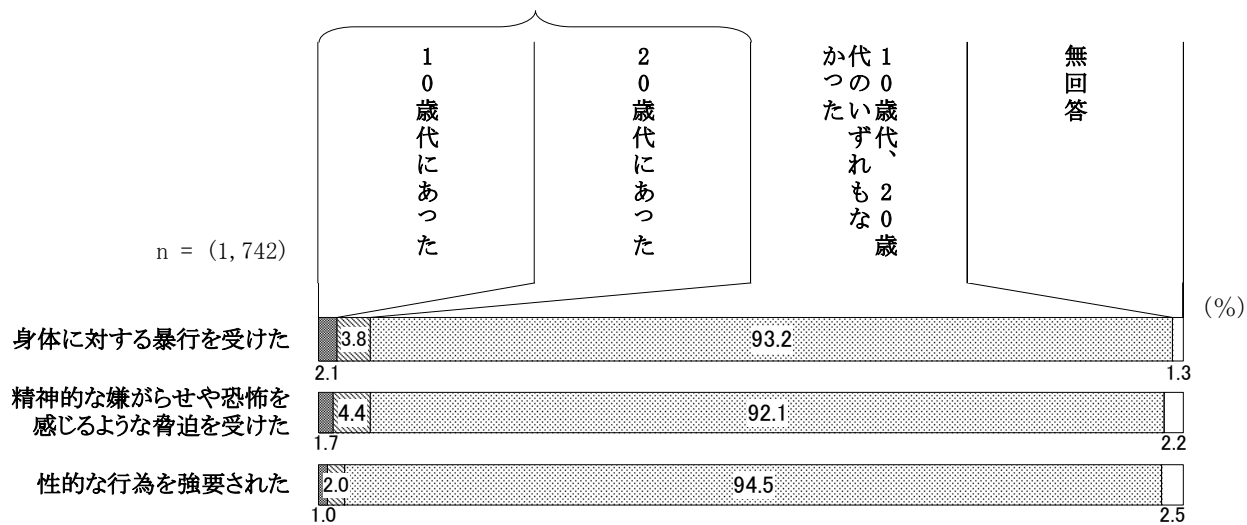
□強制的な性行為



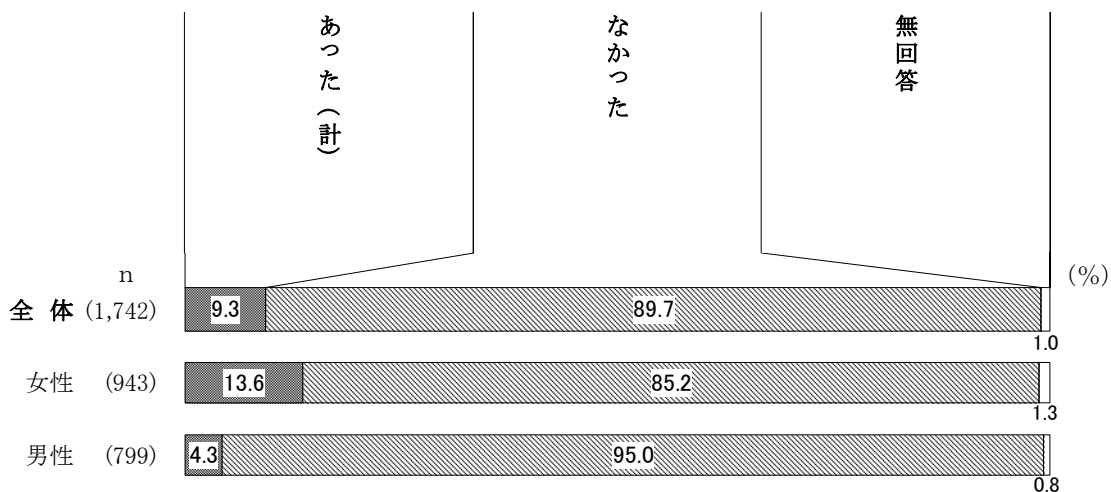
参 考 内閣府「男女間における暴力に関する調査」(平成20年度)の結果

交際相手からの被害経験

経験がある(合計)



まとめ



(15) 相談した相手

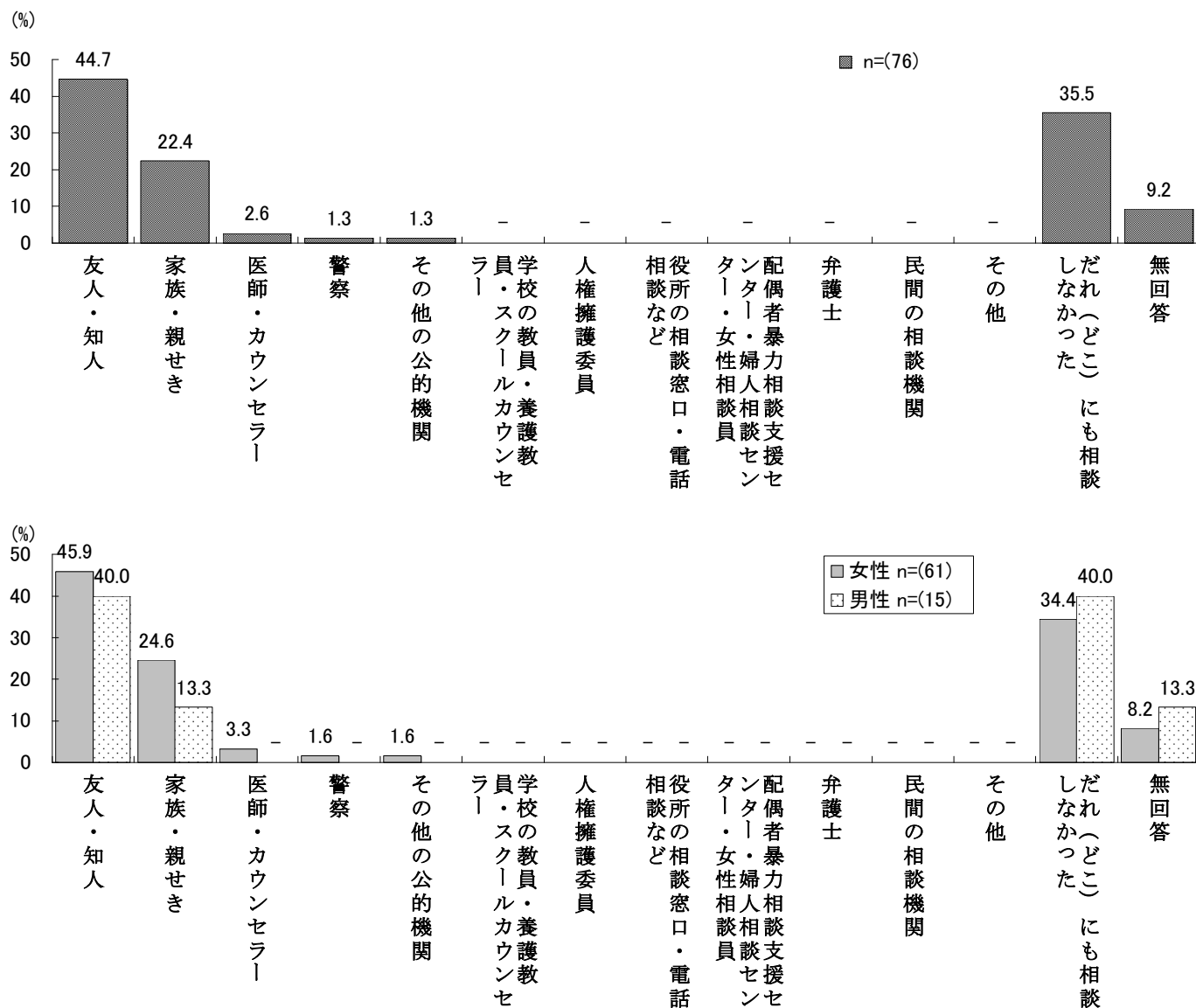
◎ 相談先は、身近な人が多く、「だれ（どこ）にも相談しなかった」は3割台半ば

新規調査

（問20-1で、1つでも「1. 10歳代にあった」「2. 20歳代にあった」「3. 両方ともあった」とお答えの方にかがいます）

問20-2 あなたが相談した人（場所）を教えてください。（〇はいくつでも）

図表5-36 相談した相手



相談先として、「友人・知人」(44.7%)、「家族・親せき」(22.4%)で身近な人への相談が多くなっている。一方、「だれ（どこ）にも相談しなかった」(35.5%)は3割台半ばとなっている。

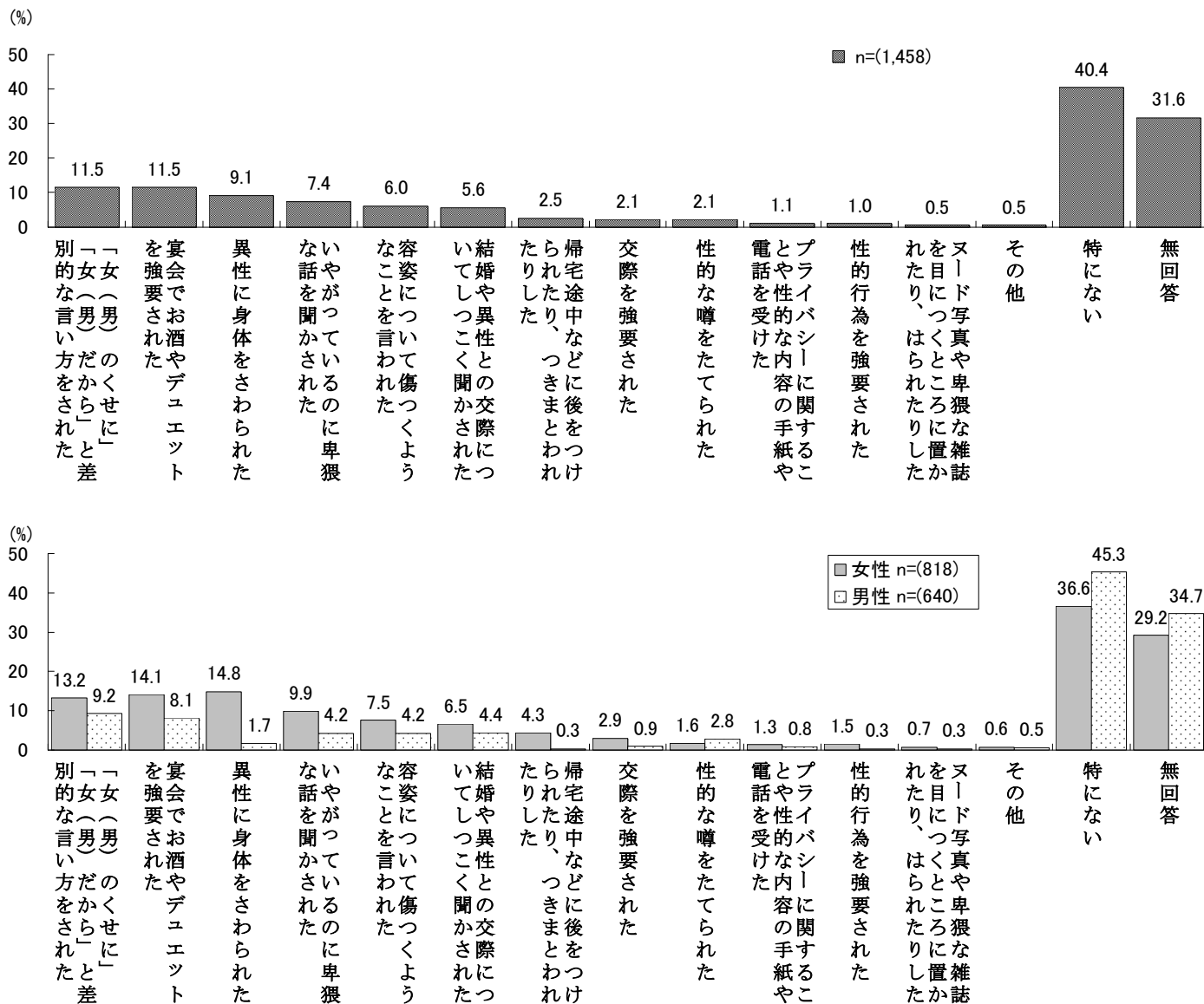
性別でみると、男性の回答者数が少ないものの、「友人・知人」(女性45.9%、男性40.0%)は男女ともに4割を超え、「家族・親せき」(女性24.6%、男性13.3%)は女性で2割を超えている。(図表5-36)

(16) 不愉快な経験の有無

◎ 【職場】で「『女（男）のくせに』『女（男）だから』と差別的な言い方をされた」と「宴会でお酒やデュエットを強要された」が最も多い

問21 あなたはこれまでに、職場・学校・地域で、次のような不愉快な経験をしたことがありますか。職場、学校、地域ごとに、該当するものすべてに○をつけてください。

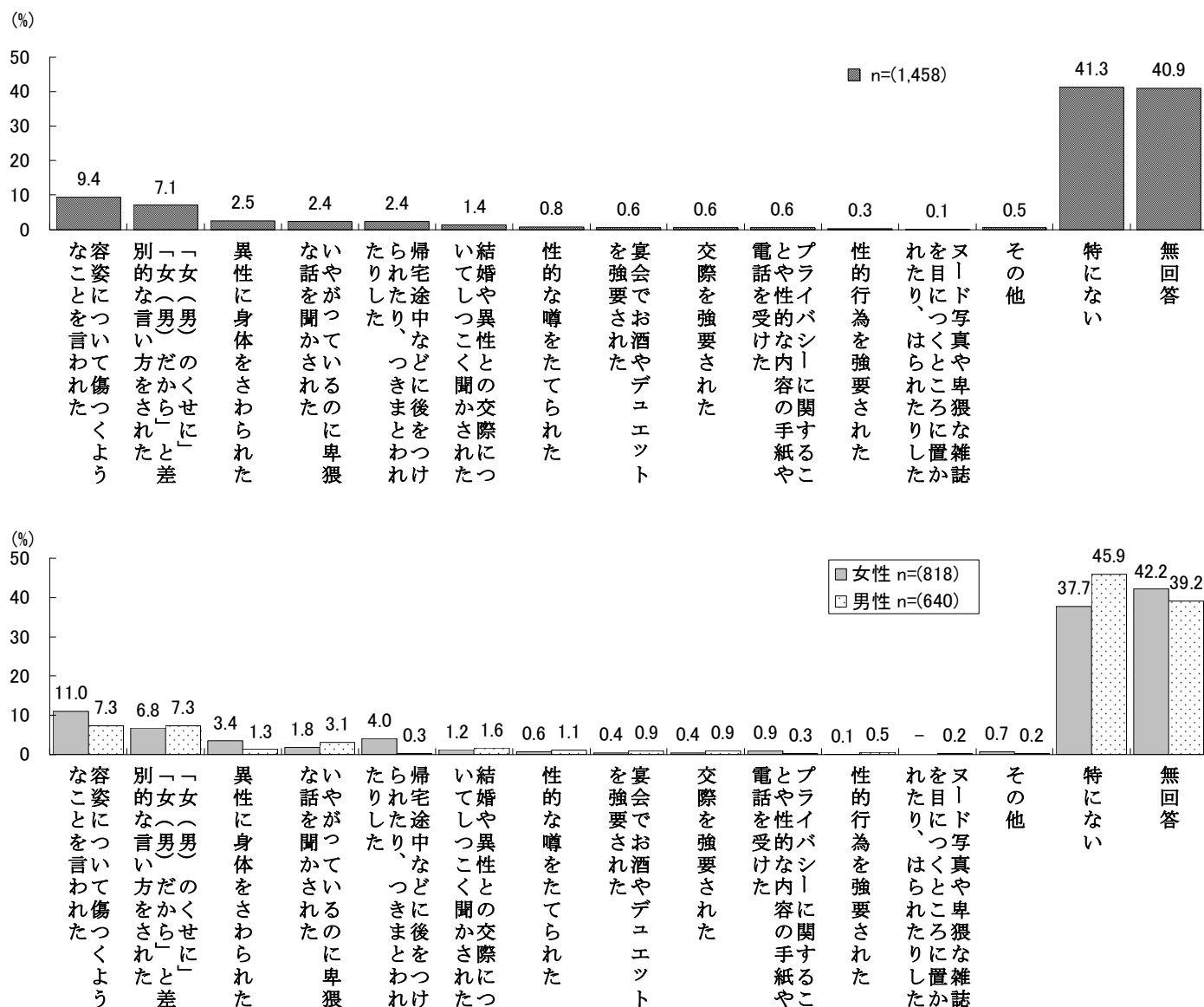
図表5-37 不愉快な経験の有無【職場】



3つの領域での不愉快な経験の有無を聞いたところ、【職場】では「『女（男）のくせに』『女（男）だから』と差別的な言い方をされた」と「宴会でお酒やデュエットを強要された」がともに11.5%で多く、「異性に体をさわられた」(9.1%)が約1割となっている。

性別でみると、ほとんどの項目で女性が男性を上回っており、「宴会でお酒やデュエットを強要された」(女性14.1%、男性8.1%)で6ポイント、「異性に体をさわられた」(女性14.8%、男性1.7%)で13ポイント、「いやがっているのに卑猥な話を聞かされた」(女性9.9%、男性4.2%)で5ポイントの差となっている。(図表5-37)

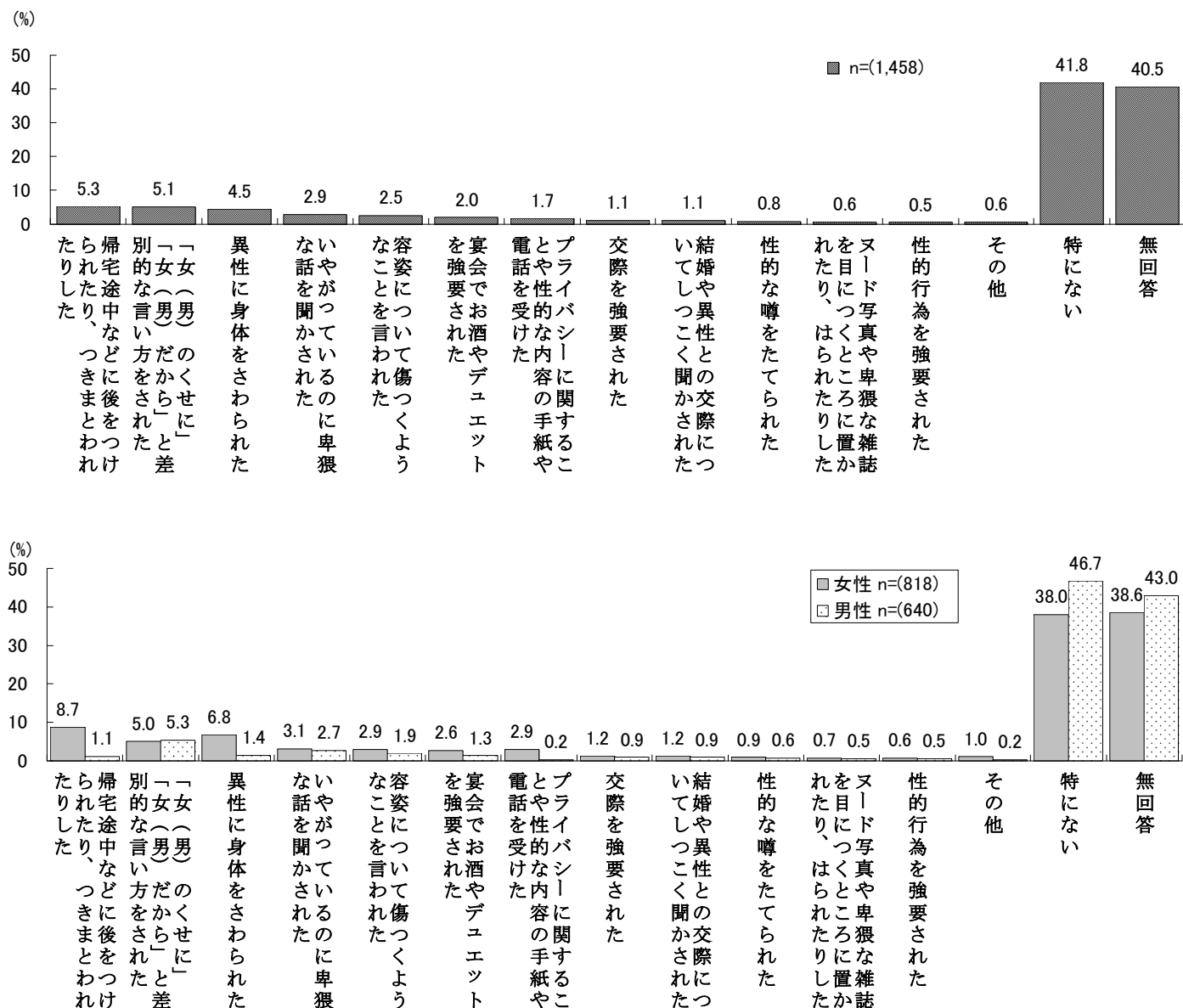
図表5-38 不愉快な経験の有無【学校】



【学校】では「容姿について傷つくようなことを言われた」が9.4%で最も多く、『女(男)のくせに』『女(男)だから』と差別的な言い方をされた」が7.1%となっている。

性別でみると、「容姿について傷つくようなことを言われた」(女性11.0%、男性7.3%)と「帰宅途中などに後をつけられたり、つきまとわれたりした」(女性4.0%、男性0.3%)でともに3ポイント、女性が男性を上回っている。(図表5-38)

図表 5-39 不愉快な経験の有無【地域】

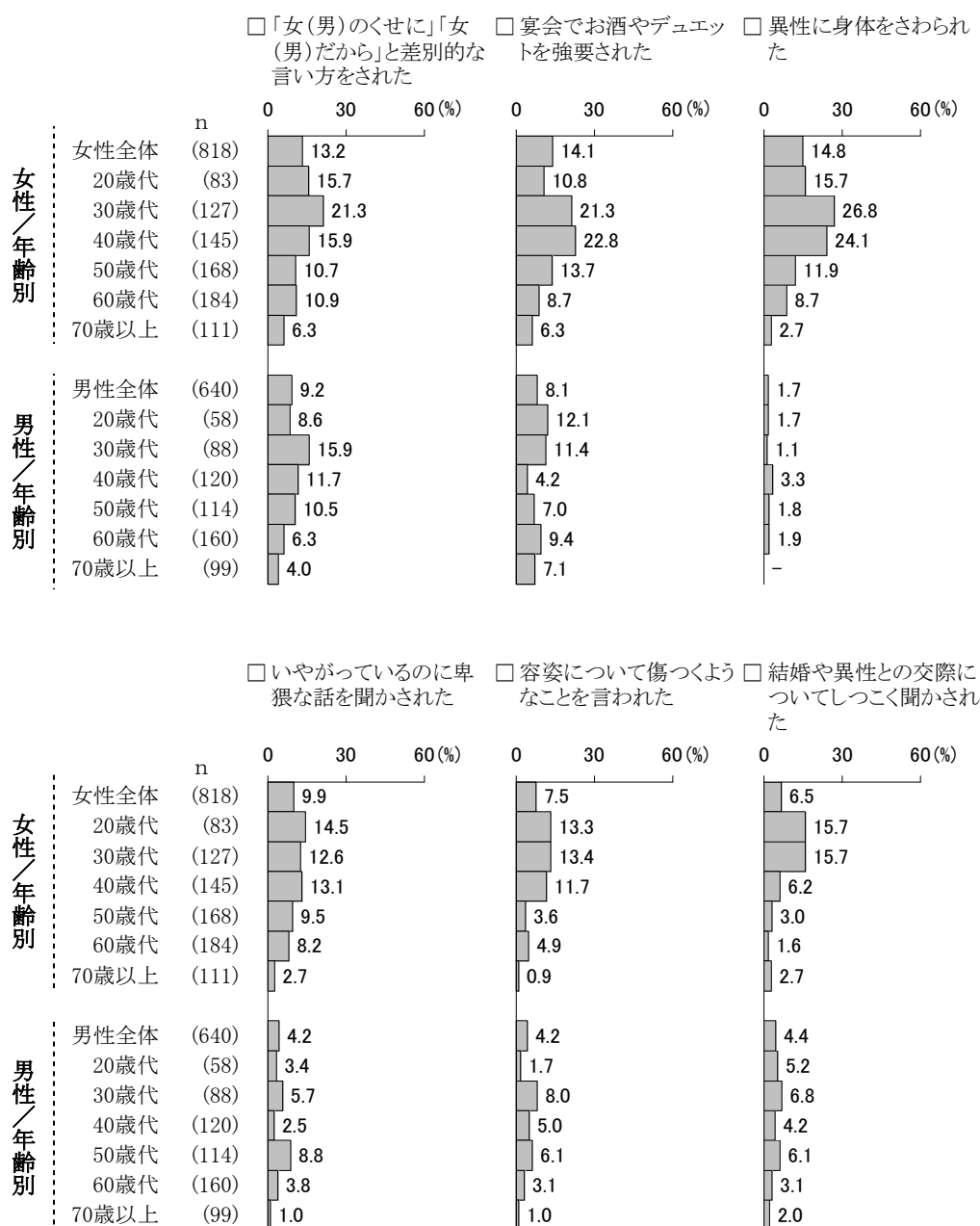


【地域】では「帰宅途中などに後をつけられたり、つきまとわれたりした」が5.3%、「『女(男)のくせに』『女(男)だから』と差別的な言い方をされた」が5.1%、「異性に身体をさわられた」が4.5%となっている。

性別でみると、「帰宅途中などに後をつけられたり、つきまとわれたりした」(女性8.7%、男性1.1%)で7ポイント、「異性に身体をさわられた」(女性6.8%、男性1.4%)で5ポイント、それぞれ女性が男性を上回っている。(図表 5-39)

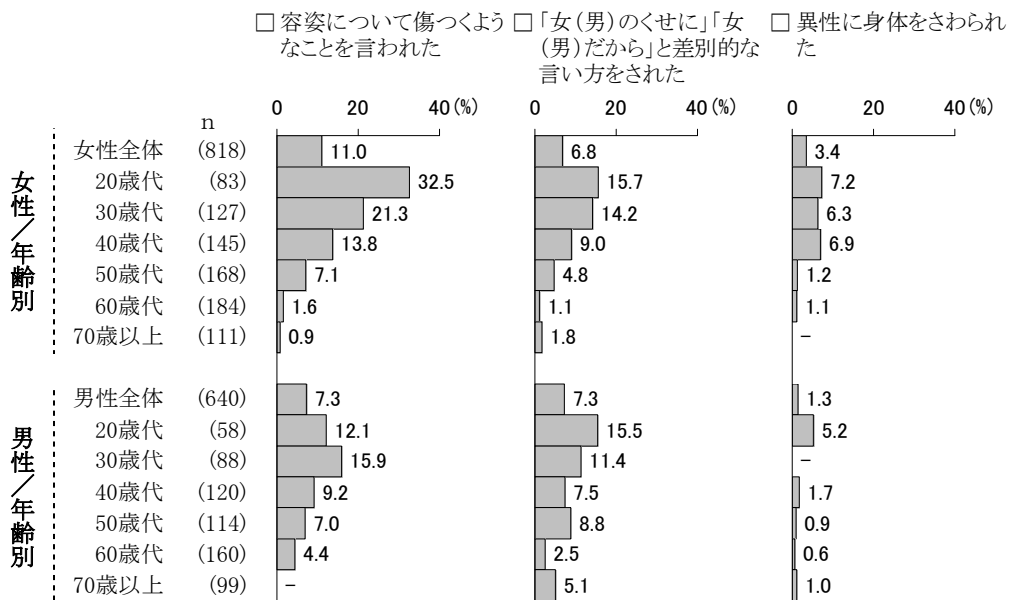
性／年齢別でみると、【職場】は『女（男）のくせに』『女（男）だから』と差別的な言い方をされた」では女性の30歳代が2割強、男性の30歳代で1割台半ばとなっている。「宴会でお酒やデュエットを強要された」で女性の30～40歳代が2割強、男性の20～30歳代が1割を超えている。「異性に体をさわられた」で女性の30～40歳代が2割を超えているが、男性ではどの年代も1割に満たない。「いやがっているのに卑猥な話を聞かされた」では女性の20～40歳代で1割を超えている。「容姿について傷つくようなことを言われた」では女性の20～40歳代で1割を超えている。「結婚や異性との交際についてしつこく聞かされた」では女性の20～30歳代で1割台半ばを超えている。（図表5－40）

図表5－40 不愉快な経験の有無【職場】（性／年齢別、上位6項目）



【学校】は「容姿について傷つくようなことを言われた」で女性では20歳代が3割強、30歳で2割を超える。男性では30歳代が1割台半ばとなっている。『女（男）のくせに』『女（男）だから』と差別的な言い方をされた」では男女ともに20歳代で1割台半ば、30歳代でも1割を超えている。（図表5-41）

図表5-41 不愉快な経験の有無【学校】（性／年齢別、上位3項目）



【地域】は「帰宅途中などに後をつけられたり、つきまとわれたりした」では女性の20歳代が2割近く、30歳代で1割を超えている。『女（男）のくせに』『女（男）だから』と差別的な言い方をされた」で男性の20歳代で1割近くなっている。「異性に体をさわられた」では女性の30歳代で1割弱、20歳代で1割近くなっている。（図表5-42）

図表5-42 不愉快な経験の有無【地域】（性／年齢別、上位3項目）

